

ゼネラル テクニカル ルール
(G T R)

日経技術規則(2018)

章

6.1	通則
6.2	安全
6.3	標的および標的基準
6.4	射場とその他設備
6.5	ゲージと測定器具
6.6	選手権大会の運営管理
6.7	競技用衣服および装備
6.8	競技ジュリーの任務と職務
6.9	組織委員会の任命する競技役員
6.10	競技会におけるEST操作
6.11	競技会手順
6.12	選手およびチーム役員の行動ルール
6.13	故障
6.14	採点と成績手順
6.15	同点の順位決定（タイブレイク）
6.16	抗議（プロテスト）と上訴（アペール）
6.17	オリンピックのライフルおよびピストル種目のファイナル
6.18	エアライフルおよびエアピストルミックスチーム種目
6.19	書類様式
6.20	ISSFドレスコード
6.21	索引
付則	紙標的に関するルール
	1 紙標的および採点ゲージ
	2 射場および射座の備品
	3 競技役員の任務
	4 競技手順
	5 採点手順
	6 300m種目の採点および示点手順

ルール番号

すべてのISSFルールはルール番号手順により4段階の番号（例：6.10.3.5）を限度に番号付けられている。これらのルールに5番目のレベルが必要な場合はa）、b）、c）等です。

※については国内適用規定も参照のこと。

追は、国内適用のために追加した項目であり、国内適用規定を参照のこと。

定義と略号

以下はISSFゼネラルテクニカルルールとISSFライフル、ピストルルールに使われている特殊単語と略号の定義である。

単語	定義
選手 (Athletes)	スポーツ競技会の競技者または参加者。射撃スポーツにおける競技者は時には射手と呼ばれる。
Bib 番号/スタート番号 (Bib Number/Start Number)	選手権大会に参加するそれぞれの選手には特有の Bib またはスタート番号が発給される。この番号は選手の確認や追跡に使用され、練習や試合の時に選手の背中に付けられていなければならない。
選手権大会 (Championship)	複数の種目がプログラムされた1つの射撃競技大会。ISSFルールの適用、テクニカルデレゲートとジュリーの派遣、アンチドーピング検査の実施によってISSFからの認定と監督を受けた大会は特に大文字のCを使って表す。
審査 (Classification)	以前のISSFルールブックで使われていた「採点、計時、成績」に対応する用語。「RTS」の項を参照。
競技会 (Competition)	複数種目の選手権大会を含むスポーツ競技会または単独種目による大会。
射撃コース (Course of Fire)	種目の中の競技ステージの種類の一つ。各シリーズやステージにおける発射弾数、撃発のしかたや制限時間によって特徴づけられる。
CRO	Chief Range Officer : 射場長
種目 (Discipline)	種目 (Event) の共通的特徴で分けたグループ。射撃は4種類 (ライフル、ピストル、ショットガン、ランニングターゲット) の種目 (Discipline) から構成される。
EST	Electronic Scoring Targets : 電子標的
種目 (Event)	個別の進行方法とルールにより行われる特定の射撃種目。ISSFでは他にも個人・団体、少年などの年齢別を含め多くの種目を公認している。
ファイナル (Final)	ファイナルとはオリンピック実施種目の最終競技ステージのことである。ファイナルでは、本選上位6または8名の選手が最終順位決定のために新しい(0点から始まる) 競技を行う。
FOP	Field Of Play : 競技場 射撃において、FOPとは射撃線の後の競技中の選手への接近が制限される射座と競技役員が勤務をするエリアおよび射撃線から前の標的やバックストップまでの射場がそれに相当する。
本射 (MATCH Shots)	選手の得点として採点または記録される射撃弾
メダルマッチ (Medal Match)	10mランニングターゲット60発および40発種目では上位4選手の最終順位を決定するためのメダルマッチ戦が行われる。
Min.	分 (Minute、Minuts)
オリンピック種目 (Olympic Event)	オリンピック大会のプログラムに含まれる国際オリンピック委員会に承諾された射撃種目。射撃では15種目ある。各オリンピック種目は本選とファイナルで行われる。
PET	競技前練習 (Pre-Event Training)

RTS	成績 (Results)、計時 (Timing) と採点 (Scoring)。RTS の過程は競技実施の一部であり、そこには射座割表の準備、標的の採点、減点等の適用および成績表の準備と配布が含まれる。
ラウンド (Round)	射撃種目における競技場面。射撃種目は予選ラウンド、本選ラウンド、ファイナルに場面分けされる。ショットガン種目では25標的シリーズの事を「ラウンド」と呼ぶこともある。
Sec.	秒 (Second、Seconds)
シリーズ (Series)	射撃ステージや射撃コースの中での射撃順序。多くの射撃種目は10発シリーズで構成される。25mピストル種目では5発シリーズで構成される。
試射 (Sighting Shots)	射撃種目において、本射に先立って撃たれる練習またはウォームアップのための射撃弾
スポーツ (Sport)	共通の要素と一つの団体が統括するという事で区別される競技のこと。射撃は選手が銃で標的を撃ち、その得点で順位を競うという“スポーツ”である。IOCは射撃を夏季オリンピック大会における28の実施スポーツの1つとして認めている。
スポーツプレゼンテーション (Sports Presentation)	観客やテレビ視聴者に更なる興味と情報を持ってもらうために、射撃種目の運営の中で使用されるアナウンス、音楽、試合分析、選手情報および教育的メディアのような映像、音響および情報提供。
射座割 (Squadding)	ライフルおよびピストル種目に参加した選手の射群および射座の割り振りまたはショットガン種目での射群への選手の割り振り。この過程を経て射座割表が作られる。
ステージ (Stage)	射撃コースの中の一場面または一部分。ライフルの三姿勢種目はそれぞれの射撃姿勢の3つのステージから構成され、25mピストルでは精密射撃と速射の2つのステージから構成される。
射座割表 (Start List)	競技大会中に作られる各種目に参加する選手の射群、射座または射群と射群における射順に関する公式書類。
開始時刻 (Start Time)	開始時刻は各射撃種目において本射の開始を告げる号令がかけられる時刻。
団体種目 (Team Events)	ISSFは世界選手権大会で行われる団体種目を承認している。団体種目は個人種目に参加する3人の選手の得点の合計点を基にして順位付けされる。

ISSF承認射撃種目

この表はISSF承認射撃種目の一覧表であり、IOC（国際オリンピック委員会）やISSF総会によって、管理理事会によって承認された各競技種目における競技形式や撃発数に関する基本的技術的詳細と伴に承認されたステータスの一覧表である。

- ・ISSF選手権大会において、男子、少年男子、女子および少年女子の種目が個人戦のみとなるか個人戦と団体戦（3人）となるかは、その大会で定められた規定と競技予定による。
- ・ステータスは各種目に関して承認されたステータスを示している。
 - ・M=男子種目として承認されている種目
 - ・W=女子種目として承認されている種目
 - ・MJ=少年男子種目として承認されている種目
 - ・WJ=少年女子種目として承認されている種目
 - ・Olympic=オリンピック種目としてIOCに承認されている種目
 - ・WCH=世界選手権大会で実施必須の種目
 - ・WCHS=通常の世界選手権大会で実施できない場合、別開催の世界選手権大会として開催される別開催世界選手権大会の種目
 - ・オリンピック種目は本選とファイナルがあり、非オリンピック種目は本選のみでファイナルはない
 - ・すべてのISSF種目のテクニカルルールはゼネラルテクニカルルールおよびライフル、ピストルルールに記載されている
 - ・ライフルおよびピストル種目のファイナルのテクニカルルールは6.17に記載されている
 - ・ミックスチーム種目のテクニカルルールは6.18に記載されている。

男子および少年男子の種目				
種目名	略号	ステータス	本選	ファイナル
10mエアライフル（立射）	AR60	M、MJ、Olympic、WCH	60発	24発（最多）
50mライフル三姿勢（膝射、伏射、立射）	FR3×40	M、MJ、Olympic、WCH	3×40発	3×15発（最多）
50mライフル伏射	FR60PR	M、MJ、WCH	60発	
300mライフル三姿勢（膝射、伏射、立射）	300FR3×40	M、WCHS	3×40発	
300mスタンダードライフル三姿勢（膝射、伏射、立射）	300STR3×20	M、WCHS	3×20発	
300mライフル伏射	300FR60PR	M、WCHS	60発	
10mエアピストル	AP60	M、MJ、Olympic、WCH	60発	24発（最多）
25mラピッドファイアピストル（8、6、4秒）	RFP	M、MJ、Olympic、WCH	30+30発	8×5発（最多）

射シリーズ)				
25mスタンダードピストル(150, 20, 10秒射シリーズ)	STP	M、MJ、WCH	20+20+20発	
25mセンターファイアピストル(精密および速射シリーズ)	CFP	Mのみ、WCH	30+30発	
25mピストル(精密および速射シリーズ)	SPM	MJのみ、WCH	30+30発	
50mピストル	FP	M、MJ、WCH	60発	

女子および少年女子の種目

種目名	略号	ステータス	本選	ファイナル
10mエアライフル(立射)	AR60W	W、WJ、Olympic、WCH	60発	24発(最多)
50mライフル三姿勢(膝射、伏射、立射)	R3x40	W、WJ、Olympic、WCH	3x40発	3x15発(最多)
50mライフル伏射	R60PR	W、WJ、WCH	60発	
300mライフル三姿勢(膝射、伏射、立射)	300R3x40	W、WCHS	3x40発	
300mライフル伏射	300R60PR	W、WCHS	60発	
10mエアピストル	AP60W	W、WJ、Olympic、WCH	60発	24発(最多)
25mピストル(精密および速射シリーズ)	SP	W、WJ、Olympic、WCH	30+30発	10x5発(最多)

男女2名によるミックスチーム種目

種目名	略号	ステータス	本選	ファイナル
10mエアライフル(立射)	ARMIX	M、W、MJ、WJ、Olympic、WCH	40+40発	2x24発(エリミネーションは17発目より後に始まる)
10mエアピストル	APMIX	M、W、MJ、WJ、Olympic、WCH	40+40発	24発エリミネーションは17発目より後に始まる)

この他のミックスチーム種目は執行委員会の承認の下ISSF選手権大会で実施することができる。

※6.1

通則

6.1.1

ISSFルール目標と目的

ISSFはISSFの認可を受けて行われる射撃競技を監督統括する目的でテクニカルルールを制定している(GR3.3)。ISSFテクニカルルールは全世界における射撃競技の運営の統一を確立することにより、射撃スポーツの発展を促進することを目的とする。

- a) ISSFゼネラルテクニカルルール(GTR)は射場基準、標的規格、採点手順およびすべての射撃種目における具体的な競技手順を含む。種目別ルール(DR)はライフル、ピストル、ショットガン、ランニングターゲットの4つの射撃種目でそれぞれに適用される。
- b) GTRおよびDRはISSF憲章に従って運営理事会により認可される。
- c) GTRおよびDRよりISSF憲章およびGRが優先される。
- d) GTRおよびDRはオリンピック大会の翌年の1月1日より4年間有効となるように認可される。特別な場合を除いては、ISSFルールはこの4年間に変更されない。

※

6.1.2

GTRおよびDRの適用

- a) ISSF選手権大会とは、オリンピック、世界選手権、ワールドカップ、ワールドカップファイナル、大陸選手権、大陸大会、ジュニア世界選手権、ジュニアワールドカップでISSF GR3.2.1とこれらのルールに従い、ISSFの監督下で行われる、射撃スポーツ競技会のことである。
- b) ISSFは、理事会の承認を得て、試合管理のISSF基準(例えば、テクニカルデレゲート、ジュリー、ドーピングコントロール、参加手順、成績管理など)が満たされるその他の競技大会をMQS得点が獲得でき、世界記録が公認される競技大会として認定することができる。
- c) すべてのISSF選手権大会にはISSF GTRとDRによって運営されなければならない。
- d) ISSFは、ISSF選手権大会ではない地域、国内、その他の競技会であっても、ISSFの種目が含まれている場合、ISSFルールを適用し、それらによって運営すべきであることを推奨する。
- e) すべての競技役員、選手、コーチおよびチームリーダーはISSFルールを熟知し、ルールの効力を保証しなければならない。
- f) ルールに従うのは各選手の責任である。
- g) 右選手に適用されるルールは、左選手の場合、その逆が適用される。
- h) 男子種目または女子種目に特に適用されるルールの他は、双方に同等に適用されなければならない。
- i) 図表内に示される数値等は通番のルールに等しい効力を持つものとする。

6.1.3

TRの範囲

TRに含まれるものは:

- a) ISSF選手権大会の準備と組織に関するルール
- b) すべての射撃種目あるいは2つ以上の種目に適用されるルール(ゼネラルテクニカルルール)

c) 1つの射撃種目に適用されるルール（スペシャルテクニカルルール）

6.1.4 用具と服装の一律基準

射撃は、競技の性質上、用具や服装が重要な役割を果たすスポーツである。選手はISSFルールに合った用具と服装のみを使用しなければならない。他の選手よりも不当な有利を選手に与えるような銃、装置、用具、付属品またはその他の物およびそのような物でルールに言及されていない物またはISSFルールの精神に反する物の使用は禁止される。用具と服装に関するISSFルールは、他の選手よりも不当な有利を与えるような用具、服装またはアクセサリを使用するような選手がいないことを保証するために、厳格に守らせられる（6.7.9参照）。

6.1.5 ISSF選手権大会の組織と監督

6.1.5.1 ISSFによる監督 ISSF理事会は、ISSF憲章1.8.2.6およびGR3.4に従い、各ISSF選手権大会にISSFテクニカルデレゲート、ジュリー、技術役員を任命する。任命されるのは：

- a) テクニカルデレゲート
- b) 競技ジュリー
- c) 上訴ジュリー
- d) 公式成績作成員：エントリー、選手の成績、競技進行、成績表の提出、成績表の保管に必要な電子技術を提供し、操作する責任を持つ。

6.1.5.2 組織委員会 GR3.4.1に従って、各ISSF選手権大会では組織委員会が設置されなければならない。組織委員会は射撃競技会の準備、運営、管理に責任を持つ。組織委員会は次の役員を任命しなければならない。

- a) 射場長、射場役員：射撃種目の実際の運営、管理に責任をもつ。
- b) RTS長、RTS役員：エントリー、認定、選手権大会期間中の採点と成績作成に責任を持つ。
- c) 用具検査長、用具検査役員：用具検査の実施に責任を持つ。
- d) ISSF選手権大会の組織委員会として責任を果たすために必要なその他すべてのスタッフ。

6.2 安全

安全は最重要課題である。

6.2.1 安全通則

※6.2.1.1 ISSFルールはすべてのISSF選手権大会に適用されなければならない特別な安全要件を定めたものである。ISSFジュリーと組織委員会は安全に対する責任を負う。

6.2.1.2 射撃場に必要かつ要求される安全性はそれぞれの国で異なっているので、さらなる安全規定を組織委員会は定めることができる。ジュリー、射場役員、チーム役員および選手は競技会中の特別な安全について助言しなければならない。

※6.2.1.3 選手、射場役員および観衆に対する安全を期するために射場内での銃器の運搬、行動等には常時細心の注意を払わなければならない。銃の安全措置を守らせることは射場役員の義務であり、銃の安全措置と銃の取り扱いのルールの全てを適用させることは選手やチーム役員の義務である。

- 6.2.1.4 I S S Fは、射場内の他の人たちの安全に対して重大な恐れを起こすような選手に関する情報を適格な機関から得た場合、その選手の競技会への参加受け入れを拒否できる。
- 6.2.1.5 安全確保のためにはジュリーまたは射場役員はいつでも射撃を中止させることができる。選手やチーム役員は、危険な行為や事故につながる事態を発見した場合はただちに射場役員またはジュリー報告しなければならない。
- ※6.2.1.6 用具検査役員、射場役員またはジュリーは選手の用具(銃器を含む)を本人の許可なく本人の立会と認識のもとに手に取ることができる。しかしながら、安全の問題がかかわる時には、その行動は即座に取られなければならない。
- 6.2.2 **銃器取り扱い規則**
- 6.2.2.1 安全確保のため、すべての銃器はいついかなる時でも最大限の注意をもって取り扱われなければならない。競技中および練習中は射場役員の許可なしに銃器を射線から動かしてはならない。
- 6.2.2.2 このルールによってセフティフラッグを外す事が認められているとき以外は、すべてのライフル、ピストルおよび自動式散弾銃には常に、蛍光オレンジまたは似たような色の素材でできているセフティフラッグが挿入されていなければならない。エアガンに弾が装填されていないことを明示するために、セフティフラッグ(セフティライン)は銃身長よりも長くななければならない。その他の全ての銃において、セフティフラッグは薬室(銃身の最後部)に挿入されることにより、薬室が空であることを示す役割を持たなければならない。ショットガンに弾が装填されていないことを示すためには、銃の機関部が開放されていなければならない。
- a) 銃ケースなどから出された全ての銃は、選手の射座入り前、射座から離れる時、競技終了後、射線より前に作業員が出なければならない時にはセフティフラッグが挿入されていなければならない。ファイナルにおいては、準備および試射時間が始まるまでセフティフラッグを抜くことできない。
- b) このルールで要求されているにもかかわらずセフティフラッグを使用していなければ、ジュリーは銃器にセフティフラッグを挿入するように指導し、警告を与えなければならない。
- c) もしジュリーが、警告を受けた後もルールにより要求されるセフティフラッグの使用を拒否している選手を確認した場合、その選手は失格(DSQ)とされなければならない。
- 6.2.2.3 射座において銃器は常に安全な方向に向けられていなければならない。機関部やブリーチは銃器が標的エリアの安全な方向に向けられるまで閉じられてはならない。
- 6.2.2.4 選手は銃を置いて射座を離れるときまたは射撃が完了したときには、銃の機関部(ボルトまたは閉鎖機構)を開放して抜弾し、セフティフラッグを挿入しなければならない。射座を離れる前に選手はそれを確認し、また射場役員は銃の薬室、銃身または弾倉内に残弾のないこととセフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。
- 6.2.2.5 射場役員のチェックを受けずに銃器を格納したり射座から持ち出した場合、ジュリーが重大な安全に関する違反があると判定したならば、その選手は失格となる場合がある。
- 6.2.2.6 競技中、銃器を手から離して置くときは、抜弾し、弾倉を取りはずし、機関部を開けてからのみ置くことができる。エアガンにあっては、安全のため蓄気レバーまたは装填口を開けた

ままにしなければならない。

6.2.2.7 射撃線の前方に作業員がいるときは銃器の取り扱いには許されずセフティフラッグが挿入されていなければならない。もしジュリーや射場役員または技術役員が、練習、本選またはファイナル中に射撃線より前に行く必要がある場合、射場長（CRO）により認可され、制御されてなければならない。射撃線の前方での行動は、すべての銃がセフティフラッグを挿入した後にはのみ、許可される。

6.2.2.8 射座以外の射場内では、射場役員の指示による場合を除き、銃器は銃ケースに入れておかななければならない。

6.2.3 射場内での号令

6.2.3.1 射場長または他の適切な射場役員は“LOAD”、“START”、“STOP”、“UNLOAD”や他の必要な号令を出す責任がある。射場役員は選手が号令に従っているか、銃器を安全に取り扱っているかを確認しなければならない。

6.2.3.2 銃器や弾倉には、射座において“START”または“LOAD”の号令の後にのみ装填できる。これ以外のときには銃器や弾倉は抜弾されていなければならない。

6.2.3.3 弾倉付きのライフルや50mピストルであっても、装填は一発しかできない。5連発エアピストルを10mエアピストル種目に使用する場合も、装填は一発ずつ行うこと。

6.2.3.4 銃弾または空気銃弾または銃弾の入った弾倉が銃に接したとき、銃が装填されたことみなされる。“LOAD”の号令前には、銃弾や空気銃弾や銃弾の入った弾倉を銃や薬室や銃身に触れさせることはできない。

6.2.3.5 選手が“LOAD”または“START”の号令の前、“STOP”または“UNLOAD”の号令の後に弾を発射した場合、その安全性が問われるならば、その選手は失格になる場合がある。

6.2.3.6 “STOP”の号令か信号があった場合、選手はただちに射撃を中止しなければならない。“UNLOAD”の号令があった場合、全選手は弾を抜き、安全な状態にしなければならない（エアガンは抜弾するときは、射場役員の許可を得ること）。“START”の号令が再び出されたときのみ射撃は再開できる。

6.2.4 安全性の追加要求

6.2.4.1 空撃ちとは弾が装填されていない銃器の引金機構を解き放つこと、または空撃ち機構が付いているエアガンで空気などを出すことなく撃発動作をすることを意味する。空撃ち、照準練習は射撃線または指定された場所でのみ次のルールに従って許可される。

6.2.4.2 エアまたはCO₂シリンダーが保証期間内であることは選手の責任である。このことは用具検査でチェックすることができる。

※6.2.5 耳の保護

すべての選手、射場役員ならびに25m、50m、300m射場の射線直後に位置する人々は耳栓、イヤーマフまたは類似の聴力保護用具の使用を強く要請する。射場敷地内では、警告が明示され、すべての人々が聴力保護用具を使用できなければならない。選手またはコーチは、FOP内では、いかなるタイプの音声拡大装置や受信装置を組み込んだイヤプロテクターは装着してはならない。競技会役員はFOP内でも音声拡大装置や受信装置を組み込んだイヤプロテクターの装着を許される。聴覚障害のある選手は、ジュリーの承認を得て、

音声拡大装置を身に着けることができる。

6.2.6

目の保護

すべての選手に対して、射撃中は、強化ガラスなどの射撃眼鏡または類似の目に対する保護用具の使用を強く要請する。

6.3

標的および標的基準

6.3.1

標的の全般的必要条件

6.3.1.1

ISSF選手権大会のライフルおよびピストル種目で用いられる標的は電子標的（EST）または紙標的である。注）紙標的の取り扱いに関する特則は「紙標的に関するルール」として、このルールの付則となっている。

6.3.1.2

ISSF選手権大会で使用されるすべての標的はこのルールによって与えられる各得点圏の幅、標的の大きさ、その他規定された値が守られていなければならない。

6.3.2

電子標的の必要条件

※6.3.2.1

電子標的はISSFによってテストされ、公認されたものだけが使用できる。

6.3.2.2

ESTにおける精度は弾着の採点において少なくとも小数点得点圏の半分の精度が要求される。紙標的における得点圏の大きさに関する許容範囲はESTには適用されない。

6.3.2.3

すべてのEST標的装置は、それぞれの競技に使用される標的の黒圏の大きさ（6.3.4）に相当する黒色の照準エリアおよびその照準エリアを取り囲む無反射の白または黄色がかかった白色のエリアが表示されていなければならない。

6.3.2.4

ESTによって記録された得点は競技用標的（6.3.4）の得点圏の大きさに従って決定されなければならない。

6.3.2.5

ESTに当たった弾ごとに、その弾の結果としてその位置と得点が射座のモニター上に提示されなければならない。

6.3.2.6

10mESTでは、発射された弾が標的に当たったかどうかの決定ができるように紙ロールまたは証拠となる他の素材のストリップが使われていなければならない。

6.3.2.7

ESTシステムのメインコンピューター（バックアップメモリー）以外のメモリーからの各選手の結果のプリントアウトは競技中および競技後すぐに利用できなければならない。

6.3.2.8

ESTを使用するとき、標的装置は、各ISSF選手権大会に先立ってテクニカルデレゲートの監督のもと、通常の使用条件で正確な採点をしていることを確認するためのチェックを受けなければならない。

6.3.3

ISSF標的基準

標的はこのルールにある得点圏の大きさ、許容範囲、仕様を守らなければならない。

6.3.3.1

ライフルとピストルの標的は整数値で採点できるかまたはESTまたは電子式紙標的採点機を使用する場合は小数値で採点できなければならない。小数値の得点圏は整数値の得点圏を10等分したもので、その得点は0（例：10.0、9.0など）から始まり9（例：10.9、9.9など）で終わるものである。

6.3.3.2

ライフルとピストルの予選ラウンドおよび本選ラウンドでは、10mエアライフルと50mライフル伏射の種目の予選ラウンドおよび本選ラウンドを小数値で採点するISSF選手権の場合を除き、整数値で採点される。10mエアライフルミックスチーム種目では本選は小数値で採点されなければならない。

6.3.3.3 ライフルとピストルのファイナルおよびライフルミックスチームの本選とファイナルおよびピストルのミックスチームのファイナルは、このルールに書かれている小数採点に基づくヒットゾーンのヒットミススコアが使用される25mピストル種目のファイナルを除き、小数値で採点される。

6.3.4 公式ISSF標的

※6.3.4.1 300mライフル標的

10点圏	100mm	(±0.5mm)	5点圏	600mm	(±3.0mm)
9点圏	200mm	(±1.0mm)	4点圏	700mm	(±3.0mm)
8点圏	300mm	(±1.0mm)	3点圏	800mm	(±3.0mm)
7点圏	400mm	(±3.0mm)	2点圏	900mm	(±3.0mm)
6点圏	500mm	(±3.0mm)	1点圏	1000mm	(±3.0mm)

X圏：50mm (±0.5mm)

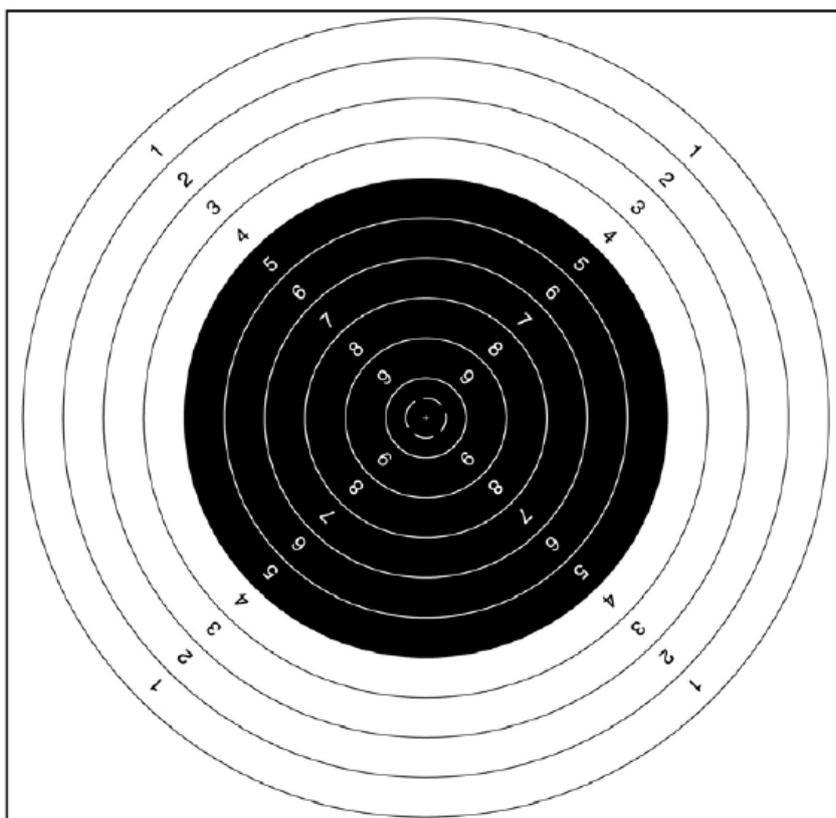
黒点圏 (5～10点圏)：600mm (±3.0mm)

圏線の幅：0.5mm～1.0mm

標的紙の大きさ：最小1300mm×1300mm

(標的紙と同色の的枠を使用する場合は1020mm×1020mm)

1点～9点の得点はそれぞれの得点圏の中にそれぞれが斜めの対角線をなす位置に印刷される。10点圏には数字の印刷はない。



300mライフル標的

※6.3.4.2

50mライフル標的

10点圏	10.4mm	(±0.1mm)	5点圏	90.4mm	(±0.5mm)
9点圏	26.4mm	(±0.1mm)	4点圏	106.4mm	(±0.5mm)
8点圏	42.4mm	(±0.2mm)	3点圏	122.4mm	(±0.5mm)
7点圏	58.4mm	(±0.5mm)	2点圏	138.4mm	(±0.5mm)
6点圏	74.4mm	(±0.5mm)	1点圏	154.4mm	(±0.5mm)

X圏：5mm (±0.1mm)

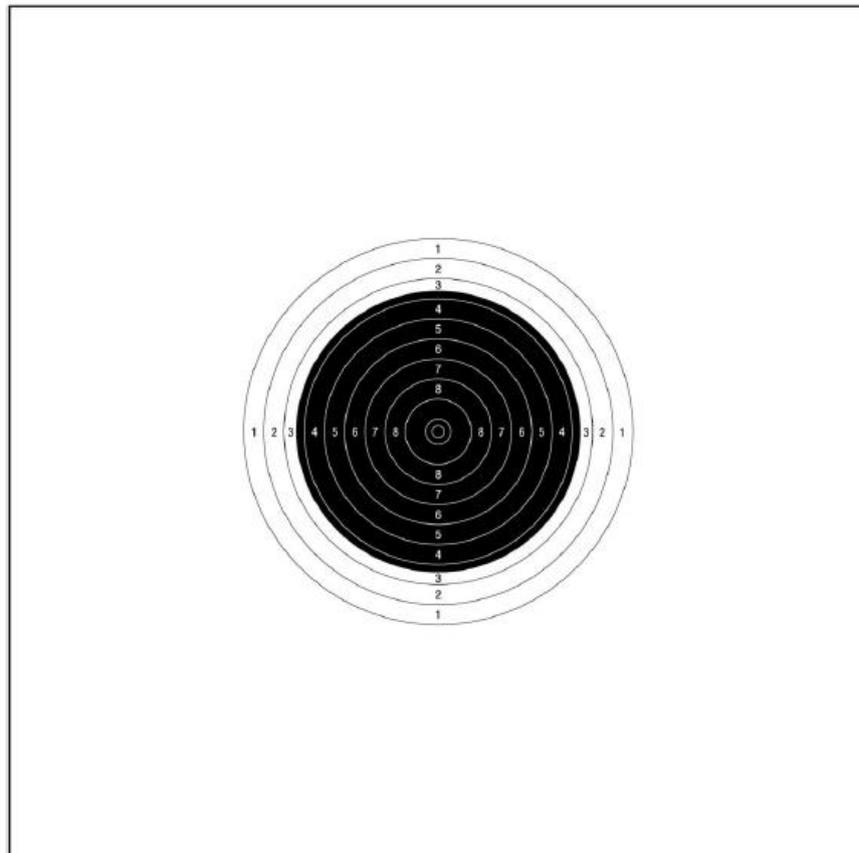
黒点圏 (3点の一部～10点圏)：112.4mm (±0.5mm)

圏線の幅：0.2mm～0.3mm

標的紙の大きさ：最小250mm×250mm

1点～8点の得点はそれぞれの得点圏の中にそれぞれが垂直・水平をなす位置に印刷される。10点圏、9点圏には数字の印刷はない。

インサート標的 (200mm×200mm) は使用できる。



50mライフル標的

※6.3.4.3

10mエアライフル標的

10点圏	0.5mm	(±0.1mm)	5点圏	25.5mm	(±0.1mm)
9点圏	5.5mm	(±0.1mm)	4点圏	30.5mm	(±0.1mm)
8点圏	10.5mm	(±0.1mm)	3点圏	35.5mm	(±0.1mm)
7点圏	15.5mm	(±0.1mm)	2点圏	40.5mm	(±0.1mm)
6点圏	20.5mm	(±0.1mm)	1点圏	45.5mm	(±0.1mm)

X圏：10点圏を完全に撃ちぬいた時、エア・ピストル外線ゲージを用いて決定する。

黒点圏（4～9点圏）：30.5mm（±0.1mm）

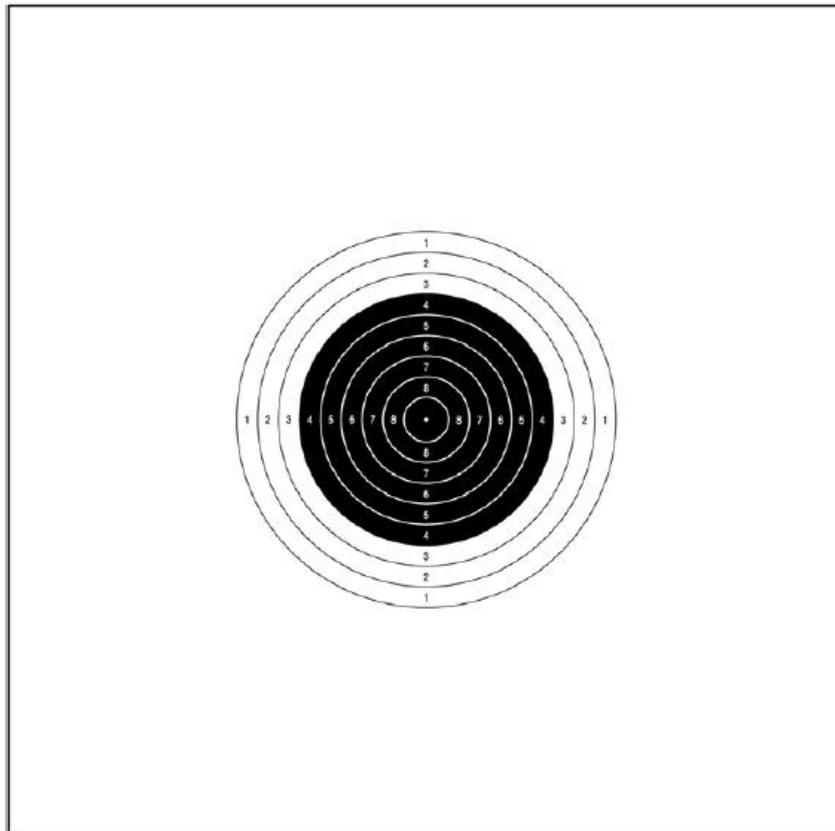
白点で表示される10点圏：0.5mm（±0.1mm）

圏線の幅：0.1mm～0.2mm

標的紙の大きさ：最小80mm×80mm

1点～8点の得点はそれぞれの得点圏の中にそれぞれが垂直・水平をなす位置に印刷される。9点圏には数字の印刷はない。10点は白点である。

標的を見やすくするために、標的の後ろに使う170mm×170mmの大きさで、標的の紙質や色に類似した台紙が提供されるべきである。



10mエアライフル標的

※6.3.4.4

25mラピッドファイアピストル標的

(25mラピッドファイアピストル、25mセンターファイアピストルと25mピストルの速射ステージ用)

10点圏	100mm	(±0.4mm)	7点圏	340mm	(±1.0mm)
9点圏	180mm	(±0.6mm)	6点圏	420mm	(±2.0mm)
8点圏	260mm	(±1.0mm)	5点圏	500mm	(±2.0mm)

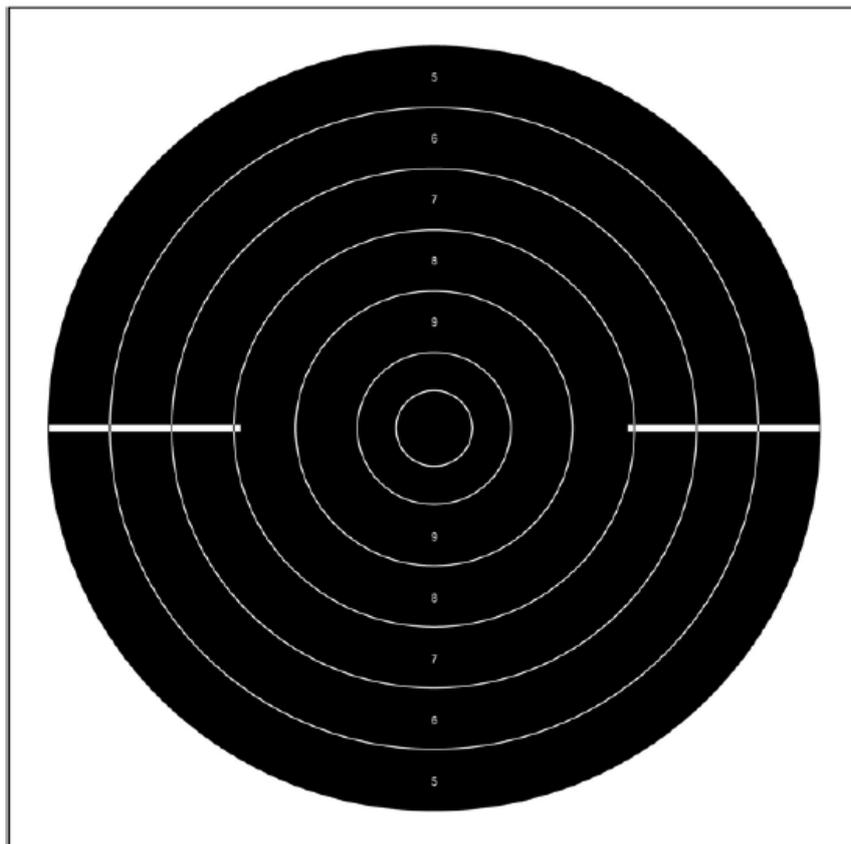
X圏：50mm (±0.2mm)

黒点圏 (5～10点圏)：500mm (±2.0mm)

圏線の幅：0.5mm～1.0mm

標的紙の大きさ：最小 幅550mm 高さ520mm～550mm

5点～9点の得点はそれぞれの得点圏の中に垂直をなす位置のみに印刷される。10点圏には数字の印刷はない。数字の縦の長さは約5mm、太さは約0.5mmでなければならない。黒点圏の左右の方向には数字に代わって白色の水平照準ラインがある。このラインは長さ125mm、幅5mmとする。



25mラピッドファイアピストル標的

※6.3.4.6

10mエアピストル標的

10点圏	11.5mm	(±0.1mm)	5点圏	91.5mm	(±0.5mm)
9点圏	27.5mm	(±0.1mm)	4点圏	107.5mm	(±0.5mm)
8点圏	43.5mm	(±0.2mm)	3点圏	123.5mm	(±0.5mm)
7点圏	59.5mm	(±0.5mm)	2点圏	139.5mm	(±0.5mm)
6点圏	75.5mm	(±0.5mm)	1点圏	155.5mm	(±0.5mm)

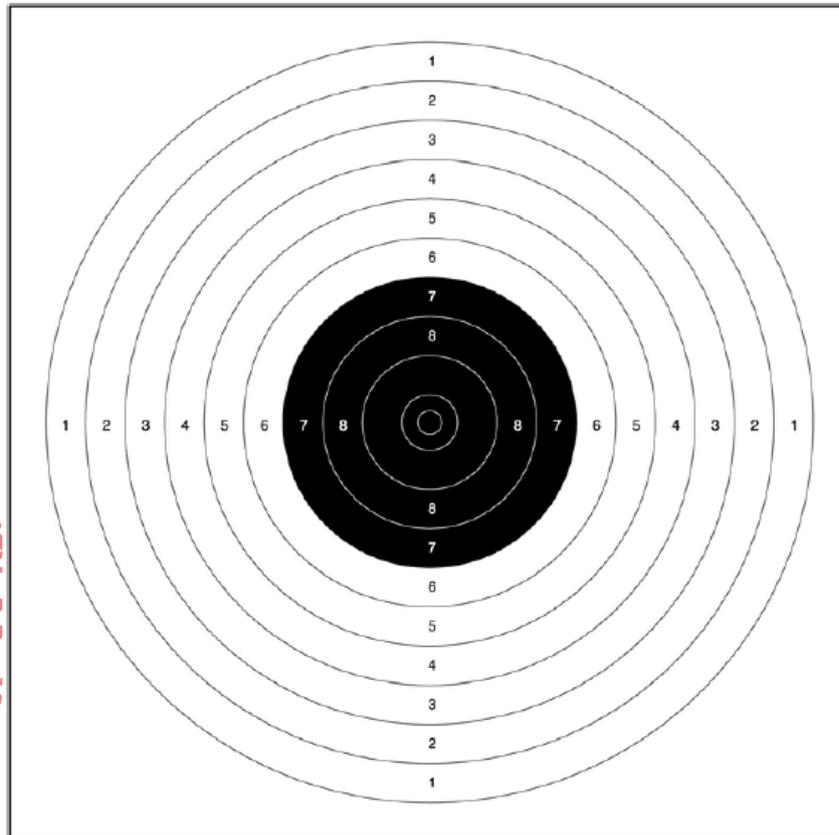
X圏：5.0mm (±0.1mm)

黒点圏（7～10点圏）：59.5mm (±0.5mm)

圏線の幅：0.1mm～0.2mm

標的紙の大きさ：最小170mm×170mm

1点～8点の得点はそれぞれの得点圏の中のそれぞれが垂直・水平をなす位置に印刷される。9点圏、10点圏には数字の印刷はない。数字の縦の長さは2mm以内でなければならない。



10mエアピストル標的

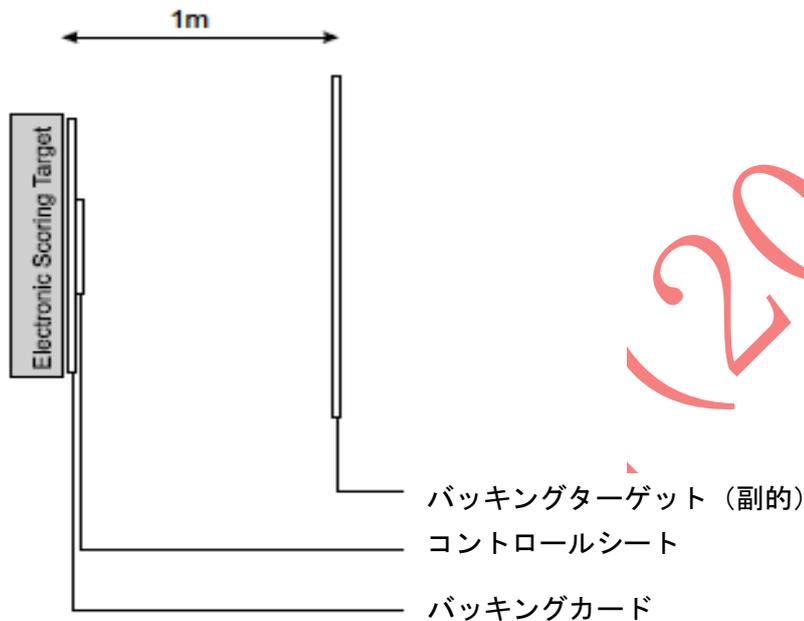
※6.3.4.6-2 10mビームピストル標的

6.3.5 標的コントロールシステム

ライフルおよびピストル種目では、競技会運営の助けとして標的採点およびコントロールシステムを使用しなければならない。

6.3.5.1 EST標的コントロールシステム

EST用のコントロールシステムとして、バックングターゲット(副的)、バックングカード、コントロールシートが使われる(図参照)。



6.3.5.2 50mおよび300mESTのバックングターゲット(副的)

誤射の位置判定のため、標的の後方でできれば0.5m~1mの位置に設置されたバックングターゲットを使用しなければならない。標的とバックングターゲットとの距離は正確に測定され、記録されなければならない。この距離は可能な限り全標的で同じでなければならない。

6.3.5.3 25mESTのバックングターゲット(副的)

a) すべての25mピストル種目において、標的を外した弾痕の特定を助けるためにバックングターゲットが使用されなければならない。

b) バックングターゲットの大きさは、最小限、25mピストル標的枠(5的分)の中と高さをカバーするものでなければならない。バックングターゲットは同様に標的の1m後方に設置されるべきである。バックングターゲットは標的と標的の間に撃ち込まれた弾を認識するために、横に連続しているか、あるいは枠と枠の間にすき間のないものでなければならない。

c) 25mEST用のバックングターゲットは標的の白い部分と似た色の非反射紙で作られていなければならない。

d) 25m種目では選手ごと、ステージごとに新しいバックングターゲットが提供されなければならない。

6.3.5.4 25mESTのコントロールシート

ESTの直後の範囲はコントロールシートによって覆われていなければならない。新しいコ

ントロールシートが選手ごと、ステージごと供給されなければならない。もしコントロールシートの外に弾痕があった場合、コントロールシートが取り外される前にコントロールシートとバックアップカードの弾痕の位置関係を記録しておかなければならない。

6.3.5.5 50mおよび300mESTのバックアップカードとコントロールシート

すべての50mおよび300mESTの背面にはバックアップカードが装着されていなければならない。小形の交換可能なコントロールシートがバックアップカードに取り付けられているべきである。コントロールシートまたはバックアップカードは各射群ごとに交換され、回収されなければならない。もしコントロールシートの外に弾痕があった場合、コントロールシートが取り外される前にコントロールシートとバックアップカードの弾痕の位置関係を記録しておかなければならない。

※6.4 射場とその他設備

6.4.1 全般的必要条件

6.4.1.1 ISS選手権大会における射場設置の最小必要条件はGR3.5.1に示すとおりである。それらの条件は最小限のものであり、ライフル／ピストルの大規模なワールドカップ大会においては、10m射場、50m射場ともに80射座を推奨する。

6.4.1.2 世界選手権大会やオリンピックでは独立したライフル／ピストル種目のファイナル射場が要求される。ISSFとしてはワールドカップにおいても独立したファイナル射場が利用できることを推奨する。

6.4.1.3 大陸連合は大陸選手権大会における最小限の射場必要条件を決めておかなければならない。

6.4.1.4 トラップ射場とスキート射場は合体させることができる。独立したダブルトラップ射場が提供できない場合はトラップ射場をダブルトラップ射場に転用しなければならない。できるならば、トラップ、ダブルトラップ、スキートのファイナルは同じ射場で行われるべきである。

6.4.1.5 ライフルおよびピストル射場で選手、役員、観客が使用する場所は日光、風、雨を防ぐ物で覆われていなければならない。これらの覆いは特定の射座や射場の一部に明らかに有利となるものであってはならない。

6.4.1.6 ISSFは、新設射場においては障害者にも利用可能なものとするを推奨する。既存の射場においては障害者が利用可能となるように改修すべきである。

6.4.1.7 世界選手権大会やオリンピック大会に使用される射撃場は少なくとも1年前に完成していることが望ましい。

6.4.1.8 オリンピック大会、ISSF世界選手権大会、ISSFワールドカップ大会のライフルおよびピストル種目の予選、本選、ファイナルではISSFによって公認された電子標的（EST）が使用されなければならない。電子標的システムには競技中の途中経過の成績による順位表を示すディスプレイと観客のために各選手の弾痕と得点を映し出すモニターまたはビデオボードが含まれていなければならない。

※6.4.1.9 テクニカルデレゲートは射場およびその他の設備がISSFルールに合致していることを確認する検査に責任を負い、選手権大会実施の準備を行う。テクニカルデレゲートは編成、射場、設備の検査に“テクニカルデレゲート用チェックリスト”（ISSF本部に用意してある）を利用すべきである。

6.4.1.10 テクニカルデレゲートは、射距離と標的の規格を除き、ISSFの主旨と精神に反するもので

なければ若干の規格変更を承認してもよい。

6.4.2

全般および運営上の設備

次の設備が設置されているかまたは射撃場の近くになければならない。

- a) 選手休憩所
- b) 本選射場およびファイナル射場の近くにある選手のための更衣室
- c) ISSF役員とジュリーの利用するミーティングルーム
- d) 組織委員会の事務室と執務室
- e) RTS処理ための物品の適切な倉庫
- f) 各射場にRTSと成績表作成のためのコントロール室
- g) すべてのライフル、ピストルおよびショットガン射場に空撃ちまたはウォームアップのための場所
- h) すべての10m射場で選手やコーチが利用可能な圧縮空気の提供。圧縮空気タンクは転倒防止のため壁や他の構造物に結び付けられていなければならない。
- i) 公式記録や告知を掲示するためのメインスコアボード1面および競技予定や速報を掲示するための射場スコアボードを射場ごとに1面。さらに選手控室の近くにもスコアボードがあるべきである。
- j) 安全な銃器保管庫。
- k) 更衣室を備えた用具検査室。
- l) 適切な作業台とバイスを備えた銃器修理店舗。
- m) 銃器や用具メーカーが製品サービスを行うための無料仮店舗。
- n) 商品展示用のスペース。出店料金を課することができる。
- o) 休息のとれる食堂または食料提供施設。
- p) 十分な数のトイレ。
- q) 無線インターネットサービス。競技会進行（成績提供、ISSF-TV、管理運営）に関するものと一般用は別々の回線としなければならない。
- r) 表彰会場またはファイナル射場に設置できる表彰台および背景幕。
- s) メディア、ラジオ、テレビ取材者のための設備。
- t) トイレを備えたアンチドーピングコントロール施設。
- u) 適切な医療施設
- v) 駐車場

6.4.3 10m、25m、50mおよび300mのライフルおよびピストル射場の全般基準

6.4.3.1 新しく25m、50mおよび300mの屋外射場を建設する場合は、できる限り競技の間、選手の背後に太陽が位置するように設計されるべきである。射場設計は標的に影が入らないように配慮しなければならない。

6.4.3.2 射場には標的線と射撃線が設置され、それらは平行でなければならない。

6.4.3.3 射場の設計と建設は次の特徴を持っているとよい。

- a) 必要ならば、射場の周囲に安全壁をめぐるせてもよい。
- b) 暴発等による射撃場からの流れ弾に対する安全策として、射撃線と標的線との間に、射場を横断するバツフルを設置することもできる。

- c) 10m射場は屋内でなければならない。
- d) 50m、25m射場については屋外設置であるべきであるが、法的な要請、気候による必要性がある場合には例外的に屋内または閉鎖された環境下に設置できる。
- e) 300m射場では少なくとも285mの距離を屋外とする。
- f) 50m射場では少なくとも35mの距離を屋外とする。
- g) 25m射場では少なくとも12.5mの距離を屋外とする。
- h) 25mおよび50mファイナル射場は屋内射場でも屋外射場でもよい。

6.4.3.4 射場の後方に射場役員およびジュリーが活動するために十分な空間を設けなければならない。観客のための空間も設けなければならない。この空間は少なくとも射撃線の後方7.0m以上の位置に設置された適当な柵などによって選手や役員の活動する空間とは区別されなければならない。

6.4.3.5 各射場の両端に選選手や役員がはっきりと時刻を見ることができる大型の時計（カウントダウン時計を推奨する）を備えなければならない。ファイナル射場として区分された場所にも時計がなければならない。射場の時計は成績用コンピューターによって同じ時刻が表示されるように同調されていなければならない。ライフルとピストルのファイナル射場には残り時間を示すカウントダウン時計もなければならない。

6.4.3.6 標的枠または標的装置には正対する射座と同じ（左から始まる）番号が付けられていなければならない。それらの番号は正常な視覚をもつ人が通常の条件で容易に確認できる大きさでなければならない。それらの番号は対照的な色で交互に塗られているものでなければならない。25m射場の5的の標的グループは左から順に“A”から始まる文字がつけられなければならない。25m射場の各標的は、AとBグループの標的には11から20を、CとDグループの標的には21から30というように番号が付けられなければならない。

6.4.4 300mライフル、50m射場の風旗

6.4.4.1 射場の空気の動きを示すために綿布製またはポリエステル製で重量約150g/m²の長方形の風旗が設置されているべきである。風旗の高さは弾の飛行や選手が標的を見る際の妨げになることなく弾道線の中心域に対応しなければならない。風旗の色は背景に対し目立つ色でなければならない。2色を使用したものや縞模様の風旗の設置は許されるし、推奨されるものである。

6.4.4.2 風旗の大きさと設置場所

射 場	設 置 距 離	風 旗 の 大 き さ
50m射場	10mおよび30m	50mm×400mm
300m射場	50m	50mm×400mm
	100mおよび200m	200mm×750mm

※6.4.4.3 50m射場では、風旗は射撃線から規定の距離の位置に各射座を分ける射撃線より標的線までの仮想線上に設置される。風旗はバツフルの選手側の位置に設置されなければならない。

6.4.4.4 50m射場を屋内10m射場として使用する場合は、風旗が風を提示できるように10m地点の風旗は射屋から十分離れた遠くに設置されなければならない。

6.4.4.5 300m射場では、風旗は射撃線から上記の距離の位置に4射座ごとに次の射座との境界線

となる射撃線より標的線までの仮想線上に設置される。風旗はバッフルの選手側の位置に設置されなければならない。

6.4.4.6 選手は、準備試射時間の始まる前に、風旗が標的を見えにくくしているかを確認しなければならない。風旗の位置は射場役員またはジュリーのみが変更できる。

6.4.4.7 個人の用意した風向計等の使用および選手による風旗の位置の変更は禁止される。

6.4.5 射距離

6.4.5.1 射距離は射撃線から標的の面までの距離を測定したものでなければならない。

※6.4.5.2 射距離は以下の許容差を条件として、できる限り正確でなければならない。

10m射場	±0.05m
25m射場	±0.10m
50m射場	±0.20m
300m射場	±1.00m

6.4.5.3 50mのライフル、ピストル、ランニングターゲット兼用射場の許容差 略

※6.4.5.4 射撃線は明瞭に示されていなければならない。射距離は標的線から射撃線の選手側の端までの距離が計測されなければならない。選手の足または伏射姿勢での選手の肘を射撃線上に置いたり、射撃線を越えて標的側に置くことはできない。

6.4.6 標的中心位置

標的中心位置とは標的の10点圏の中心の位置を計測したものでなければならない。

※6.4.6.1 標的中心の高さ

標的の中心は射座の床面の高さから測って次の表の通りでなければならない。

射場	基準の高さ	許容差
300m射場	3.00m	±4.00m
50m射場	0.75m	±0.50m
25m射場	1.40m	+0.10m/-0.20m
10m射場	1.40m	±0.05m

標的群または射場内のすべての標的の中心の高さは同じでなければならない(±1cm)。

6.4.6.2 300m、50m、10mライフル、ピストル射場における標的中心位置の水平方向での許容差

300m、50m、10mでの標的の中心は、正対する射座の中心におかれていなければならない。射座の中心の射撃線から直角方向での標的の中心線との水平方向の許容差は

射場	中心から両方向への最大許容差
300m射場	6.00m
50m射場	0.75m
10m射場	0.25m

6.4.6.3 25mピストル射場における射座の位置の水平方向での許容差

射座の中心は次の位置になければならない。

a) ラピッドファイヤ射場では5つの標的群の中心。

- b) ランニングターゲット射場では開口部の中心。
- c) 射座の中心は、正対する標的の中心に置かれていなければならない。標的の中心線から直角方向での射座の中心線との水平方向の許容差は

射 場	両方向への最大許容差
25m射場	0.75m

※6.4.7

ライフルおよびピストル射場の射座の全般基準

射座は振動したり動いたりしない安定した、堅い、頑丈な構造のものでなければならない。射撃線から後方約1.20mまでの部分は全方向に対し水平でなければならない。それより後方の部分は水平または後方に向かって数cmの勾配をつけたもののどちらかでなければならない。

6.4.7.1 射撃テーブル上から射撃を行う場合、そのテーブルは長さ約2.20mで幅0.80mから1.00m、頑丈で安定したもので、移動ができるものでなければならない。射撃テーブルは後方へ最大10cm傾斜していてもよい。

6.4.7.2 **射座の備品** 射座には次のものが備えられていなければならない。

a) 高さ0.70m～1.00mの机または台1脚。ライフル選手はその高さを変えるために卓上にいかなる道具や物を置くことはできない。

b) 伏射、膝射用のマット1枚。選手は射場から提供されたマットを改変してはならない。マットの前部分約50cm×80cmの部分は50mm以内の厚さで圧縮性のある材質のもので、なおかつ服装検査用の測定器で測ったとき10mm以上の厚さのものでなければならない。マットの他の部分は最大で50mm最低でも2mmの厚さでなければならない。マット全体は最小でも80cm×200cmの大きさがなければならない。別の方法として、薄いマットと厚いマットの2種類を用意してもよいが、本規則に合致するものでなくてはならない。私物のマットの使用は禁止される。

c) 本選ラウンドにおける選手用の椅子または腰掛け1脚；ファイナル射場においては射座の中または近くに選手用の椅子または腰掛けを置いてはならない。

d) 新設の射場では射撃線前方に位置する防風スクリーンの設置は推奨されない。しかし風の条件ができるだけ射場全体で均一になるようにする必要があるときは、防風スクリーンを使用してもよい。

e) 300m射場の射撃線で仕切りスクリーンを設置する必要がある場合、そのスクリーンは軽いフレームに向こう側が透けて見える材質で作られるべきである。スクリーンは射撃線の前方へ少なくとも50cmは突出し、約2.00mの高さがあるべきである。

6.4.8 **300m射場の射座基準**

射座は幅1.60m以上、長さ2.50m以上でなければならない。射座幅については縮小してもよいが、仕切りスクリーンを設置する場合、伏射姿勢をとった選手の左足が隣の射座に入るのを妨げるような設置のしかたをしてはいけない。

6.4.9 **50m射場の射座基準**

a) 射座は幅1.25m以上、長さ2.50m以上でなければならない。

b) 射座は、300m射撃と兼用されるならば、幅1.6m以上でなければならない。

6.4.10 **10m射場の射座基準**

- ※ a) 射座の幅は1.00m以上なければならない。
- b) 机または台の選手に近い側の端は、10m射撃線の10cm以上前方に位置しなければならない。

- ※ c) 50m射場と兼用の場合、射座の幅は最小1.25mなければならない。

6.4.11 **25mピストル射場の射場および射座基準**

6.4.11.1 25m射場には風、雨、日光や薬莢の射出から選手を十分に防護するための屋根とスクリーンが設置されなければならない。

6.4.11.2 射座には床面から最低2.20mの高さの屋根または覆いをかけなければならない。

6.4.11.3 25m射場は5的からなる標的グループ2つで構成されるセクションに分けられていなければならない。2つの5標的グループを1ベイという。

6.4.11.4 25m種目においては、ラピッドファイアピストル種目では5的を1グループとし、25mピストル、25mセンターファイアピストルおよび25mスタンダードピストルの各種目では4的または3的または例外的に5的を1グループとして標的を配置しなければならない。

6.4.11.5 25m射場は間に仕切りのない構造または防護通路で分割されている構造のどちらも許される。仕切りのない構造の射場では標的役員は射撃線側から標的の位置までその都度移動する。防護通路は、使用する場合、射場関係者の標的線への安全な往復が保障されなければならない。防護通路使用時には、確実な安全コントロールシステムが提供されなければならない。

6.4.11.6 各セクションは全セクションの集中制御も各セクションの独立運用もできるようになっているべきである。

6.4.11.7 射座の広さは次の通りでなければならない。

種 目	幅 (左右)	奥行 (前後)
25mラピッドファイアピストル	1.50m	1.50m
25mピストル、25mセンターファイアピストルおよび25mスタンダードピストル	1.00m	1.50m

6.4.11.8 射座は排出された薬莢から選手を保護するため、また射場役員が監視できるように透過したスクリーンで仕切られていなければならない。そのスクリーンは射座間に置かれるか吊り下げられ、排出された薬莢が他の選手に当たるのを防げるほど十分な大きさがなければならない。スクリーンは役員や観客から選手を見えにくくしてはならない。

6.4.11.9 45°参照線は射座の両側の射場の壁またはセクションの分割壁に設置されるべきである。

6.4.11.10 各射座には次の備品が備えられていなければならない。

- a) 移動または調整可能な大きさ0.50m×0.60mで高さ0.70m~1.00mの机または台1脚。
- b) 本選中、選手は最大高が1.00mになるようにテーブルの上に用具やサポートスタンドを置くことができる。
- c) ファイナル中、ライフル選手はテーブルの高さを変えるためにテーブルの上に用具や物を置くことはできない。ピストル選手は合計高が1.0mを超えない範囲でテーブルの上にアジャスタブルサポートスタンド(8.6.3)を置くことができる。
- d) 本選ラウンドにおける選手用の椅子または腰掛け1脚；ファイナル射場においては射

座の中または近くに選手用の椅子または腰掛けを置いてはならない。

6.4.11.11 **機能確認射場** 選手が銃器の機能テストを行えるように、標的の貼られていない特別に指定され監督された機能確認射場が用意されなければならない。

6.4.12 **25mピストル種目の標的採点時間は、**

a) 25mラピッドファイアピストル：8秒、6秒、4秒

b) 25mスタンダードピストル：150秒、20秒、10秒

c) 25mピストルと25mセンターファイアピストルの速射ステージ：1発ごとに3秒間採点、次の7秒間（±1秒）は採点されない。

6.4.13 **25m電子標的システムの基準**

電子標的を使用する場合、計時装置には各標的出現時間に合計0.3秒が加えられるように時間設定されなければならない。この加えられた0.3秒は回転標的における回転時間の許容範囲である+0.1秒と“追加時間”の+0.2秒を合計したものである。追加時間は紙標的を用いた回転標的装置において“スキッドショット”として認められるものを電子標的においても有効弾として採点することを保証するものである。グリーンライトは要求される時間+0.1秒間点灯し、電子標的は時間後追加の0.2秒間有効弾を記録し、採点し続けなければならない。

※6.4.14 **屋内射場の要求照度（ルクス）**

屋内射場	全 体	標 的 面	
	最少（推奨）	最 少	推 奨
10m	500	1500	>1800
25m	500	1500	>2500
50m	500	1500	>3000

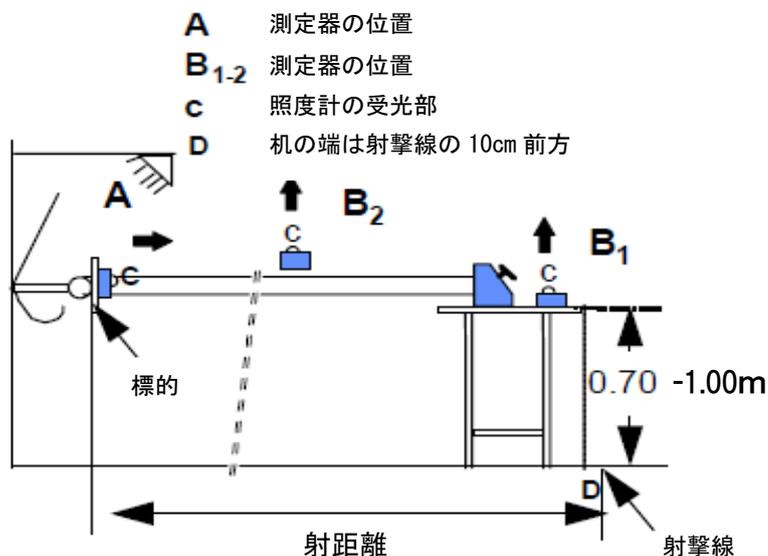
ファイナル射場は全体の最少照度が500ルクスで射座の最少照度が1000ルクスでなければならない。新設射場では射座の照度は1500ルクス付近を推奨する。

※6.4.14.1 すべての屋内射場では標的や射座に影などが生じないような十分でまぶしくない光度の人工照明が設置されなければならない。標的の後方は反射のない中間色の背景にしなければならない。

6.4.14.2 外部照明による標的面の照度は、測定器で測定し、標的の高さで射座に向けた位置で測らなければならない（A）。内部照明による標的面の照度の測定は、標的表面からの反射光を測定することで行われなければならない。

6.4.14.3 射場全体の照度の測定は、測定器で測定し、射座（B₁）と射座と標的線の間点（B₂）で測定器を天井の照明に向けて測定しなければならない。

屋内射場の照度測定



6.5

ゲージと測定器具

- 各組織委員会は I S S F 選手権大会の開催期間中、用具検査に使用するゲージや測定器具など道具一式を用意しなければならない。
- 用具検査を実施する上で必要な用具検査器具の詳しいリストとそれらの器具の仕様と性能の表は I S S F 本部に用意してある。
- I S S F テクニカルデレゲートまたは主任用具検査ジュリーは競技会に先立ってすべてのゲージおよび測定器具を検査し承認しなければならない。
- 用具検査器具を検査するための調整器具は I S S F 本部に用意してある。毎日の検査前及び競技後検査において失格となると思われる事態が生じたときにはこの用具検査器具を調整に用いなければならない（調整報告様式は I S S F 本部に用意してある）。
- 選手の衣服等の厚さ、固さ、柔軟性の検査に用いる測定器具はこのルール（下記 6.5.1）に従って製造されていなければならない。なおかつ I S S F 技術委員会によって承認されていなければならない。

6.5.1

厚さ測定装置

服装、靴の厚さを測定する装置は 1 / 10 mm (0.1 mm) まで測定可能なものでなければならない。測定は 5.0 kg の重さかけた状態で行われなければならない。測定装置には直径 30 mm の平らな円盤が 2 枚向かい合わせに装着されていなければならない。



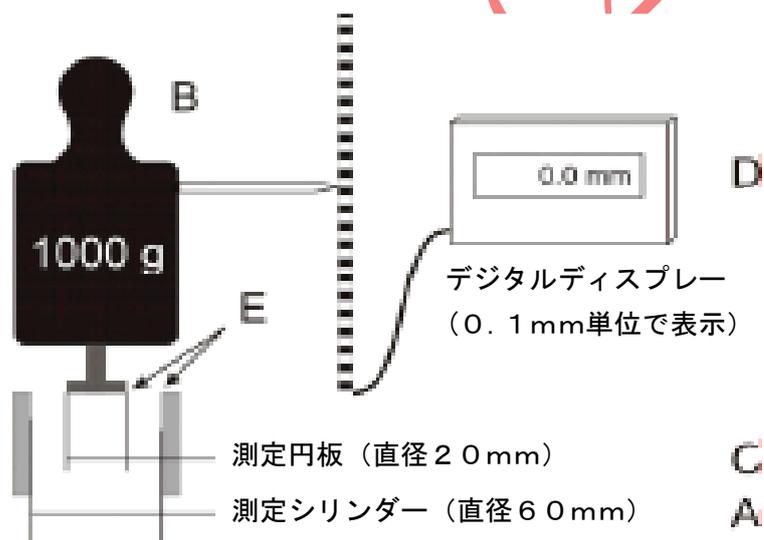
6.5.2

固さ測定装置

服装の固さを測定する装置は1/10mm（0.1mm）まで測定可能なものでなければならず、以下の寸法を満たさなければならない。

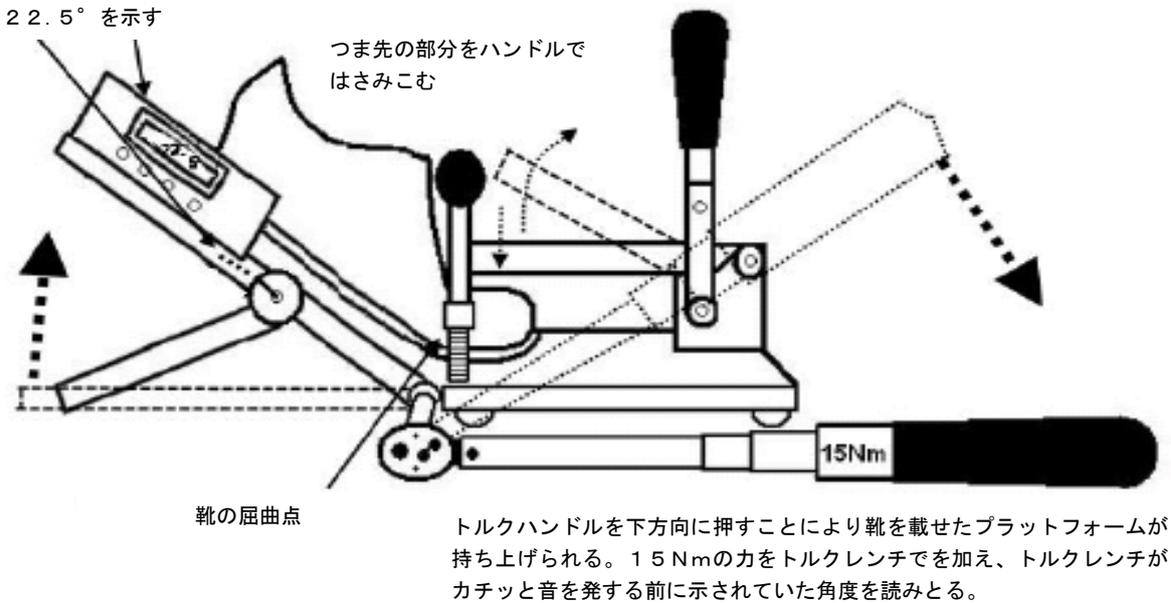
A	測定シリンダー	直径60mm
B	測定おもり	1kg（取っ手、測定円板Cを含む）
C	測定円板	直径20mm
D	デジタルディスプレイ	0.1mm単位で表示
E	測定円板（C）と測定シリンダー（A）の大きさは規定値より半径で0.5mmを超えてはならない。	

- ・固さの測定は、測定シリンダー“A”の上に引っ張ったりすることなく生地/素材を水平に置かなければならない。
- ・その上から測定円板“C”で測定おもり“B”の重量をかける。



6.5.3 靴底の柔軟性測定装置

靴底の柔軟性測定に用いる装置は、靴底に上方への精値な圧力（15 Nm）を加えた場合の柔軟性を、靴底のなす角度として正確な測定が可能でなければならない。



6.6 選手権大会の運営

6.6.1 選手権大会のプログラムとスケジュール

ISSF選手権大会の運営は、IOCまたは適切な大陸NOC連合の憲章や規定に従って実施されるオリンピック大会や大陸大会の射撃選手権大会の運営を除き、このルールに従って実施されるべきである。

6.6.1.1 **公式大会プログラム** ISSF事務局は標準的な大会プログラムの提供および選手権大会の前年の11月のISSF組織委員会のためのワークショップ年会の時に完成させるように各組織委員会と公式大会プログラムの準備に協力をする。公式大会プログラムは大会への参加要請、スケジュール、公式シンボルおよびロゴ、参加申込書の様式などを含み、それらはISSFのウェブサイトに掲載されることになり、組織委員会は公式大会プログラムが完成したらできるだけ早くそれを発行し、すべてのISSFの会員連盟に送付しなければならない。

6.6.1.2 **公式スケジュール** ISSF事務局、組織委員会およびその大会のテクニカルデレゲートは各選手権大会の詳細な公式スケジュールを準備しなければならない。選手権大会のスケジュールには、公式到着日、1日以上公式練習、競技実施の必要日数と公式出発日が含まれているべきである。世界選手権大会の公式練習日、開閉会式を含めたスケジュールは16日間を超えないようにすべきである。組織委員会の選択として、公式練習日以前に追加の練習日として射場を開けることはできる。公式スケジュールは公式練習、競技前練習、予選、本選、ファイナル出頭時刻、ファイナルおよび表彰式の日時が入っていなければならない。公式ス

ケジュールは、選手権大会の前年の11月のISSF組織委員会のためのワークショップ年会の後できるだけ早くISSFウェブサイトで発表されなければならない。テクニカルデレゲートによって承認されたスケジュール変更は最終参加締切りの後できるだけ早く作成され、全参加選手団に配布されなければならない。

6.6.1.3 **参加資格および制限** 国内競技連盟は、ISSF選手権大会で、表彰対象となる選手を各国各種目最大3名参加させることができる。加えてワールドカップ大会では、組織委員会の選択により、オリンピックMQS資格を争う(MQSのみ)または表彰対象外(OOC)の参加者として各国各種目最大2名の追加選手を受け入れることができる。

6.6.1.4 **最大参加数** 組織委員会とテクニカルデレゲートは各種目の最大参加数(射座数)をプログラムの中で提示しなければならない。種目の最大参加数を超えた最終参加者は待機リストに載せられ、遅れた参加の締め切り(Late Entry Deadline)の前に参加枠の空きが出た場合に限り受け入れられる。

6.6.2 **代表者会議(テクニカルミーティング)**

競技会ディレクターとテクニカルデレゲートによって進行される代表者会議は、競技の詳細やスケジュールの変更をチームリーダーに知らせるために、競技開始日の前日に実施する予定がされていなければならない。

※6.6.3 **練習**

6.6.3.1 **公式練習** ワールドカップ大会では公式到着日の翌日に1日間の公式練習日を設定しなければならない。

6.6.3.2 **競技前練習(PET)** 競技前練習は各個人種目の予選または本選の競技実施前日に行われなければならない。もし、ミックスチーム種目が同様の個人種目の後に続いてある場合、競技実施予定に空き時間があるときには、射座を指定しない形式での競技前練習を予定することができる。ライフル、ピストルの個人種目については、各選手が自分の競技する射座で1射群あたり40分以上(ラピッドファイアピストルにおいては1射群あたり30分以上)の練習がその種目の競技実施前日にできなければならない。この練習時間は公式練習に追加されるものである。

6.6.3.3 **非公式練習** 公式練習および競技前練習に加えて、射場が空いているならば、選手は追加の非公式練習の機会を得られるべきである。

6.6.4 **参加と参加確認**

各国連盟は公式到着日の30日前の最終参加締切りまでにISSFオンライン登録サービスに参加申込書を送付しなければならない(GR3.7.3.4)。

a) 遅れた参加の申し込みは、追加の罰金の支払いと空き射座があれば、公式到着日の3日前まで提出することができる(GR3.7.3.4)。

b) 組織委員会に対する参加確認と参加料の支払いは到着までにチームリーダーが完了しておかななければならない(GR3.7.4)。

c) 参加者の変更はGR3.7.3に従ってのみ行うことができる。参加者の変更は変更の生じる種目の競技前練習(PET)の行われる12時間前までに完了しなければならない。

6.6.5 **射座割表**

a) ライフルおよびピストル種目の射座割表は各種目の競技前練習の行われる16時間前に

は発表され、配布されていなければならない。

- b) **サステナビリティ選択** 組織委員会が競技会場全域において普通に利用できる広範囲のEメール配布システムまたはワイヤレスインターネットシステムと公開された情報ステーションを提供することができるならば、テクニカルデレゲートの承認を得て、組織委員会は、印刷された射座割表を配布しない、ペーパーレスシステムを使うことができる。
- c) **選手交代** 団体種目に限り、該当種目の予定開始時刻の遅くとも30分前までなら、すでに登録してある選手を別の選手に交代することができる。このルールは競技が何回かに分けて行われたり、数日に渡って行われる場合でも適用される。

6.6.6

射座割の基本原則

- a) 射座と射群の抽選は、テクニカルデレゲートの監督のもと、くじ引きかこの目的に合ったコンピュータプログラムで実施されなければならない。
- b) 射座割の決定にくじを用いることに際して、テクニカルデレゲートは射場の制約条件を考慮することを承認しなければならない。テクニカルデレゲートはMQSのみの選手を射場の特定の場所に集めることを承認することができる。
- c) 選手個人や各チーム(国)はできる限り平等に近い条件のもとで射撃ができるようにすべきである。
- d) 同じチーム(国)の選手が隣接する射座に割り当てられるべきではない。
- e) 各チーム(国)の選手はできる限り平等に各射群に割り振られるべきである。
- f) エアライフルまたはエアピストル種目において選手の数が増える場合、射座割は抽選によって2またはそれ以上の射群に振り分けられなければならない。
- g) 団体戦が複数の射群で行われるときは各チームの構成メンバーの選手を各射群に平等に割り当てなければならない。
- h) ライフル種目の競技が2日以上に渡って行われる場合、それぞれの日にすべての選手が同じ姿勢で同じ弾数を撃たなければならない。
- i) ピストル種目の競技が2つのパートまたは日に分けて実施される場合、後半または2日目が始まる前にすべての選手が前半または1日目を終えていなければならない。すべての選手はそれぞれの日に同数のシリーズを撃たなければならない。

6.6.6.1

50mおよび300m屋外射場における予選

選手の数が増える場合、ジュニアワールドカップにおいてスケジュールに制限があり、テクニカルデレゲートによって予選が放棄された場合を除き、予選が行われなければならない。

※

- a) 予選はその種目の全コースを実施しなければならない。
- b) 予選の射群は本選の実施される日の前日に実施されるべきである。
- c) 予選通過者は各射群の上位者から、各射群の実参加者数と同比率で、選出されなければならない。予選通過者はできるだけ早く発表されなければならない。
- d) **計算式**: 使用可能な射座数 ÷ 実参加者総数 × 射群の実参加者数 = 予選通過者数

(例) 60射座で101人参加の場合

第1射群: 54名 → $32.08 (60 \div 101 \times 54) = 32$ 名予選通過

第2射群：47名→ $27.92(60 \div 101 \times 47) = 28$ 名予選通過

- e) 予選で団体戦を行う必要がある場合、各チームの選手は予選の各射群に同数ずつ振り分けられなければならない。団体戦の得点は予選の得点によるものとする。
- f) 第1射群に各チームの2名を第2射群に残りの1名を配分するには射座が不足してしまう場合、予選は各射群に1名ずつを配置する3つの射群により実施される。
- g) 予選を通過できなかった選手は本選に出場することは許されない。
- h) 予選通過者の最下位における同点の場合の順位決定は、同点の順位決定規則による。
- i) ジュニアワールドカップにおいて予選が予定されず射群が設定されていた場合、チームリーダーは選手に撃つ射群を指示しておかなければならない。

6.6.6.2 スケジュールと射座割—25mラピッドファイアピストル

- a) 後半の30発のステージは、すべての選手が前半の30発のステージを完了した後、開始されなければならない。参加者数がすべての射群の射座を満杯にするには足りない場合、最終射群の射座を空けて調整されるべきである。
- b) 後半のステージの射群は、前半のステージの得点による順位に従い、低い順位の選手が早い射群になるようにする。各射群の射座はくじ引きで決められる。

6.6.6.3 スケジュールと射座割—25mピストル女子

この種目は1または2日間のスケジュールで行うことができる。可能であるならば、速射ステージとファイナルを2日目に行う2日間のスケジュールとすべきである。2日以上となるスケジュールの場合、精密射撃ステージのPETを1日目の前に、速射ステージのPETを1日目の精密射撃ステージの終了後に行うべきである。

6.7 競技用服装および用具

- 6.7.1 ISSFはISSF選手権大会において選手が使用できる競技用の服装および用具に関して明確なる基準を制定した。また、これらの基準は他の選手よりも不正に有利となる選手のない公正で平等な競技会の原則を守るために用具検査において調べるためのものである。
- 6.7.2 選手は、ISSF選手権大会で自分の使用する全ての用具と服装がISSFルールを遵守していることを保証する責任を負う。
- 6.7.3 全ての用具は用具検査ジュリーと組織委員会により設置された用具検査係において、各競技ジュリーによるものと同等に検査される。

6.7.4 服装および用具の基準

- 6.7.4.1 特定の種目の中で使用されるルールに規定された用具については、各種目のルールを参照すること。
- 6.7.4.2 選手の両脚、胸、または腕の動きを過度に制限したり固定したりする、キネシオもしくは医療用または同様のテープの使用を含む、特別な装置、方法、衣服の使用がライフルおよびピストルの選手に禁止されるのは、選手の技術を人工的に向上させないためである。
- 6.7.4.3 ラジオ、iPods、または似たようなタイプの音響発生または通信装置の使用は、競技役員を除き、FOPでは競技中および練習中も禁止される。
- 6.7.4.4 携帯電話またはその他の手持ち型の通信装置（例えばタブレットなど）、電子装置または腕時計型装置（例えばスマートウォッチなど）は、射座内において、選手が使用することは許されない。

6.7.5

ISSFドレスコード

公式スポーツ行事に適したマナーに則った服装で射場に現れることは選手、コーチおよび役員
の責任である。選手と役員の服装はISSFドレスコードを遵守しなければならない。

6.20のISSFドレスコード全文を参照すること。

6.7.6

用具検査

6.7.6.1

組織委員会は用具検査ジュリーの監督のもと用具検査を行う用具検査係を設置しなければ
ならない。用具検査サービスは、選手が競技前の用具検査をできるように、全ての選手に対
して利用できるようになっていなければならない。ISSFルールの遵守を保証するために、
用具検査ジュリーと用具検査係はランダム競技後検査を行わなければならない(6.7.9)。

6.7.6.2

用具検査手順

- a) 組織委員会はチーム役員および選手に、競技開始前または競技中に、用具検査をいつ、
どこで行うことができるかを通知しておかなければならない。
- b) 用具検査室は、公式練習日からライフル、ピストル、ランニングターゲットの競技が終
了する日まで、選手の用具の自主検査のために開けられていなければならない。
- c) 毎日の検査前及び競技後検査において失格となると思われる事態が生じたときに行われ
る検査器具の調整には、ISSF検査器具調整器具を用いなければならない。
- d) 選手には自分の使用する用具が競技後検査に合格するという確証がもてなければ、その
用具を検査するために用具検査室に持っていくことを推奨する。
- e) 用具検査係は全ての射撃ジャケットと射撃ズボンを、選手に登録されたシリアルナンバ
ーのついたタグを調べ、確認しなければならない。タグはタグを壊すことなく取り外す
ことができないように設計されてなければならない。2013年以前に“One Time Only
検査”で発行されたタグはこの要求を満たしている。タグのないジャケットとズボンは
ISSFルールを遵守しているか検査され、選手に登録されたものとしてタグが取り付
けられなければならない。用具検査ジュリー及びライフルジュリーは、ルール7.5.1.2
に従い、ランダム検査でジャケットやズボンのタグを利用する。
- f) 用具検査係は用具検査で検査したそれぞれの銃、射撃ジャケットおよび射撃ズボンの選
手の名前、メーカー、銃番号および口径を用具検査票(コントロールカード)に記録し、
保存しなければならない。
- g) エアまたはCO₂シリンダーが保証期間(最大10年)内であり安全であると保証する
ことは選手の責任である。このことは用具検査がチェックすることができ、推奨される
措置を忠告することができる。
- h) 用具検査票のコピーが1枚選手に渡される。選手は用具とともにその検査票を常に持つ
ていなければならない。もし選手が用具検査票をなくした場合、その再発行には10.
00ユーロの料金がかかる。
- i) もしライフル用の服装を同じ選手権大会の期間中に2度目もしくは再検査のために再
提出するならば、再検査費用として20.00ユーロが課せられる。

6.7.7

Bib(スタート)番号および選手の着用物

6.7.7.1

すべての選手は競技中常にBib(スタート)番号を着用している上着の腰よりも上の背中
の部分につけていなければならない。Bib(ゼッケン)には選手に与えられたその選手権

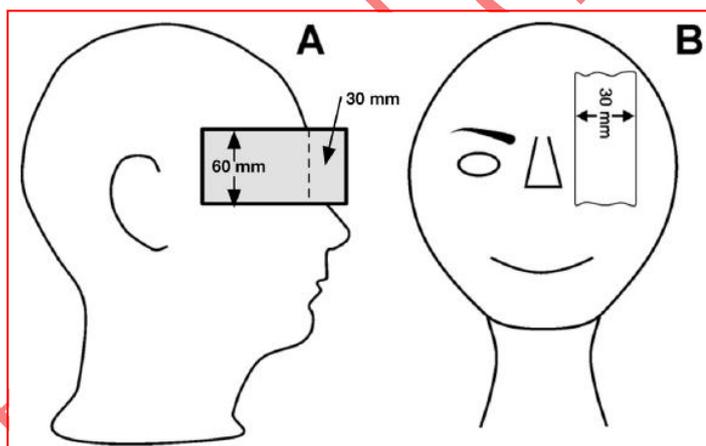
大会での番号、姓、名の頭文字、所属国名（I O C 国名略称のみ）が示されていないなければならない。国旗を使用する場合は、I O C 国名略称の左側に配置されなければならない。名前に使われる文字の大きさは高さ20mm以上で、できる限り大きなものが使用されるべきである。

6.7.7.2 **B i b 番号**は競技前練習中や競技中を通して常に選手の上着の腰より上の背部に付けられていなければならない。もしB i b 番号を持っていて付けていない場合、選手は競技することはできない。

※6.7.7.3 すべての選手は**I S S F 競技者資格**、**I S S F 商権**ならびに**I S S F スポンサーシップ/広告ルール**を守らなければならない。このルールは服装の上に付けられた標章、スポンサー、広告、トレードマーク等に関する制限と制裁について規定している。

6.7.8 **ブラインダー**

6.7.8.1 帽子、キャップ、眼鏡枠またはヘッドバンドに取り付ける**サイドブラインダー**（片側または両側）は高さ60mmを超えないものの使用がショットガンの選手に限り許される（A）。サイドブラインダーの前端は、横から見たときに、額の中心から伸ばされる直線より**30mm**を超えて前方に延びてはならない。



6.7.8.2 照準に使用しない眼を覆う**1個のフロントブラインダー**は幅30mmを超えないものの使用がすべての選手に許される（B）。

6.7.9 **競技後検査**

6.7.9.1 競技後検査は予選および本選の後およびファイナル前の出頭時間中に“**I S S F 用具検査ガイドライン**”に明示された手順に従って行われなければならない。用具検査ジュリーはすべての競技後検査の運営を監督する責任を負う。服装とテーピングの検査は選手と同性の審判が担当しなければならない。次に明示された競技後検査項目を通過できなかった場合、失格（DSQ）となる。

- a) ライフル種目：射撃用服装（ジャケット、ズボン、靴、グローブ）、下着、テーピングおよびライフル銃の規格（該当するならば引き金の重さを含む）。
- b) ピistol種目：靴、テーピング、引き金の重さ、ピistolおよびグリップの規格（8.12）および該当するならば弾速と弾頭の重さ。
- c) ショットガン種目：ショットガンルールを参照。

d) ランニングターゲット種目：銃の重さ、スコープの倍率（10m）、引き金の重さ（50m）およびマーカーテープ。

e) 全種目：競技後検査への出頭の通知を受け取ったのに出頭しない場合。

6.7.9.2 競技後検査に通らなかった選手が出た場合、主任用具検査ジュリーまたは主任用具検査ジュリーに担当を指示されていた用具検査または競技ジュリーは検査が正確に行われていたことを確認し、選手を失格にしなければならない。確認の手順には、検査器具の測定が正確であることを確認するために、ISSF検査器具調整器具の使用が含まなければならない。

6.7.9.3 この失格に対する上訴は上訴ジュリーに提出することができる。上訴ジュリーは、検査が正確に行われていたのであれば、再検査はできないことを決定しなければならない。上訴ジュリーが競技後検査による失格を覆すことができるのは、検査が不正確であったことが見いだされたときのみである。

6.7.9.4 選手が銃、服装または用具に変更または変更を試みたという確かな証拠をジュリーが手に入れた場合、その選手を指名選択検査（特定の選手を選ぶ）することができる。

6.8 競技ジュリーの任務と職務

ジュリーは組織委員会の任命した競技役員を助言し、援助し、監督する責任を負う。

a) 競技（ライフル、ピストル、ショットガン、ランニングターゲット）ジュリーは各種目の競技運営を監督する。

b) RTS（成績、計時および採点）ジュリーは採点および成績処理を監督する。

c) 用具検査ジュリーは選手の服装および用具の検査を監督する。

6.8.1 組織委員会に任命された射場役員、RTS役員、レフリーは、ジュリーによる助言、監督を受けながら、競技会の実質運営に責任を負う。射場役員とジュリーは互いに、ISSFルールに則り、練習および競技を進行していくことに責任を負い、競技会の開催中、公正で公平なルールの実施を確保しなければならない。

6.8.2 すべてのジュリーは、勤務中には、公式ISSFジュリーベスト（赤色）を着用しなければならない。ジュリーベストはISSF本部から購入しなければならない。すべての射場役員は、勤務中には、見分けのつくベスト（緑色が望ましい）を着用するかまたは見分けのつく方法をとることを推奨する。すべての標的役員または射撃線の前での作業のある係員は蛍光色のベストまたは目立つ腕章を着用することを推奨する。

6.8.3 競技の開始前に競技ジュリーはISSF規則に適合しているかを確認するため、それぞれの担当の射場を検査し、射場係員などの組織構成と配置を点検しなければならない。ジュリーの点検は従前に行われたテクニカルデレゲートによる点検と連携して行われるべきである。

6.8.4 ジュリーはたえず選手の射撃姿勢や用具を観察しなければならない。

6.8.5 ジュリーは、練習および競技中いつでも、選手の銃、用具、姿勢などを検査する権利を持つ。

6.8.6 練習および競技中、ジュリーは選手の衣服および用具がISSFスポンサーシップ/広告ルール（4.4~4.7、6.7.7.3）を遵守しているかチェックする責任を負う。

6.8.7 競技中では、ジュリーは選手が撃発しようとするときや速射種目のシリーズ中の接近は避けるべきである。しかしながら、危害予防に関する場合は即座の行動を取らなければならない。

6.8.8 ジュリーの過半数は競技中、常に射場において、必要とあらばジュリー会議を開き、即座に裁定を下すことができなければならない。

- 6.8.9 ジュリーは競技中、独自の裁定を下す権利を持つが、少しでも疑問のある場合は他のジュリーや射場役員に相談すべきである。チーム役員または選手が一人のジュリーの裁定に同意できない場合、書面の抗議を行う事によって、ジュリーの多数決による裁定を求めることができる。
- 6.8.10 ジュリーは、選手の持つ国籍、人種、宗教、民族、文化にかかわらず、完全に公平な裁定を下さなければならない。
- 6.8.11 ジュリーは、ISSFルールに従って、提出されたどんな抗議も扱わなければならない。ジュリーは射場役員や直接の関係者との協議後にその抗議に対する裁定を下すものとする。
- 6.8.12 ジュリーは、抗議の裁定によっては、ファイナルに出場することができるかもしれない選手のある場合、ファイナルの開始時刻を遅らせなければならない。抗議がファイナル出場選手に関わりない場合、RTSジュリーはファイナルの射座割表を公表することができる。公式最終成績はすべての抗議および上訴の裁定が下されるまで発表することはできない。
- 6.8.13 ジュリーはISSFルールに規定されていないあらゆる問題に対して裁定を下さなければならない。そのような裁定は、各選手権大会後にテクニカルデレゲートに提出される主任ジュリーの報告書の中に含まれていなければならない。
- ※6.8.14 選手およびチーム役員はジュリーになることはできない。ジュリーは競技中いかなる時もISSFルールの範囲を超えて選手に助言、指導、補助をしてはならない。
- 6.8.15 主任ジュリーはジュリーのスケジュール管理とすべての公式および競技前練習を含むすべての時間に十分な人数のジュリーを確保することに責任を負う。
- 6.8.16 主任ジュリーは、選手権大会後できるだけ早くテクニカルデレゲートを通してISSF事務局に提出されるジュリーの裁定と行動に関する報告書を準備しなければならない。
- 6.9 **組織委員会の任命する競技役員**
- 6.9.1 **射場長（CRO）の任務と職務**
- 6.9.1 射場長（CRO）は射場ごとに任命されなければならない。射場長はすべての射場役員と射場勤務員の統括者であり、競技種目の適切な運営に責任を負う。射場長はすべての射場内の号令の発令に責任を負い、すべての射場勤務員がジュリーに対して協力することを保証する責任をも負う。射場長は射場設備の故障に対し早急な措置を行う責任を負い、射場を運営するために必要な専門家や資材を確保する責任を負う。射場長の支援、特に種目や競技中に生じた不測の事態に関する射場の文書や射場事故報告書（様式IR）の維持管理、のために副射場長の任命を強く推奨する。
- 6.9.2 **射場役員（RO）の任務と職務**
- 射場役員（RO）は標的グループの各セクションまたは10射座ごとに任命されなければならない。
- 射場役員は担当する射座区域において射場長の指示を実行させる責任を負わなければならない。
 - 射場役員は選手の名前とBib番号をチェックして、射座割表と一致していることを確認しなければならない。
 - 射場役員は選手の銃、用具および装備が検査、承認されていることを確認しなければならない。

- d) 射場役員は選手の射撃姿勢をチェックし、不審があれば Jury に報告しなければならない。
- e) 射場役員は射場長の号令が伝わっているか確認しなければならない。
- f) 射場役員は競技中に生じる故障、抗議、妨害または他のさまざまな問題について必要な行動をとらなければならない。
- g) 射場役員は口頭の抗議を受理し、Jury に引き継がなければならない。
- h) 射場役員はすべての不測の事態、妨害、罰則、銃器故障、誤射、許可された追加時間、承認された再射などを事故報告書（IR）、標的上またはプリンター用紙に適切に記録する責任を負わなければならない。
- i) 得点に関して、選手と会話したり、コメントすることは控えなければならない。

6.9.3 **RTS（成績、計時および採点）長（CRTSO）の任務と職務**

CRTSO は選手権大会ごとに任命されなければならない。CRTSO はすべての RTSO およびエントリーや成績発表に関する係員の統括者である。CRTSO は選手権大会におけるすべての採点および成績処理の正確な実施に責任を負う。

6.9.4 **RTS 役員（RTSO）の任務と職務**

本選の行われる射場ごとに 1 名の RTSO が任命されるべきである。RTSO は各射場において、RTS Jury、競技 Jury、射場役員および公式成績作成員とともに採点と成績処理の実施を進める。

6.10 **競技会における EST 操作**

6.10.1 **EST 技術役員**

- a) EST 技術役員は電子標的装置の操作、保守に責任を負う。
- b) EST 技術役員は射場役員や Jury に助言することはできるが、ISSF ルールの適用に関していかなる裁定も下してはならない。
- c) EST 技術役員は通常、公式成績作成員または組織委員会によって指名されるが、EST 操作と電子競技会運営システム（コンピューターソフトウェア）の取り扱いに関する研修を修了した者でなければならない。

6.10.2 **標的役員**

標的役員は EST の操作と保守を補助するために組織委員会によって任命される。

- a) 各種目の各射群に先立って、標的役員は標的の白い部分に弾痕がないこと、標的枠上のすべての弾痕が明示してあることを確認しなければならない。
- b) 競技会中、標的役員はバックターゲットとバックカードを治痕しコントロールシートを交換する。
- c) バックターゲット、バックカード、コントロールシートの治痕および交換は採点が完了するまで行ってはならない。

6.10.3 **Jury の任務 — EST**

6.10.3.1 RTS Jury は採点と成績処理の監督をし、採点に関する疑問または抗議の解決を助けるため射場にいななければならない。競技 Jury は、RTS Jury が 2 名以下しかいない状態で行動や裁定が必要となった場合、補助をしなければならない。

6.10.3.2 種目の各射群の前に Jury は以下の項目について確認するために EST を点検しなけれ

ばならない。

- a) 標的の白い部分に弾痕がないこと。
- b) 標的枠上の弾痕が明確に示されていること。
- c) コントロールシートが交換されていること。
- d) バッキングカードとバッキングターゲットに、コントロールシートに覆われている中心部分以外に、弾痕がないこと。

6.10.4

ESTでの射撃

- a) 選手は練習期間中にモニター画面の標的表示の切り替え(ズーム)および試射、本射の切り替えボタンの取り扱いに慣れておかなければならない。
- b) 10m、25mおよび50mの単姿勢種目では試射から本射への切り替えは、射場係員の操作によって行われる。疑問を感じた選手は射場役員に手助けを頼まなければならない。
- c) 50mライフルの三姿勢種目では、選手が膝射または伏射を終了した後の本射から試射への切り替えおよび本射への再切り替えは射手の責任において行われる。選手は伏射および立射の本射前には弾数無制限の試射を撃つことができるが、これらの試射のための追加時間は許されない。もし選手が姿勢切り替えの後、本射から試射への切り替えを不注意で怠った場合、前の姿勢のエクストラショットとして記録された弾痕は無効とされ、標的は試射に切り替えられなければならない。
- d) 選手のモニター画面はそのどの部分についても覆い隠すことは許されない。画面全体がジュリーおよび射場係員に見えなければならない。
- e) 選手ならびに射場役員は、ジュリーの承諾のある場合を除き、その射群またはその種目が終了する前にプリンタコントロールパネルおよび/またはプリンター用紙に触れてはならない。
- f) 選手は射場を離れる前に得点を確認し署名をプリンター用紙(合計の次)にすべきである。
- g) 選手がプリンター用紙に署名しなかった場合、それをRTS室に送ることを許可するためにジュリーまたは射場役員はそのプリンター用紙に頭文字で署名すべきである。

6.10.5

試射中の得点表示に関する不満

選手が、試射の間に、電子標的の示す弾着や採点に不満を持った場合、ジュリーはその選手に対し射座の変更を提案することができる。

- a) 選手には適切な延長時間が与えられる。
- b) ジュリーは可能な限り迅速に選手が不満を訴えた射座で行われた試射を**ESTの検査手順**に従って検査を行う。
- c) この一連の検査で選手が不満を訴えた射座の電子標的が正しい結果を提示していたことが確認された場合、その選手には第一シリーズの最も低い得点に2点の減点が科せられる。

6.10.6

ロール紙やゴムバンドの動きの異状

選手の不満の原因がロール紙やゴムバンドの動きの異状にあると、ジュリーが確認した場合、

- a) 選手は予備射座に移動する。
- b) 選手にはその種目の残り時間に認められた追加時間を加えた時間が与えられ、この中

で弾数無制限の試射が許される。

- c) 選手はジュリーによって決められた数の本射弾を再射し、加えてその種目を完射するに必要な数の本射弾を撃つ。
- d) その射群が終了した後、RTSジュリーがそれぞれの標的で採点された得点のうちどれを採用するかを決定する。
- e) 最初の射座のモニターに正しく表示されたすべての本射弾の得点と2番目の射座の標的に発射したその種目を完了させるために必要な数の本射弾のすべての得点を加えたものが選手の得点として計算される。

6.10.7

得点に関する抗議

得点が表示され記録されたにもかかわらず、選手が表示された得点に関して6.16.5.2に従い抗議した場合。

- a) 射群終了後、次の射群のために標的のデータがリセットされる前に、技術役員または射場役員によって、不満や抗議のあった標的とその両隣の標的の詳細なプリンターリザルト（ログプリント）が出力されなければならない。
- b) 射群完了後、ESTの検査手順が実施される。
- c) 表示されないまたは間違っただけの表示の弾痕はRTSジュリーによって採点されなければならない。
- d) RTSジュリーが抗議にかかる弾痕は正しく採点されていたと確認した場合、2点の減点が科せられる（6.16.5.2.C）。

6.10.8

得点に関する抗議または不満に対する電子標的（EST）の検査手順

6.10.8.1

得点に関する抗議、不満または得点の不表示などがあった場合、ジュリーは次の物を回収しなければならない（それぞれの物に射座番号およびカード、シート、標的の方向と射群、シリーズ、回収時刻が記入されていない）。

- a) コントロールシート（25m/50m）。コントロールシートの外に弾痕がある場合、コントロールシートを取り外す前に、コントロールシートとバックアップカードにある弾痕の位置関係を記録しておかなければならない。
- b) バックアップカード（25m/50m/300m）。
- c) バックアップターゲット（25m）。
- d) 黒色ロール紙（10m）。
- e) 黒色ラバーバンド（50m）。
- f) 射場事故報告書。
- g) ログプリント。
- h) 電子標的のコンピューターに記録されたデータ（必要に応じて）。

6.10.8.2

ジュリーはESTの表面、的枠を調べ、黒点の外にあるどのような弾痕の位置も記録しなければならない。

6.10.8.3

RTSジュリーの許可が出る前にログの消去を行ってはならない。

6.10.8.4

弾痕の数はそれらの位置関係も考慮に入れて数えられなければならない。

6.10.8.5

ジュリーは上記の物を調べ、正式なジュリー裁定が下される前に、独自の査定をしなければならない。

6.10.8.6 ジュリーは制御コンピューターの示す成績に手動で修正をする(例えば、減点や故障後の修正された成績の記入など)際には監督をしなければならない。

6.10.9 ESTの故障

これらのルールは10m、50mおよび300mのESTに適用される。25mESTの故障に関してのルールはピストルルール8.10を参照。

6.10.9.1 射場のすべての標的が故障した場合

- a) 故障の起きた時刻とその時の経過射撃時間は射場長とジュリーによって記録されなければならない。
- b) 各選手の撃ち終わった本射弾数は数えられ、記録されなければならない。射場が停電になった場合、標的装置が発射弾痕を記録できるようになるまで電力供給が回復するのを待てばよい。この場合、射座のモニターの正常作動は要求されない。
- c) 故障が回復し、全標的が機能するようになれば、競技の残り時間には5分間が加えられる。競技の再開される時刻は、拡声器を通じて、少なくとも5分前までに通知される。選手は競技再開の5分前には射座での準備が許されなければならない。弾数無制限の試射が、残り時間の中で本射再開前にのみ、許されなければならない。

6.10.9.2 1個の標的が故障した場合

- a) 電子標的が5分間以内に修理できない場合、選手は予備射座に移動しなければならない。
- b) 射撃の準備が整った時点で、5分間が残り競技時間に追加される。
- c) 選手には本射再開前に弾数無制限の試射が許される。

6.10.9.3 モニターに弾痕の位置表示や得点記録がなかった場合

選手はただちに異状を最寄りの射場役員に知らせなければならない。射場役員は不満の受付時刻を記録しなければならない。1名以上のジュリーがその射座に出向かなければならない。選手はその電子標的に対し、もう1発、本射を行うように指示される。

この弾痕の得点および位置がモニター上に記録され表示された場合

- a) 選手はこのまま競技を継続するように指示されなければならない。
- b) このエクストラショットの得点と位置および発射時刻は記録されなければならない。それが何発目か(不明の弾痕を含む)、その得点、その位置および射座番号は、書面でジュリーに報告され、個票と射場事故報告書に記録されなければならない。
- c) その射群の競技終了後、ESTの検査手順が行われる。この情報とエクストラショットの発射時刻およびその位置を利用し、RTSジュリーはエクストラショットを含むすべての弾痕がコンピューターに記録されている得点データのどれに相当するかを特定する。
- d) すべての弾痕が正しく記録されていた場合、疑問のあった発射弾(表示、記録のなかった弾)の得点はその選手の得点として計算される。エクストラショットとして疑問の示された直後に発射された弾についてはこれを得点に含め、最終弾(規定弾数を超えたもの)が取り消される。
- e) 疑問のあった発射弾の弾痕がESTの検査手順によっては見つからず標的外の弾痕として確認された(注:これは、疑問のあった発射弾の弾痕が、10m種目では回収された黒色ロール紙または標的面に見つけれなかった、25m種目ではバックターゲット

ット、コントロールシートまたはコントロールカードに見つけられなかった、50mまたは300m種目では標的外の弾痕の証拠があったことを意味する。) 場合、疑問のあった発射弾は0点として採点され、最終弾(規定弾数を超えたもの)が無効とされなければならない。

f) 疑問のあった発射弾のデータがコンピューターメモリーの中に見つかった場合、RTS ジュリーはそれをその疑問のあった発射弾と決定し、その得点を採点しなければならない。

g) 50mまたは300m種目の疑問のあった発射弾が見つからなかった場合、ジュリーは標的外の弾痕として0点と採点するかまたは標的外の弾痕としての確かな証拠がないなら標的システムに異常が生じたと結論を下し、見つからなかった弾痕の代わりにエクストラショットと最終弾の得点を採点する。

6.10.9.4 **または、指示されたエクストラショットが記録、表示されず、ESTが5分以内に修理できない場合**

a) 選手は予備射座に移動しなければならない。

b) 射撃の準備が整った時点で、5分間が残りに競技時間に追加される。選手には弾数無制限の試射が許される。

c) 10mおよび50mのライフルおよびピストル種目では、選手は前の射座で記録、表示されなかった2発の本射を再射する。

6.11 **競技会手順(6.17のファイナル競技手順も参照すること)**

6.11.1 **10mおよび50mライフルとピストル種目のルール**

6.11.1.1 **準備および試射時間**

選手には競技開始前に最終準備と弾数無制限の試射を行うために15分間を与えられなければならない。

a) 準備及び試射時間は本射の公式開始時刻の約30秒前に終わらせなければならない。

b) 準備および試射時間の開始15分前までに試射的は上げられていなければならない。

c) 選手は射場長が選手を射座に呼び寄せる前に銃や用具の射座への持ち込みをすることはできない。

d) 射場長は準備および試射時間の開始15分前までに選手を射座に呼び寄せなければならない。

e) 複数の射群がある場合、すべての射群で射座への用具の持ち込みのための時間が同じになるようにしなければならない。

f) 射場長が選手を射座に呼び寄せた後は準備および試射時間前であっても、選手は射撃線において銃を取り扱い、据銃、照準、空撃ち(空撃ちのためにセフティフラッグを外すことができる)をすることができる。**ファイナルでは、選手は準備および試射時間が始まるまではセフティフラッグを外したり、空撃ちをすることはできない。**

g) ジュリーと射場役員による競技前チェックは準備および試射時間が始まるまでに完了しなければならない。

h) 準備および試射時間は“**PREPARATION AND SIGHTING TIME ... START** (プレパレーション アンド サイティング タイム... スタート)”

の号令により開始される。“START (スタート)”の号令前の発射はできない。

- i) 準備および試射時間の開始前に1発以上の弾を発射してしまった選手には、安全上の問題のある場合は、失格が科せられなければならない。安全上の問題のない場合(6.2.3.5)は、本射の1発目を0点として記録しなければならない。
- j) 準備および試射時間が14分30秒を過ぎたとき、射場役員は“30 SECONDS (サーティー セコンズ)”とアナウンスしなければならない。
- k) 準備および試射時間の終了時刻には、射場長の“END OF PREPARATION AND SIGHTING... STOP (エンド オブ プレパレーション アンド サイティング... ストップ)”の号令が発せられなければならない。その後、標的役員が本射への切り換えをできるように、約30秒間の休止をとらなければならない。
- l) “END OF PREPARATION AND SIGHTING... STOP (エンド オブ プレパレーション アンド サイティング... ストップ)”の号令の後、“MATCH FIRING... START (マッチ ファイアリング... スタート)”の号令の前に選手が弾を発射した場合、その弾は本射として採点してはならず、さらに本射第1発目に2点の減点が科せられる。

6.11.1.2

本射の開始

- a) すべての標的が本射に切り替えられた後、射場長は“MATCH FIRING... START (マッチ ファイアリング... スタート)”の号令をかける。本射は射場長の“START (スタート)”の号令により開始されたものとみなされる。
- b) 本射開始後のすべての発射弾は本射として記録されなければならない。しかしながら空撃ちは許される。
- c) 本射開始後は、50mライフル三姿勢種目の姿勢の切り替え時(7.7.3参照)およびルールに基づくジュリーの許可を受けた場合を除いて、試射は許されない。
- d) このルールに反するすべての試射の発射弾は本射弾とみなされ、0点と記録されなければならない。
- e) 射場長は拡声器により競技時間終了の10分前および5分前に、残り時間を選手に知らせなければならない。
- f) 射場長やジュリーによって時間延長が認められていない場合、本射時間中に発射できなかった弾は0点として採点されなければならない。
- g) 10mESTを使用した本射中にジュリーが射座内の選手の位置の側方への30cm以上の移動を指示した場合、選手には本射再開前に2分間の延長時間と追加の試射が与えられる。

6.11.1.3

“STOP (ストップ)”の号令

競技は“STOP (ストップ)”の号令によって中断しなければならない。

- a) “STOP”の号令または信号の後に発射された弾は0点と採点されなければならない。
- b) その弾痕が特定できない場合、その標的の最も高い得点の弾痕から順に取り消され、0点として採点されなければならない。

6.11.2

10mエアガン種目の特別ルール

6.11.2.1

選手が準備および試射時間前に発射ガス(空気)を放出した場合、1回目の違反には警告

(Yellow Card) が出されなければならない。それ以降の違反については1回につき2点の減点 (Green Card) が本射第1シリーズの最も低い得点にペナルティとして科されなければならない。

6.11.2.2 本射開始後、標的に弾痕を残さない発射ガス (空気) の放出には0点が記録される。ファイナルを除き、発射ガス (空気) の放出を伴わない空撃ちは許される。

6.11.2.3 選手がガスや空気シリンダーの交換または充填をする場合、射場役員の許可を受けた後、射座を離れて行わなければならない。競技時間中のガスや空気シリンダーの交換または充填には時間延長は認められない。

6.11.2.4 銃には1発のみ装填できる。銃に1発以上の弾が故意でなく装填された場合
a) 選手が状況に気付いているなら、銃を保持していない手を挙げ、問題が生じたことを射場役員に示さなければならない。そして射場役員の監督下で銃の抜弾をしなければならない。この場合、ペナルティは科されない。このことによる延長時間は許されない。
b) 選手がその事に気づかず同時に2発を発射した場合、このことを射場役員に申告しなければならない。もし2発の弾痕が標的にあった場合、高い得点が採用され、2番目の弾痕は無効とされる。標的に1発しか弾痕のなかった場合は、この得点が採用される。

※6.11.3 **10m種目、50mライフルおよびピストル種目、300mライフル種目における中断**

6.11.3.1 選手は自らの責任によらない理由で**3分間以上**射撃を中断させられ、その中断が自らの銃および弾薬の故障によるものでない場合、中断された時間分の時間延長を要求できる。この中断が数分の残り時間しかないときにあった場合には中断された時間に1分間を加算した時間の延長を要求できる。

6.11.3.2 選手は自らの責任によらない理由で**5分間以上**射撃を中断させられ、その中断が自らの銃および弾薬の故障によるものでない場合または**射座を移動させられた場合**、選手は中断した時間に5分間加算された延長時間を加えた残り時間の初めに弾数無制限の試射をすることができる。

a) 射場役員またはジュリーは個票および射場事故報告書にこのことの完全な説明が記録されていることを確認しなければならない。

b) ジュリーまたは射場役員によって許可された**延長時間**については射場事故報告書に理由を添えて記入されなければならない。

6.11.4 **選手の遅刻**

選手が競技に**遅刻**した場合、参加はできるが追加時間は与えられない。選手が準備および試射時間の後に到着した場合、追加の試射時間は与えられない。遅刻が不可抗力によるものであると証明された場合、ジュリーは、ファイナルの開始時刻の遅れや全体の射撃日程を崩さない範囲で、準備および試射時間を含めて延長時間を補償しなければならない。この場合、ジュリーはいつ、どの射座で遅刻した選手が競技を開始するのかを決定する。

6.11.5 **イレギュラーショット (不規則弾痕) — 種目および姿勢における超過弾**

選手がその種目または姿勢の規定弾数より多くの弾を発射した場合、最終標的の超過弾は無効とされなければならない。超過弾が特定できない場合、最終標的の最高得点から順に無効とされなければならない。また選手には超過弾1発につき2点の減点が第1シリーズの低い点数から順にペナルティとして科せられなければならない。

6.11.6 **誤射（クロスファイア）**

- 6.11.6.1 本射の誤射は0点として採点されなければならない。
- 6.11.6.2 選手が試射を別の選手の試射的に誤射した場合、ペナルティは科せられない。
- 6.11.6.3 選手が試射を別の選手の本射的に誤射した場合、撃ち込んだ選手は自分の第1シリーズの得点から2点の減点がペナルティとして科せられなければならない。
- 6.11.6.4 誤射を受けたことが確認され、標的上のどの弾痕がその選手のものか特定できなかった場合、その選手には特定のできなかった弾痕のうち最も高い得点を与えられなければならない。
- 6.11.6.5 本射的に規定数以上の弾痕がある場合、それらの弾痕が他の選手から撃ち込まれたものであることが確認できなかったときには、弾数に応じて、高得点の弾痕から順に無効とされなければならない。
- 6.11.6.6 選手が自分の標的上の弾痕を否認したいときには、ただちに射場役員に申告しなければならない。
- 6.11.6.7 射場役員は問題の弾痕をその選手が撃っていないことを確認した場合、射場事故報告書と個票に必要事項を書き込み、その弾痕を無効としなければならない。
- 6.11.6.8 射場役員は問題の弾痕をその選手が撃っていないとする妥当な理由を確認できなかった場合、その弾痕をその選手の撃ったものとし、記録しなければならない。
- 6.11.6.9 次のような事由が弾痕を取り消す正当な理由と考えられなければならない。
- a) 射場役員がその選手が発射していなかったことを見ていて、そのことを確認した場合。
 - b) ほぼ同じ時に、隣接の2～3射座の選手または射場役員から誤射の報告があった場合。
 - c) 300m種目でショットセンサーが使用される場合、誤射を受けた標的ではその誤射は記録されないが、誤射信号はコントロールセンターに表示される。誤射をした選手の弾の当たらなかった標的には誤射をしたことが表示され、0点が記録される。

6.11.7 **妨害**

射撃中に妨害を受けたと判断した選手は、銃口を下げ、ただちに射場役員またはジュリーに申告しなければならない。その際、他の選手を妨害することがないようにしなければならない。申告が正当であると判断された場合、その弾痕は取り消され、選手は再射することができる。申告が正当であると判断されなかった場合、その弾痕は採用されなければならない。選手はペナルティを科されることはない。

6.11.8 **競技会の特別ルール**

- a) すべての大会において、準備および試射時間中にその種目に関する情報を観客に伝えるためにアナウンスおよび/または映像を使うことができる。準備および試射時間中、予選、本選の競技中に、音楽を流すことができる。ファイナルの競技中には音楽を流さなければならない(6.17.1.11)。
- b) 射座の床面に不正な有利を得るために物質をまくことは許されない。また、許可なく射座をめぐうことも許されない。
- c) 床面にはがれないテープを張ったり消せない線を描くことは許されない。
- d) 射場の設備や用具の交換や変更はできない。
- e) 射場内の選手、役員を使うエリアは禁煙とし、同様に射場内の観客席も禁煙とする。
- f) FOP内での選手、コーチおよびチーム役員による携帯電話、トランシーバー、ポケッ

トベルまたは同様の装置の使用は禁止される。すべての携帯電話等の電源は切られているかサイレントモードになっていなければならない。

g) フラッシュ撮影は競技が完了するまで禁止される。

h) 携帯電話をサイレントモードにすること、禁煙であること、ストロボ撮影は競技が完了するまで禁止されていることを観客に知らせるための掲示が表示されていなければならない。

6. 12 **選手およびチーム役員の行動ルール**

6. 12. 1 I S S F 選手権大会の開催中は、どのような種類のデモまたは政治的、宗教的、民族的宣伝は許可されない。

6. 12. 2 各チームには、そのチーム内の規律を保つ責任を負うチームリーダーをおかなければならない。選手をチームリーダーとして任命することはできる。チームリーダーは危害予防、競技会の効率的運営、スポーツマンシップの高揚に関し絶えず競技役員に協力しなければならない。

6. 12. 3 **チームリーダーの責務**

a) 指定時間内に担当役員に提出できるように必要な登録を正確に完成させる。

b) 大会要項に精通する。

c) チームメンバーを指定時刻に指定射座に承認済みの用具を携えて出頭させ、射撃の準備をさせる。

d) 得点をチェックし、必要なら、抗議を行う。

e) 仮および正式の掲示、得点、放送に注意を払う。

f) 公式発表受領し、チームメンバーにそれらを通達する。

g) すべての公式業務においてチームを代表する。

6. 12. 4 **選手の責務**

a) 指定時刻に指定射座にルールに適応した用具を携えて出頭し射撃の準備をする。

b) 指定された射座で隣接の射座の選手の邪魔をしないように射撃姿勢をとる。

c) 他の選手の動作を邪魔したり不利な影響を与えないようにふるまう。その行為や行動が他の選手の妨げになっていると Jury が判断した場合、その選手には、状況により、警告、減点、失格が与えられる。

6. 12. 5 **競技中のコーチング**

6. 12. 5. 1 全ての種目において、言葉によらないコーチングは許される。50mライフル3姿勢のファイナルにおいては姿勢切り替えの時間中にのみ言葉によるコーチングが許される。選手が射撃線についているときには、選手は Jury および射場役員とのみ話すことができる。練習中のコーチングは、他の選手の邪魔にならないなら、許される。

6. 12. 5. 2 選手が予選または本選中にコーチやチーム役員と話したい場合、選手は抜弾して銃の薬室を開けセフティフラッグを挿入し安全な状態にして射撃線に置かなければならない。選手はその旨を射場役員に通告した後でのみ射撃線を、他の選手の妨げにならないようにして、離れることができる。

6. 12. 5. 3 コーチまたはチーム役員が射撃線にいる選手と話したい場合、選手が射撃線にいる間は選手に直接連絡したり話しかけたりしてはならない。チーム役員は射場役員または Jury の許

可を得た上で選手を射撃線から呼び出してもらわなければならない。

6. 12. 5. 4 チーム役員や選手がコーチングに関するルールに違反した場合、1 回目は警告が出されなければならない。違反が繰り返された場合、選手の得点から 2 点が減点され、チーム役員は射座付近から離れなければならない。

6. 12. 6 **ルール違反に対する罰則**

6. 12. 6. 1 **明白なおよび隠蔽された反則の裁定**

ジュリーは次の基準に従って反則の裁定をしなければならない。

a) 明白なルール違反の場合、最初に、選手が違反を修正する機会を持つことができるように、警告（イエローカード）が与えられなければならない。可能な限り、警告は練習時か準備および試射時間中に与えるべきである。選手がジュリーの規定した時間内に違反を修正しない場合、得点からの 2 点の減点が科せられなければならない。減点（グリーンカード）を受けてなお選手が違反を修正しなかった場合には、失格（レッドカード）（DSQ）が科せられなければならない。

b) ルール違反を故意に隠蔽した場合、失格（レッドカード）（DSQ）が科せられなければならない。

c) 事態の説明を求められた選手が故意に偽りの情報を与えた場合、2 点の減点が科せられなければならない。悪質な場合、失格を科すこともできる。

6. 12. 6. 2 ISSFルールに違反したり射場役員やジュリーの指示に違反した場合、ジュリー団またはジュリーは次のようなペナルティを選手に科すことができる。

a) 警告（イエローカード）：警告はイエロー・カードを提示し、警告であることを選手がはっきりと認識できるような方法で行われなければならない。しかしながら、この警告を与える前に何らかのペナルティ（注意など）を与えておく必要はない。警告は射場事故報告書に記録され、個票に記入されなければならない。警告は個人のジュリーが与えることができる。

b) 減点（グリーンカード）：得点からの減点は、少なくとも 2 名のジュリーにより、減点と書かれたグリーンカードを提示することで行われる。減点は射場事故報告書に記録され、プリンター用紙に印が付けられ、個票に記入されなければならない。減点は個人のジュリーが与えることができる。

c) 失格（レッドカード）（DSQ）：競技後検査を合格できなかった選手は失格（DSQ）とされなければならない（6. 7. 9. 1）。その他の理由による失格はジュリーの多数決によって裁定された場合のみ科すことができる。選手の失格はジュリーによって失格と書かれたレッドカードを提示することで行われる。その種目のどの場面（予選、本選またはファイナル）においても失格となった選手は、その種目の全ての成績が抹消され、成績表の最下位に、失格となった理由を付けて表示される。

d) 非スポーツマン行為（DQB）：アンチドーピングルール違反、安全に関する深刻な違反または競技役員または他の選手に対する暴力行為（6. 12. 6. 4）でジュリーの多数決により失格となった選手については、その選手権大会におけるその選手の参加した全種目の成績が抹消され、DQBと表示されなければならない。

e) ペナルティは口頭説明およびイエロー、グリーン、レッドカードの提示によって示され

る。ペナルティカードの大きさは約70mm×100mmとすべきである。

f) 団体のメンバーが失格となった場合、その団体は順位付けされず、備考欄にDSQと表示されなければならない。

g) 減点や失格があった場合、 Jury は減点や失格の説明を成績表の備考欄に書けるように提供し、承認しなければならない。

6.12.6.3 安全に関する深刻な違反

選手が危険な方法で銃を扱うかまたは危険行為により安全規定に違反したと Jury が確認した場合、その選手は失格 (DSQ) とされなければならない (6.2.2 参照)。

6.12.6.4 競技役員または選手に対する暴力行為

Jury、レフリー、射場役員、他の競技役員または他の選手に対し、つかむ、押す、突く、殴るまたは似たような方法で身体的接触を行った選手またはチーム役員は、その選手権大会から除外されることもある。このような身体的暴行はその種目を統括する責任を負う主任 Jury に報告されなければならない。申し立ての暴行行為を裏付ける目撃者または物的証拠が1つ以上確認されなければならない。その後、 Jury はその選手またはチーム役員を選手権から除外すべきかどうかの決断をしなければならない。除外の決定は上訴 Jury に上訴することができる (6.16.6)。もし Jury や上訴 Jury がその暴力行為の重大性によりさらなる制裁を科すことが正当であると結論を下したならば、該当選手やチーム役員のその大会からの除外に加えて、さらなる検討のために ISSF 倫理委員会 (GR3.12.3.5、様式 CE) に付託することができる。

※6.13 故障

6.13.1 故障の発生は引き金を引いたときに銃が弾を発射できなかったときである。

6.13.2 故障は許容できるかまたは許容できないかのどちらかに分けられる。

許容できる故障

- a) 弾の不発。
- b) 銃身内の停弾。
- c) 引金機構が作動したうえでの不発射または誤作動。

許容できない故障

- a) 選手が銃の機構を開けた場合。
- b) 安全装置が解除されてなかった場合。
- c) 弾が装填されていなかった場合。
- d) 選手が引き金を引かなかった場合。
- e) その故障の原因が選手により排除できたと合理的に判断できる場合。

6.13.3 銃または弾薬に故障が生じた場合、選手は修理して射撃を継続することができるが、その故障が許容できる故障の場合、ルールに従い同じタイプの同じ口径の別の銃で射撃を継続することもできる。交換した銃は指名検査の対象となる。

6.13.4 10m、50m、300mのライフル、ピストル種目の予選および本選ラウンドにおいて、故障後の銃の修理や交換のための時間延長は認められない。しかしながら Jury は許容できる故障の場合で銃を交換した後の追加の試射については認めることができる。

6.13.5 25mピストル種目における故障に関する特別ルールは8.9.3である。

- 6.13.6 ファイナルにおける故障に関する特別ルールは6.17.1.6、6.17.4.m、6.17.5.lである。
- 6.13.7 射場役員またはジュリーは故障が射場事故報告書または故障採点票に記録され、個票に記入されていることを確認しなければならない。

6.14 **採点と成績手順**

- 6.14.1 R T S室は各種目、各射群、各ステージが終了後、可能な限り速やかに速報を射場の成績発表板に掲示しなければならない。

- 6.14.2 公式最終成績は、抗議時間が過ぎた後、メインスコアボードに発表されなければならない。

- 6.14.3 **成績配布**：大会組織委員会は速報および公式最終成績をすべての大会役員、参加団体およびメディアに配布しなければならない。これらは紙または電子媒体の成績表で行うことができる(6.6.5.b “サステナビリティ選択”参照)。

- 6.14.4 各 I S S F 選手権大会の後、I S S F 本部は電子版(オンライン版)公式成績本を発行する。各選手権大会の公式成績本には次の事項が含まれなければならない。

- a) 目次
- b) テクニカルデレゲートおよび主任ジュリー全員の署名のある成績保証のページ
- c) 競技役員の一覧
- d) 国別および種目別参加者一覧
- e) 競技日程
- f) メダリストの氏名一覧
- g) 国別獲得メダル数一覧
- h) 新記録、タイ記録一覧
- i) I S S F 基準の種目順に並べられた最終成績表：1) 男子の10m、50m、300mライフル種目、2) 男子の10m、25m、50mピストル種目、3) 男子のトラップ、スキート、ダブルトラップ種目、4) 男子の10m、50mランニングターゲット種目、5) 女子の10m、50m、300mライフル種目、6) 女子の10m、25mピストル種目、7) 女子のトラップ、スキート、ダブルトラップ種目、8) 女子の10mランニングターゲット種目

- 6.14.4.1 成績表には各選手の I S S F I D 番号を取得した際に使用した氏名(姓は大文字、名は最初の文字のみ大文字)、B i b 番号、国名(公式 I O C 略称)が記載されていなければならない。

- 6.14.4.2 必要に応じ成績表では以下の略号が使用されなければならない。

D N F	Did Not Finish (途中棄権)
D N S	Did Not Start (欠場)
D S Q	Disqualified (失格)
D Q B	Disqualification for Unsportsmanlike Behavior (非スポーツマン行為による失格)
W R	New World Record (世界新記録)
Q R	New Qualification Record (本選世界新記録)
E W R	Equaled World Record (世界タイ記録)
E Q R	Equaled Qualification Record (本選世界タイ記録)
W R J	New World Record Junior (ジュニア世界新記録)

QRJ	New Qualification Record Junior (ジュニア本選世界新記録)
EWJR	Equaled World Record Junior (ジュニア世界タイ記録)
EQRJ	Equaled Qualification Record Junior (ジュニア本選世界タイ記録)
OR	New Olympic Record (オリンピック新記録)
EOR	Equaled Olympic Record (オリンピックタイ記録)
OQR	Olympic Qualification Record (本選オリンピック新記録)
EOQR	Equaled Olympic Qualification Record (本選オリンピックタイ記録)

6. 14. 5 公式最終成績はその正確性を確認したRTSジュリーによって実証されサインされなければならない。
6. 14. 6 不規則弾痕、誤射、ペナルティ、標的枠外弾痕（0点）、故障、時間延長、再射、無効弾などは、審査室で慎重に取り扱われるよう、射場役員やジュリーによって、すべて**射場事故報告書**、個票、プリンター用紙に明確に印を付け、記録されなければならない。**射場事故報告書**（様式IR）の完全なコピーはRTS室に即座に運ばなければならない。各競技の終了時には、RTSジュリーはすべての故障による再計算と減点が正しく成績に反映されているかを確認するために成績表を点検しなければならない。
6. 14. 7 ライフルおよびピストル種目の得点からの減点は必ず違反が起こったシリーズで行われなければならない。全般的な減点措置は、減点の生じたステージの第1シリーズの最も低い得点から行われなければならない。
6. 14. 8 RTSジュリーは上位10人の個人成績および上位3チームの団体成績を、最終成績表の承認に先立って、チェックしなければならない。ESTが使用されている場合、そのチェックはメインコンピューターに記録された成績とプリンター用紙または独立したメモリー（6. 3. 2. 7）に記録された成績と、それに加えて、射場事故報告（IR）や故障採点票に記録された全ての手書きの採点関係書類との比較によらなければならない。
6. 14. 9 **世界記録**
GR3. 9 (6. 1. 2. bも参照)に従って行われるすべてのISSF選手権大会で行われる金メダルの授与されるすべてのISSF種目において世界記録（WR）が認められる。
6. 14. 9. 1 オリンピック種目の世界記録（WR）はその種目で行われるファイナルの成績のみをもって世界記録とする。非オリンピック種目の世界記録（WR）はその種目の合計点をもって世界記録とする。
6. 14. 9. 2 オリンピック記録（OR）はオリンピック大会のみで記録される。
6. 14. 9. 3 オリンピック種目のジュニア世界記録（WRJ）はその種目で行われるファイナルの成績のみをもってジュニア世界記録とする。非オリンピック種目のジュニア世界記録（WRJ）はその種目の合計点をもってジュニア世界記録とする。
6. 14. 9. 4 本選記録（QR）とジュニア本選記録（QRJ）はすべてのオリンピック種目の本選の合計点をもって記録とする。
6. 14. 9. 5 ISSF選手権大会において世界記録が生まれた場合、テクニカルデレゲートによって**世界記録の確認手順**（GR3. 12. 3. 6、様式R）の報告が作成され、ISSF本部に送られなければならない。

6. 15 **同点の順位決定（タイブレーク）**
- ※6. 15. 1 **10m、25m、50m、300m種目の個人競技の同点**
- 10m、25m、50m、300m種目における同点は次のルールによってすべて順位決定がなされる。
- a) X圏（インナーテン）の数の多い者。
 - b) 最終シリーズ10発の合計点（X圏の数や小数点得点ではない）の多い者。以下均衡が破れるまでシリーズを逆順にさかのぼる。
 - c) 最終弾の得点（X圏を含む）の高い者。以下均衡が破れるまで1発ずつ逆順にさかのぼる。
 - d) それでも同点が残し、ESTを使用していた場合、最終弾の小数点得点の高い者。以下均衡が破れるまで1発ずつ逆順にさかのぼる。
 - e) 以上をもってしても順位が決定しない場合、ファイナル進出者の決定に関わる同点でなければ、当該選手は同順位とし、選手の姓のアルファベット順に記載されなければならない。
 - f) 10mエアライフルと50mライフル伏射種目の予選または本選ラウンドで**小数点得点を使用した場合**、同点の順位決定は**小数点得点によるシリーズカウントバック**、**小数点得点による1発ごとのカウントバック**によって決定される。
6. 15. 2 **ショットガン種目の同点**（9. 15 参照）
6. 15. 3 **ランニングターゲット種目の同点**（10. 12 参照）
6. 15. 4 **ファイナルのあるオリンピック種目の同点**
- ライフルまたはピストル種目の本選ラウンドの結果、ファイナル進出の可否が問われる順位の決定は個人種目の同点の順位決定ルール 6. 15. 1 によって決定される。
6. 15. 5 **団体競技の同点**
- 団体競技の同点の順位決定は、**ミックスチーム種目の本選における同点の場合を含めて**、チーム全員の結果を合計して、個人競技の同点の順位決定の手順を適用し決められなければならない。
6. 16 **抗議（プロテスト）と上訴（アピール）**
6. 16. 1 すべての抗議と上訴はISSFルールに従って裁定される。
6. 16. 2 **口頭抗議（バーバル プロテスト）**
6. 16. 2. 1 選手またはチーム役員は、競技会の状況、大会役員の裁定または行動に関する抗議をレフリー、射場役員またはジュリーに、次に示すような事態において、即座に口頭で行う権利を持つ。
- a) 選手またはチーム役員が競技会の進行がISSFルールや大会要項に従っていないと判断した場合。
 - b) 選手またはチーム役員がレフリー、射場役員またはジュリーの裁定や行動に同意できない場合。
 - c) 選手が他の選手、射場役員、観客、報道関係者、その他の人々や原因によって干渉や妨害を受けた場合。
 - d) 射場設備の故障、不測の事態の解決、その他の原因により長時間射撃が中断した場合。

e) 射撃時間が短すぎる等、射撃時間が不規則な場合。

6.16.2.2 レフリー、射場役員およびジュリーは口頭での抗議については即座に対応しなければならない。抗議を受け取ったレフリー、射場役員およびジュリーは事態解決のため直ちに行動をするか、またはジュリー全員による採決に委ねることができる。そのような場合、レフリー、射場役員およびジュリーは必要に応じて一時的に射撃を中断することができる。

6.16.3 書面抗議 (リトゥン プロテスト)

選手またはチーム役員は、**口頭抗議**に対する処置や裁定に**同意できない場合**、ジュリーに書面をもって抗議することができる。選手またはチーム役員には口頭抗議をすることなく**書面抗議**を行う権利も持つ。すべての書面抗議はその問題が起きてから20分以内に適切なジュリーに提出されなければならない。抗議料の支払義務は発生する。書面抗議および上訴は**ISSF抗議用紙** (様式 6.19 参照) で提出されなければならない。

※6.16.4 書面抗議または上訴をジュリーに提出する際の**抗議料**には次の金額を支払う。

a) 抗議 50.00ユーロ

b) 上訴 100.00ユーロ

c) 抗議料の支払い義務は完成した抗議用紙がジュリーに届けられたときに発生する。抗議料はできるだけ速やかにジュリーまたは組織委員会に支払われなければならない。

d) 抗議料は抗議または上訴が認められた場合は返却されなければならないが、却下された場合には組織委員会が収納する。

6.16.5 得点に関する抗議 (スコアリング プロテスト)

得点や標的上の弾痕の数に関するRSTジュリーの裁定は最終のものであり上訴することはできない。

6.16.5.1 得点に関する抗議時間

すべての得点または成績に関する抗議は速報が射場スコアボード (6.4.2. i) に掲示されてから**10分以内**提出されなければならない。この抗議締切時刻は、速報掲示時に、射場スコアボード上に示されなければならない。得点に関する抗議の提出場所は公式プログラムに掲載されていないなければならない。

6.16.5.2 電子標的の得点に関する抗議

選手がESTに表示された得点に対して抗議する場合、その抗議が次弾または次シリーズ(25m種目)の発射前か、最終弾の場合、その発射後3分以内であれば受理される。この時間制限はロール紙またはゴムバンドの送り不良または標的故障の場合には適用されない。

a) 得点に関する抗議が行われた場合、選手はその競技の最後にもう1発の追加射撃を要求される。抗議が認められ、抗議に係る弾痕の正しい得点を決めることができなければ、このエクストラショットの点数を得点とすることができる。

b) RTSジュリーが抗議に係る弾痕の得点と表示された得点が小数点以下二位まで一致していると判定した場合、抗議は却下されなければならない。

c) 0点表示または表示なし以外の得点に関する抗議が認められなかった場合、抗議に係る弾痕の得点から2点が減点され、抗議料が支払われなければならない。

d) チーム役員や選手は抗議をした弾痕の処理について知る権利を持つ。

e) 予選または本選ラウンドにおいて、50mESTで9.5点以上の得点が表示された弾

痕の得点については抗議することはできない。

f) ファイナルにおいて、得点や発射弾数に関する抗議は許されない(6.17.1.7)。

6.16.6 上訴 (アピール)

ジュリーの裁定に同意できない場合、最終であり上訴することのできないファイナル抗議ジュリーの裁定 (6.17.1.10. d) およびRTSジュリーによる発射弾の得点と発射弾数の決定 (6.16.5) を除いて、上訴ジュリーに上訴できる。上訴はジュリーの裁定が発表されて30分以内にチームリーダーまたは代表者によって書面で提出されなければならない。**上訴ジュリーの裁定は最終である。**

6.16.7 書面抗議および上訴に関する**すべての裁定のコピー**はテクニカルデレゲートの最終報告書とともに、適切な部門や技術委員会で再検討するため、テクニカルデレゲートによってISSF事務局長に送付されなければならない。

6.17 オリンピックのライフルおよびピストル種目のファイナル

6.17.1 ファイナル競技の全般手順

6.17.1.1 **ファイナルへの進出** その種目のファイナル進出者を決めるために、その種目に出場するすべての選手が本選 (GR3.3.2.3 および 3.3.4) を行う。本選における上位6名が進出する25mラピッドファイアピストル男子を除き、本選における上位8名がファイナルへ進出する。

6.17.1.2 **ファイナルの射座** ファイナルの射座はスタートリストが発表される時には、コンピューターによって自動的に行われるくじによって割り当てられる。10mおよび50mの射座はR1-A-B-C-D-E-F-G-H-R2と表示されなければならない。25mピストル女子のファイナルの射座はA-B-R1-D-E/F-G-R2-I-Jと表示されなければならない。予備的はR1およびR2と示される。

6.17.1.3 **出頭時刻と開始時刻** ファイナルの開始時刻は、射場長が本射の第一シリーズまたは第一発目の号令をかける時刻とする。選手は、開始時刻の少なくとも30分前にはファイナル射場のプレパレーションエリアに出頭しなければならない。遅刻した選手には、2点もしくは2ヒットの減点が本射第一シリーズまたは第一発目に科せられる。その際、選手はファイナルに使用する十分な数の弾薬およびすべての用具、競技用の服装、表彰式用のユニフォームを持参しなければならない。ジュリーは全ファイナリストの出頭確認とその氏名、国籍が正しく集計システムとスコアボードに記入されていることを確認しなければならない。ジュリーは選手が出頭したら、この時間内に可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。

6.17.1.4 **遅刻** 出頭時刻から10分後までにプレパレーションエリアに出頭していないファイナリストはファイナルに参加することはできず、DNSが表示されファイナルにおける最初の脱落選手として記録される。その際のファイナルにおける第一エリミネーションは第7位または25mRFPでは第5位の選手の決定から始まる。

6.17.1.5 **採点** 本選の成績はファイナル進出の権利を選手に与えるが、得点の持ち越しはされない。ファイナル得点はルールに従い0点から始まる。減点やペナルティは違反のあった本射シリーズまたは本射弾の得点に科せられなければならない。ただし、その得点は0を下回ることはない [例: 3-1 (減点) = 2、0-1 (減点) = 0]。

6.17.1.6 **10mおよび50m種目のファイナルにおける故障** 本射1発の間に発生した許容される

故障（6.13.2）については、故障の修理または銃の交換のために最大1分間を与えられ、その後選手は再射を命じられる。5発シリーズで許容される故障が発生した場合で、故障の修理や銃の交換が1分以内に行えるならば、そのシリーズで発射されている弾による得点は集計され、選手は故障を申告した時の残り時間に加えて修理や交換に要した1分を超えない時間分の時間の中でそのシリーズを完射することが許される。ファイナリストはファイナル中に1回のみ許容される故障が申告できる。

6.17.1.7

得点に関する抗議 ファイナルにおいて、得点や発射弾数に関する抗議は許されない。

6.17.1.8

ファイナル中の電子標的に対する不満

- a) 試射中に、標的が正しく作動していないと不満を表明した選手は、標的に対して1発撃ち込むように命じられなければならない。標的がその弾に対して正しく作動した場合は、ファイナルはそのまま継続される。正しく作動しない、またはロール紙やゴムロールの送り不良による場合ならば、射場長は全ファイナリストに対し“STOP... UNLOAD（ストップ アンロード）”の号令を発し、故障した標的の選手を予備的に移動させなければならない。その選手が予備的で射撃体勢がとれたならすぐに、射場長は全ファイナリストに対し2分間の準備時間を与え、その後準備および試射時間を再開させる。
- b) 本射中に想定外の0点表示に関する不満の表明があった場合、ジュリー（担当ジュリー、第2競技ジュリーおよびRTSジュリー1名）は0点表示の弾が実際に0点なのか標的の故障なのかを判定しなければならない（ジュリーは標的検査のために、射場長に射撃を止めさせるように指示できる）。ジュリーが0点であるという確かな証拠が見つけられなければ、その選手にはエクストラショット/シリーズ（10mおよび50m種目では1発、25mピストル女子ではそのシリーズの完射、25mラピッドファイアピストル男子ではそのシリーズの再射）を撃つ指示が与えられるべきである。そのエクストラショット/シリーズが採点された場合は、想定外の0点表示の代わりにその得点を集計することとなり、ファイナルは継続されるべきである。25mラピッドファイアピストル男子のファイナルでは元のシリーズのヒット数に代わって再射シリーズのヒット数が集計されるべきである。
- c) 想定外の0点表示に対するエクストラショット/シリーズが採点されなかった場合、選手は予備的（25mRFPの場合は別の標的グループ）に移動しなければならない。10mまたは50mのファイナルでは、予備的に移動した選手は2分間の準備および試射時間を与えられなければならない。移動した選手は、他の選手達とのファイナルに戻る前に、号令により、想定外の0点表示の出た射撃に代わる1発、シリーズ完射または再射シリーズ（25mRFP）を撃つことが許されなければならない。
- d) ファイナルが中断している間、他のファイナリストには照準練習や空撃ちが許される。想定外の0点の問題の解決に係る中断が合計で5分を超えた場合、10mおよび50m種目のファイナリスト全員に、ファイナルに戻る前に2分間の試射時間を与えられなければならない。

6.17.1.9

ファイナル射場の備品 ファイナル射場には**競技役員、選手、コーチ、観客のために結果順位が表示される電光掲示板とファイナリストの見ることのできるカウントダウン時計および音響システムが設備されてなければならない。もしカウントダウン時計をすべてのファイナ**

リストが見ることができなければ、全ファイナリストのモニターに制御時間が明示されなければならない。 Jury、射場役員、コーチと脱落した選手のために椅子が用意されていなければならない。

6.17.1.10 **ファイナル役員** ファイナルの進行および監督は以下の役員配置によって行われなければならない。

- a) **射場長 (CRO)** ISSFのAまたはBライセンスをもった経験豊富な射場長がファイナルを進行しなければならない。
- b) **競技 Jury** 競技 Jury はファイナルの進行の監督を行う。主任 Jury は自分自身または Jury メンバーから一名の担当 Jury を任命しなければならない。
- c) **RTS Jury** RTS Jury のうち一名がファイナルにおける成績決定の過程を監督するためにその場にいないといけない。
- d) **ファイナル抗議 Jury** テクニカルデレゲートおよび主任 Jury から任命された上訴 Jury の一名と担当 Jury および別の一名の競技 Jury がファイナル抗議 Jury として行動すべきであり、ファイナル中に生じたあらゆる抗議に対して裁定を下さなければならない。このファイナル抗議 Jury の裁定に対する上訴は許されない。
- e) **射場役員 (RO)** 一または二名の経験豊富な射場役員がファイナル中の銃の安全のチェック、FOPへの出入りに関してファイナリストおよびコーチの案内および故障の申告の取り扱いについて射場長を補佐する。
- f) **技術役員** 公式記録提供者はESTの準備と操作、結果のディスプレイへの表示および技術的トラブルに関して Jury とともに解決を図るために技術役員を任命する。
- g) **アナウンサー** ISSFまたは組織委員会によって任命された役員が射場長とともに放送を担当し、ファイナリストの紹介、得点の発表、観客への情報の提供に責任を持つ。
- h) **音響技術員** 資格を持った技術役員がファイナルにおける音響および音楽装置を扱うために配置されなければならない。

6.17.1.11 **ファイナルの演出および音楽** ファイナルの運営は選手や選手の技の競い合いを観客やテレビの視聴者に最も強く訴えかけ、かつ彼らを最も興奮させることのできる完璧な演出の手段として色彩、照明、音楽、アナウンス、コメント、舞台および射場長の号令を用いなければならない。

6.17.1.12 **ファイナリストの紹介** 試射時間または試射シリーズの後、ライフル種目のファイナリストはそのままの姿勢で留まり、ライフルを肩から外して降ろし、観客およびTVカメラの方へ顔を向けなければならない。すべてのピストル種目のファイナリストは銃を置き、観客に向き合うように振り向かななければならない。アナウンサーは各ファイナリストをその氏名、国籍とそれぞれの短い情報によって紹介する。アナウンサーは射場長と担当 Jury の紹介も行う。

6.17.1.13 **ファイナルの手順とルール**

- a) このルール (6.17) でカバーできない事態には、ISSFGTRまたは各種目のルールが適用される。
- b) プレパレーションエリアでの出頭報告の後、ファイナル開始時刻の18分前(25mピストル種目の場合は15分前)には、ファイナリストまたはコーチは選手の銃や用具を

自分の射座に置くことが許されなければならない。銃ケースや用具バッグはFOPに残して置いてはならない。その後、選手およびコーチはウォームアップや準備のために射線に呼ばれるまで、プレパレーションエリアに戻っておかななければならない。

- c) ライフルのファイナリストがプレパレーションエリアから射線に呼ばれたとき、ファイナリストはジャケットやズボンのボタンやファスナーを閉じた状態の完全な服装で射線まで歩いていかななければならない。
- d) ファイナリストは、射線に呼ばれた後、銃を取り扱い、姿勢をとり、居銃し、照準練習をすることができるが、“**PREPARATION AND SIGHTING TIME START** (プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)” または “**PREPARATION BEGINS NOW** (プレパレーション ビギンズ ナウ)” (25mピストル) の号令がかかるまで、セフティフラッグを抜くことや空撃ちをすることはできない。
- e) ファイナルにおいて、空撃ちが許されるのは、6.17.4によって認められている25mラピッドファイアピストルのファイナル中の空撃ちを除き、準備および試射時間、姿勢の切換えと試射時間、または準備時間中に限られる。そのほかの時の空撃ちは、10mおよび50m種目においては1点、25mピストル種目においては1ポイントの減点とされなければならない。
- f) 射場長の“**LOAD** (ロード)” または “**START** (スタート)” の号令のあるまで、ファイナリストはライフルやピストルに弾を装填することは許されない。これは“**LOAD** (ロード)” の号令が無い準備および試射時間において、“**START** (スタート)” が装填の許可をも示すようにさせるためである。弾の装填とは弾、空気銃弾または弾の入った弾倉を銃に接触させることをいう (6.2.3.4 参照)。
- g) ファイナルにおいて居銃および照準練習はファイナリストが射線に呼び出されて (“**ATHLETES TO THE LINE** (アスリート トゥ ザ ライン)” の号令) からファイナル終了の“**STOP UNLOAD** (ストップ アンロード)” の号令がかかるまでの間、居銃や照準練習のできない選手紹介の時間をのぞいて、行うことが許される。
- h) 10m、25mまたは50m種目のファイナルでファイナリストが“**PREPARATION AND SIGHTING TIME START** (プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)” の号令の前、または“**FOR THE SIGHTING SERIES LOAD** (フォー ザ サイティング シリーズ ロード)” の号令の前に弾を装填したり、発射した場合、そのファイナリストは失格とされなければならない。
- i) ファイナリストが“**PREPARATION AND SIGHTING TIME STOP** (プレパレーション アンド サイティング タイム ストップ)” の号令、または“**CHANGOVER AND SIGHTING TIME STOP** (チェンジオーバー アンド サイティング タイム ストップ)” の号令の後で、次の本射の“**START** (スタート)” の号令前に弾を発射した場合、その弾は本射として採点せず、さらに次の本射1発目に2点の減点が科せられる。

- j) 25mラピッドファイアピストル男子のファイナルでファイナリストがシリーズの開始を告げるグリーンライトが点灯する前に弾を発射した場合、そのシリーズは0ヒットと採点されなければならない。25mピストル女子のファイナルでファイナリストが採点開始を告げるグリーンライトが点灯する前に弾を発射した場合、その発射弾はミスと採点されかつそのシリーズの得点から1点の減点が科せられなければならない。
- k) ファイナリストが1シリーズまたは1発の時間中に超過弾を撃った場合、その超過弾は無効とされ、さらに直前の正常弾に2点の減点が科せられる。
- l) シュートオフや故障による完射または再射シリーズの際にそれに含まれないファイナリストが装填し発射した弾は無効とされなければならない。これが故意ではない間違いならばペナルティは科されない。
- m) セフティフラッグは準備および試射時間が始まるまで、銃に挿入されていなければならない。セフティフラッグは選手紹介の時間、選手がファイナルから脱落したときまたはファイナルが終了した時には銃に挿入されていなければならない。ファイナルから脱落した選手は銃口を安全な方向に向け、機関部を開放し、セフティフラッグを挿入した状態で、射座内の机または用具箱（三姿勢種目）に、銃を置かななければならない。射場役員はすべての銃にセフティフラッグが挿入されているかを確認しなければならない。メダリストはファイナル終了直後、銃を持ってポーズをとることができるが、どの銃もセフティフラッグが挿入され、射場役員のチェックを受けるまで射座から持ち出すことはできない。もし選手が不注意でセフティフラッグを挿入し忘れていたら、射場役員はセフティフラッグを挿入して、安全な状態にすることが許される。
- n) ファイナルの間、言葉によらないコーチングは許される。三姿勢種目の姿勢切り替えの時間にのみ言葉によるコーチングが許される。

6.17.1.14

メダリストの紹介 射場長が“RESULTS ARE FINAL（リザルツ アー ファイナル）”と宣言した後、 Jury は三人のメダリストを FOP に集合させなければならない、そしてアナウンサーはアナウンスによってメダリストを紹介しなければならない。

「銅メダリストは、□□代表、△△△△選手です。」

「銀メダリストは、□□代表、△△△△選手です。」

「金メダリストは、□□代表、△△△△選手です。」

6.17.2

ファイナル—10mエアライフルとエアピストルの男子および女子

注) 時間進行がガイドラインとしてこのルールの中で示されているが、正確な時間進行については ISSF 本部にある “Commands and Announcements for Finals” をチェックすること。

a) ファイナルの 様式	ファイナルは制限時間 250 秒で行われる 5 発の本射シリーズ 2 回（5 + 5 発）とそれに続く、号令によって進行される制限時間 50 秒の 14 発の本射によって構成される。最下位ファイナリストの脱落は 12 発目のあとから開始され、2 発の本射が終わるごとに行われ、金および銀メダリストが決まるまで続けられる。ファイナルの本射は合計 24 発となる。
b)	ファイナルにおける採点は 0.1 点刻みで行われる。ファイナルでの得点の合計点

採 点	<p>によりファイナルの成績が決まる。同点の場合はシュートオフの成績に従って決められる。</p> <p>本射第一発目の前に起こった反則に対する減点は本射第一発目の成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こった本射弾の得点に科せられる。</p>
c) 用具準備時間 (18分前)	<p>選手および選手のコーチは、少なくとも開始時刻の18分前には、銃や用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。銃ケースや用具の収納箱はFOPに置いておくことはできない。</p>
d) ウォームアップ時間 (13分前)	<p>射場長は開始時刻の13分前に選手を “ A T H E L E T E S T O T H E L I N E (アスリート トウ ザ ライン)” という号令で射座に入らせる。</p> <p>2分後、射場長は “ F I V E (5) M I N U T E S P R E P A R A T I O N A N D S I G H T I N G T I M E . . . S T A R T (ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)” という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この時間には、ファイナリストは制限弾数無しの試射を行える。準備および試射時間の終了30秒前に、射場長は “ 3 0 S E C O N D S (サーティ セカンズ)” と号令する。</p> <p>5分後、射場長は “ S T O P . . . U N L O A D (ストップ アンロード)” と号令をかける。</p> <p>試射中は得点のアナウンスは行わない。</p>
e) ファイナリストの 紹介 (5分30秒前)	<p>“ S T O P . . . U N L O A D (ストップ アンロード)” の号令の後、ライフル種目のファイナリストはライフルを抜弾し、セフティフラッグを挿入しなければならない。ライフル種目のファイナリストは紹介の間、姿勢を維持することはできるが、ライフルは肩からはずして下げなければならず、観客や選手紹介を撮影しているTVカメラに顔を向けてほしい。ファイナリスト全員の紹介が終わるまで、ライフルは肩からはずし、下げたままにしておかななければならない。</p> <p>“ S T O P . . . U N L O A D (ストップ アンロード)” の号令の後、ピストル種目のファイナリストはピストルを抜弾し、セフティフラッグを挿入し、ピストルを置いて、紹介に備えて観客の方に振り返らなければならない。</p> <p>射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。ファイナリストの銃のチェックの後、アナウンサーは選手、射場長、担当ジュリーをルール 6.17.1.12 に従って紹介する。</p>
f) 最終準備時間	<p>紹介の直後、射場長は “ T A K E Y O U R P O S I T I O N S (テイク ユア ポジションズ)” と号令をかける。</p>

	<p>標的およびスコアボードは本射に向けクリアされてなければならない。</p> <p>60秒後、射場長は本射第一シリーズの号令をかける。</p>
<p>g)</p> <p>第一ステージ 2×5発 制限時間：250秒 各シリーズ</p>	<p>射場長は“FOR THE FIRST COMPETITION SERIES... LOAD (フォー ザ ファースト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>ファイナリストは250秒で5発を撃つ。</p> <p>250秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終わったら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。</p> <p>“STOP (ストップ)”の号令の直後、アナウンサーは15～20秒で、現在の選手の順位と特筆すべき成績についてコメントする。個々の得点はアナウンスしない。</p> <p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォー ザ ネクスト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>250秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終わったら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。</p> <p>アナウンサーは再び選手とその成績についてコメントをし、その後1発ずつのステージに変わり、2発ごとに最下位のファイナリストが脱落していくことを説明する。</p>
<p>h)</p> <p>第二ステージ 単発 14×1発 制限時間：50秒 各1発</p>	<p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD (フォー ザ ネクスト コンペティション ショット ロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>各1発の制限時間は50秒。</p> <p>50秒後または全ファイナリストが撃発後、射場長は“STOP (ストップ)”と</p>

	<p>号令をかけ、アナウンサーはファイナリストとその得点についてコメントする。</p> <p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD (フォー ザ ネクスト コンペティション ショット ロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>この手順を第二十四発目(2回の5発シリーズと14発)まで繰り返す。</p> <p>第二十四発目が終了したら、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。</p> <p>射場役員は銃の薬室が開けられセフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>i) エリミネーション</p>	<p>ファイナリストが第十二発目を撃ち終わった後、最下位のファイナリストは脱落させられる(第八位)。以下、次のように最下位のファイナリストが脱落してゆく。</p> <p>第十四発目の後・・・第七位 第十六発目の後・・・第六位 第十八発目の後・・・第五位 第二十発目の後・・・第四位 第二十二発目の後・・・第三位(銅メダリストの決定) 第二十四発目の後・・・第二位と第一位(銀、金メダリストの決定)</p>
<p>j) 同点の順位決定</p>	<p>もし脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、同点の選手は順位決定ができるまでシュートオフを行う。</p> <p>同点のシュートオフを行う場合は、射場長は同点の選手の苗字をアナウンスし、通常の手順に従い同点決定のシュートオフの号令をかける。</p> <p>アナウンサーは順位が決まるまではコメントをしない。</p>
<p>k) ファイナルの完了</p>	<p>残った2名のファイナリストが第二十四発目を撃ち終わった後、同点も抗議もなければ、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ... アンロード)”と号令し、そして“RESULTS ARE FINAL (リザルツ アー ファイナル)”と宣言する。</p> <p>ジュリーはメダリストをFOPに集合させ、アナウンサーは即座に、6.17.1.14に従って、銅、銀、金メダリストをアナウンスする。</p>

6.17.3 ファイナルー50mライフル三姿勢男子および女子

<p>a) ファイナルの様式</p>	<p>ファイナルは各姿勢(膝射、伏射、立射の順)15発の号令による本射で構成される。ファイナルは各シリーズ200秒の膝射5発のシリーズを3回行うことか</p>
------------------------	---

	<p>ら始まる。姿勢の切換えおよび試射の7分間の後、ファイナリストは各シリーズ150秒の伏射5発のシリーズを3回行う。次に姿勢の切換えおよび試射の9分間の後、各シリーズ250秒の立射5発のシリーズを2回行う。この2回の立射シリーズを終了した時点で下位2名のファイナリストが脱落する。ファイナルは1発50秒の立射5発となり、残った選手で1発ごとに最下位の選手が脱落していきながら、残った2名の選手が最終弾を撃ち、金メダリストが決まるまで続けられる。最終的にファイナルでは45発撃つことになる。</p>
<p>b) 採点</p>	<p>ファイナルにおける採点は0.1点刻みで行われる。ファイナルでの得点は加算されその合計点によりファイナルの成績が決まる。同点の場合はシュートオフの成績に従って決められる。</p> <p>本射第一発目に前に起こった反則に対する減点は本射第一発目の成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こった本射弾の得点に科せられる。</p>
<p>c) 用具準備時間 (18分前)</p>	<p>選手および選手のコーチは、少なくとも開始時刻の18分前には、ライフルや用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。姿勢の変更に伴う銃の付属品や用具は射座内に置いておくことのできる1個の箱の中に入れておかなければならない。</p>
<p>d) 準備および試射時間 膝射 (13分前)</p>	<p>射場長は開始時刻の13分前に選手を“ATHLETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)”という号令で射座に入らせる。</p> <p>この号令の後、ファイナリストはライフルを扱ったり、膝射姿勢をとったり、据銃、照準練習ができる。ただしセフティフラッグを抜いたり、空撃ちはできない。</p> <p>2分後、射場長は“FIVE MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME... START (ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)”という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この号令の後、ファイナリストはセフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。</p> <p>準備および試射時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。</p> <p>5分後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。</p> <p>試射中は得点のアナウンスは行わない。“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の後、ファイナリストはライフルを抜弾し、セフティフラッグを挿入し、ファイナリストの紹介に備える。</p> <p>射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確</p>

	<p>認しなければならない。</p> <p>選手はファイナリストの紹介の間、姿勢を維持することはできるが、ライフルは肩からはずしておかなければならない。また、観客や選手紹介を撮影しているTVカメラに顔を向けてほしい。</p>
<p>e)</p> <p>ファイナリストの紹介 (5分30秒前)</p>	<p>ファイナリストのライフルのチェックの後、アナウンサーはファイナリスト、射場長、担当ジュリーをルール 6.17.1.12 に従って紹介する。ファイナリスト全員の紹介が終わるまで、ライフルは肩からはずしたままにしておかなければならない。</p>
<p>f)</p> <p>膝射 3×5発 制限時間：200秒 各シリーズ</p>	<p>紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS (テイク ユア ポジションズ)”と号令をかけ、60秒後、“FOR THE FIRST COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザファーストコンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>ファイナリストは200秒で膝射の本射シリーズの5発を撃つ。</p> <p>200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終えたら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。</p> <p>“STOP (ストップ)”の号令の直後、アナウンサーは15～20秒で、現在の選手の順位と特筆すべき成績についてコメントする。個々の得点はアナウンスしない。</p> <p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終えたら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。</p> <p>“STOP (ストップ)”の号令の直後、アナウンサーは15～20秒で、順位について付け加えのコメントをする。</p> <p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。</p>

	<p>5秒後、射場長は“START（スタート）”の号令をかける。</p> <p>200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終わったら、射場長は“STOP... UNLOAD（ストップ アンロード）”と号令をかける。 射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>g)</p> <p>姿勢の切換えと試射 伏射 7分間</p>	<p>“STOP... UNLOAD（ストップ アンロード）”の号令の直後、射場長は姿勢切換えと試射の時間を“SEVEN MINUTES CHANGE OVER AND SIGHTING TIME... START（セブン ミニッツ チェンジオーバー アンド サイティング タイム スタート）”という号令によって開始しなければならない。この号令の後、ファイナリストは伏射に向けライフルを扱ったり、伏射姿勢をとったり、セフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。</p> <p>姿勢切換えが始まった後、アナウンサーは膝射を終えてのファイナリストの順位や得点についてコメントをする。アナウンサーはこの時間を利用して各ファイナリストの人物紹介も行える。</p> <p>姿勢切換えと試射の時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS（サーティ セカンズ）”と号令する。</p> <p>7分後、射場長は“STOP（ストップ）”と号令をかける。 技術役員が標的を本射に切換え、表示装置をクリアにするために、30秒の中断時間をとる。</p>
<p>h)</p> <p>伏射 3×5発 制限時間：150秒 各シリーズ</p>	<p>30秒後、射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD（フォー ザ ネクスト コンペティション シリーズ ロード）”と号令をかける。5秒後、射場長は“START（スタート）”の号令をかける。</p> <p>ファイナリストは150秒で伏射の本射シリーズの5発を撃つ。</p> <p>同様の号令とアナウンスの手順が、全ファイナリストが伏射5発のシリーズを3回終了するまで繰り返される。</p> <p>第三シリーズ終了後、射場長は“STOP... UNLOAD（ストップ アンロード）”と号令をかける。射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>

<p>i)</p> <p>姿勢の切換えと試射 立射 9分間</p>	<p>“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の直後、射場長は姿勢切換えと試射の時間を“NINE MINUTES CHANGEOVER AND SIGHTING TIME... START (ナイン ミニッツ チェンジオーバー アンド サイティング タイム スタート)”という号令によって開始しなければならない。この号令の後、ファイナリストは立射に向けライフルを扱ったり、立射姿勢をとったり、セフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。</p> <p>姿勢切換えが始まった後、アナウンサーは膝射、伏射を終えてのファイナリストの順位や得点についてコメントをする。</p> <p>姿勢切換えと試射の時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。</p> <p>9分後、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。 技術役員が標的を本射に切換え、表示装置をクリアにするために、30秒の中断時間をとる。</p>
<p>j)</p> <p>立射 2×5発 制限時間：250秒 各シリーズ 5×1発 制限時間：50秒 各1発</p>	<p>30秒後、射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>ファイナリストは250秒で立射の本射シリーズの5発を撃つ。</p> <p>同様の号令とアナウンスの手順が、全ファイナリストが立射5発のシリーズを2回終了するまで繰り返される。</p> <p>射場長の第二シリーズの“STOP (ストップ)”の号令の後、第八位と第七位のファイナリストが脱落する。アナウンサーは脱落する選手を確認し、この結果についてコメントする。</p> <p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD (フォーザネクストコンペティションショットロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>1発の制限時間は50秒。制限時間の残り時間については引き続き、各選手が確</p>

	<p>認し続けられるようにしなければならない。</p> <p>50秒後または全ファイナリストが撃発後、射場長は“STOP（ストップ）”と号令をかける。アナウンサーは脱落する選手を確認し、この結果についてコメントする。</p> <p>射場長とアナウンサーはこの号令とアナウンスの手順を、金メダリストが決まる最終弾まで繰り返す。</p>
<p>k)</p> <p>エリミネーション</p>	<p>立射の第二シリーズが終了した後、ファイナリストが下位のファイナリスト2名は脱落させられる（第四十発目 第八位と第七位）。以下、次のように1発終了するごとに最下位のファイナリストが脱落してゆく。</p> <p>第四十一発目の後・・・第六位 第四十二発目の後・・・第五位 第四十三発目の後・・・第四位 第四十四発目の後・・・第三位（銅メダリストの決定） 第四十五発目の後・・・第二位と第一位（銀、金メダリストの決定）</p>
<p>l)</p> <p>同点の順位決定</p>	<p>もし脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、同点の選手は順位決定ができるまでシュートオフを行う。</p> <p>同点のシュートオフを行う場合は、射場長は同点の選手の苗字と射座をアナウンスし、通常の手順に従い同点決定のシュートオフの号令をかける。アナウンサーは順位が決まるまではコメントをしない。もし第八位と第七位の選手が同点であったなら、最終5発シリーズの合計点の多い者。以下均衡が破れるまで5発シリーズを逆順にさかのぼるなど。</p>
<p>m)</p> <p>ファイナルの完了</p>	<p>残った2名のファイナリストが最終弾を撃ち終わった後、同点も抗議もなければ、射場長は“STOP.... UNLOAD（ストップ.... アンロード）”と号令し、そして“RESULTS ARE FINAL（リザルツ アー ファイナル）”と宣言する。</p> <p>ジュリーはメダリストをFOPに集合させ、アナウンサーは即座に、6.17.1.14に従って、銅、銀、金メダリストをアナウンスする。</p>
<p>n)</p> <p>姿勢の切換え</p>	<p>選手は、射場長が姿勢の切換えおよび試射時間の“START（スタート）”の号令をかけるまで、次の姿勢への切換えに入ってはならない。1回目の違反には警告が与えられる。2回目の違反には次のシリーズの第一発目に2点の減点が科せられる。</p>
<p>o)</p> <p>コーチング</p>	<p>コーチはファイナルの前と後に選手の用具等を運ぶ手助けができるが、姿勢切り替えの手助けをすることはできない。</p> <p>言葉によらないコーチングは許される。姿勢切り替えの時間に限り、選手がコーチに歩み寄って（コーチが選手に近づくことはできない）、言葉によるコーチング</p>

を受けることができる。

6.17.4 ファイナル—25mラピッドファイアピストル男子

a) ファイナルの様式	25mラピッドファイアピストル男子のファイナルは4秒射の5発シリーズのヒットオアミススコアによる8シリーズで構成され、4シリーズ目から最下位のファイナリストの脱落が開始され、金および銀メダリストの決まる8シリーズまで続けられる。
b) 標的	25mESTの5的グループ3つを使用しなければならない。それぞれの5的グループに2名ずつファイナリストが割り当てられる。各標的グループには1.50m×1.50mの射撃位置(射座)が設定される。各標的グループに割り当てられた2名のファイナリストは射撃位置の左右の両端で射撃姿勢をとらなければならない。そのときそれぞれの選手は、6.4.11.7に示された射撃位置の左右に描かれた線に少なくとも片足が触れていなければならない。
c) 採点	ファイナルでの採点はヒットオアミススコアであり、各ヒットは1ポイント、各ミスは0ポイントとして数えられる。ヒットゾーンの大きさは25mラピッドファイアピストル標的の9.7点の範囲となる。ファイナルにおける得点の合計(合計ヒット数)により順位が決められる。同点の場合はシュートオフの成績によって順位が決定される。
d) 出頭時刻 30分前と15分前	選手は開始時刻の30分前に用具と競技用の服装を携えて出頭しなければならない。ジュリーは選手が出頭したら可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。選手および選手のコーチは、開始時刻の少なくとも15分前には、ファイナルを行うに十分な弾薬を含む用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。選手の用具には故障したピストルに換えて使用する予備銃(セフティフラッグが挿入されていない)も含まれる。
e) 呼び出し 準備時間と試射 10分前	射場長は開始時刻の10分前に“ ATHELETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)”という号令をかける。1分後、射場長は“ PREPARATION BEGINS NOW (プレパレーション ビギンズ ナウ)”という号令により2分間の準備時間を開始させる。2分後、射場長は“ END OF PREPARATION (エンド オブ プレパレーション)”の号令をかける。 試射シリーズは4秒射5発で行われる。準備時間の後直ちに、射場長は“ FOR THE SIGHTING SERIES, LOAD (フォー ザ サイティング シリーズ ロード)”の号令をかける。この号令の30秒後、射場長は各標的グループの左側の選手の苗字を読み上げる“(FAMILY NAME OF ATHLETE #1, FAMILY NAME OF ATHLETE #3, FAMILY NAME OF ATHLETE #5)”。選手の苗字が呼ばれた後、その選手たちはピストルに弾倉を入れ、撃つ準備をすることができる。 この選手の苗字の読み上げの15秒後に、射場長は“ ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレデ

	<p>イーポジションをとらなければならない (8.7.2 参照)。7 秒後、緑ランプが点灯する。4 秒間の射撃時間の後、赤ランプが 10～14 秒間点灯する (標的の復旧時間)。この 10～14 秒間に選手は標的モニターを見ることができる。</p> <p>技術役員が標的の準備ができたことを知らせてきたら、射場長は各標的グループの右側の選手の苗字を読み上げる “(FAMILY NAME OF ATHLETE #2, FAMILY NAME OF ATHLETE #4, FAMILY NAME OF ATHLETE #6)”。選手の苗字が呼ばれた後、その選手たちはピストルに弾倉を入れ、撃つ準備をすることができる。</p> <p>この選手の苗字の読み上げの 15 秒後に、射場長は “ATTENTION (アテンション)” の号令をかけ、4 秒射 1 シリーズが進行する。4 秒間の射撃時間の後、赤ランプが 10～14 秒間点灯する (標的の復旧時間)。この 10～14 秒間に選手は標的モニターを見ることができる。</p> <p>試射シリーズでは得点のアナウンスは行われぬ。全ファイナリストの試射シリーズが完了した後、選手は抜弾したピストルにセフティフラッグを挿入して台に置き、選手紹介のために観客と向かい合わせになるように振り向かなければならない。射場役員は薬室が開放され、銃身や弾倉に弾が残っていないことを確認しなければならない。</p>
<p>f)</p> <p>ファイナリストの紹介 4 分 45 秒前</p>	<p>ファイナリストの銃のチェック後、アナウンサーは、6.17.1.12 に従い、選手、射場長、担当ジュリーを紹介する。</p>
<p>g)</p> <p>号令と射撃の詳細手順</p>	<p>ファイナルのそれぞれの本射シリーズは 4 秒射 5 発のシリーズで構成される。それぞれのシリーズは競技に残っている全ての選手が一人ずつ順に撃っていく。射撃は全てのシリーズにおいて左から右の順に行われる。</p> <p>選手の紹介の直後、射場長は “TAKE YOUR POSITIONS (テイク ユア ポジションズ)” の号令をかける。</p> <p>選手紹介から 15 秒後、射場長は “LOAD (ロード)” の号令をかける。“LOAD (ロード)” の号令後、選手は 1 分間で 2 つの弾倉に装填する (8.7.6.2 はファイナルでは適用されない)。本射第 1 シリーズの開始前に 1 回だけ “LOAD (ロード)” の号令がかけられる。ファイナル全体を通じて、選手は必要に応じて弾倉に装填を行うことができる。</p> <p>“LOAD (ロード)” の号令の後、選手は照準練習、腕の振り上げ、空撃ちを、同じ 5 的の標的グループについている選手が射撃している間を除いて、行うことができる。射撃をしている選手と同じ 5 的の標的グループの右射座の選手は、その間、準備のためにピストルを手には取ることができないが、照準練習と腕の振り上げ、空撃ちはできない。左射座の選手は撃ち終わった後、右射座の選手が射撃している間は、ピストルを置いて射撃位置から下がっているかまたは動かないようにしなければならない。</p> <p>“LOAD (ロード)” の号令の 1 分後、射場長は “[選手 1 の苗字]” と最初の選手を呼び出す。名前が呼ばれた後、その選手はピストルに弾倉を入れ、射撃</p>

	<p>の準備をする。</p> <p>最初の選手の名前を呼んで15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。最初の選手はレディーポジションを取らなければならない。7秒後に緑色ランプが点灯する。4秒射の後、10～14秒間(標的の復旧時間)赤色ランプが点灯する。この10～14秒間に、射場長はそのシリーズの得点の発表をする(例:4ヒッツなど)。</p> <p>最初の選手の得点が発表された直後、技術役員が標的の準備ができた合図をする。射場長は“[選手2の苗字]”と声をかける。15秒後、“ATTENTION (アテンション)”の号令がかけられ、そのシリーズの手順が開始される。シリーズ後、射場長が得点を発表する。</p> <p>他の選手は、競技に残った全ての選手がそのシリーズを撃ち終わるまで、順に撃ち続ける。</p> <p>全ての選手が1シリーズを撃ち終わった後、15～20秒間の中断がある。この中断時間中に、アナウンサーは選手の最新順位、ベストスコア、敗退する選手などのコメントを行う。</p> <p>第2シリーズのために、射場長は“[選手1の苗字]”と声をかけ、この手順を全ファイナリストが4シリーズを撃ち終えるまで続ける。</p>
<p>h) エリミネーション</p>	<p>全てのファイナリストが第4シリーズを撃ち終わった後、最下位の選手が脱落する(6位)。この後、次のように各シリーズ終了後に一人ずつ選手が脱落していく。</p> <p>5シリーズ後・・・5位 6シリーズ後・・・4位 7シリーズ後・・・3位(銅メダリストの決定) 8シリーズ後・・・2位と1位(銀および金メダリストの決定)</p>
<p>i) 同点の順位決定</p>	<p>脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、その同点の選手は追加のタイブレーキングシリーズ(4秒射)を同点が解消されるまで行う。どのタイブレーキングシリーズも左側の選手から開始される。</p> <p>タイブレーキングシリーズでは、射場長はすぐに最初の同点の選手の名前“[該当選手の苗字]”を呼び、その後は通常の射撃手順が行われる。</p> <p>アナウンサーは同点が解消されるまでコメントはしない。</p>
<p>j) ファイナルの完了</p>	<p>2名の残ったファイナリストが第8シリーズを撃ち終わった後、同点や抗議がなければ、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ... アンロード)”と号令し、そして“RESULTS ARE FINAL (リザルツ アー ファイナル)”と宣言する。</p> <p>ジュリーはメダリストをFOPに集合させ、アナウンサーは即座に、6.17.1.14に従って、銅、銀、金メダリストをアナウンスする。</p>

	ファイナリストやコーチが射撃線からピストルを動かす前に、射場役員は薬室が開放され、セフティフラッグが挿入され、弾倉がはずされ、弾倉からも抜弾されていることを確認するためにピストルをチェックしなければならない。ピストルは射撃線から去る前にケースに収納されていなければならない。
k) 遅発 (LATE SHOTS)	選手がレイトショットを撃ったり、時間内に全5的を撃ちきれなかった場合、オーバータイムショットまたは未発射弾1発につき1ヒットの減点はそのシリーズのスコアに科せられる。その遅発は“OT”と表示される。
l) READYポジション (8.7.2、8.7.3)	ジュリーが選手の腕の振り上げが早すぎるまたは十分に腕が下がってなかったと判断した場合、選手はそのシリーズの得点から2ヒット減点されなければならない(グリーンカード)。ファイナルでは警告は与えられない。これが繰り返された場合、選手は失格とされなければならない(レッドカード)。レディーポジション違反の裁定を下す場合は、ペナルティーや失格を科す前に、少なくとも2名の競技ジュリーが、選手の腕の振り上げが早すぎたことを示す表示(旗をあげるなど)をしなければならない。
m) 故障 (8.9)	試射中の故障については申告も再射もできない。ファイナルを通じて本射中には1回のみ故障(許容できる故障であろうが許容できない故障であろうが)を申告できる。本射中に故障が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容できないものかを確認しなければならない。許容できる故障ならば、選手はそのシリーズを、他のファイナリストを待たせて、即座に再射しなければならない。その再射シリーズの得点が採用される。選手は再射シリーズの準備のために15秒与えられる。これ以外の故障に対して再射は許されず、表示されたヒット数が加算される。 もしその故障が許容できないものであったなら、そのシリーズの得点から2ヒットの減点が科せられなければならない。

6.17.5 ファイナル—25mピストル女子

a) ファイナルの様式	25mピストル女子のファイナルは、速射の5発シリーズのヒットオアミススコアによる10シリーズで構成され、4シリーズ目から最下位のファイナリストの脱落が開始され、金および銀メダリストの決まる10シリーズまで続けられる。
b) 標的	25mESTの5的グループ2つを使用しなければならない。標的はA—B—R1—D—E—F—G—R2—I—Jと表示される。ファイナルでは、8名のファイナリストがA—B—D—E—F—G—I—Jにくじ引きによって割り当てられる。
c) 採点	ファイナルは0点から始められる。採点はヒットオアミススコアであり、ヒットゾーンにあたった弾、1発につき1ヒットと採点される。ヒットゾーンの大きさは25mラピッドファイアピストル標的の10.2点の範囲となる。

	<p>ファイナルにおける得点は加算され、各選手の最終成績は5シリーズの合計ヒット数により順位が決められる。同点の場合は同点が解消されるまで追加のシリーズを行う。</p>
<p>d) 出頭時刻 30分前と15分前</p>	<p>選手は開始時刻の少なくとも30分前に用具と競技用の服装を携えて出頭しなければならない。ジュリーは各選手が出頭したら可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。選手および選手のコーチは、開始時刻の15分前までには、ファイナルを行うに十分な弾薬を含む用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。選手の用具には故障したピストルに換えて使用する予備銃（セフティフラッグが挿入されていない）も含まれる。</p>
<p>e) 呼び出し 準備時間と試射 12分前</p>	<p>射場長は開始時刻の12分前に“ATHELETES TO THE LINE（アスリート トゥ ザ ライン）”という号令をかける。1分後、射場長は“PREPARATION BEGINS NOW（プレパレーション ビギンズ ナウ）”という号令により2分間の準備時間を開始させる。</p> <p>2分後、射場長は“END OF PREPARATION（エンド オブ プレパレーション）”の号令をかける。</p> <p>試射シリーズは通常の速射5発（8.7.6.4）で行われる。準備時間の後直ちに、射場長は“FOR THE SIGHTING SERIES, LOAD（フォー ザ サイティング シリーズ ロード）”の号令をかける。この号令の後、選手は弾倉に弾を入れピストルに装着し、射撃の準備をすることができる。</p> <p>“LOAD（ロード）”の号令の60秒後、射場長は“ATTENTION（アテンション）”の号令をかけ、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレディーポジションをとらなければならない（8.7.2）。7秒後、シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP... UNLOAD（ストップ アンロード）”の号令をかける。</p> <p>試射シリーズでは得点のアナウンスは行われぬ。“STOP... UNLOAD（ストップ アンロード）”の号令後、ファイナリストは抜弾したピストルにセフティフラッグを挿入して台に置き、選手紹介のために観客と向かい合わせになるように振り向かななければならない。射場役員は薬室が開放され、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>f) ファイナリストの紹介 6分15秒前</p>	<p>ファイナリストの銃のチェック後、アナウンサーは、6.17.1.12に従い、選手、射場長、担当ジュリーを紹介する。</p>
<p>g) 号令と射撃の詳細手順</p>	<p>選手の紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS（テイク ユア ポジションズ）”の号令をかける。</p> <p>15秒後、最初の本射シリーズが開始される。射場長は“LOAD（ロード）”の号令をかける。選手は1分間で2つの弾倉に装填する（8.7.6.2. dはファイ</p>

	<p>ナルでは適用されない)。</p> <p>本射第1シリーズの開始前に1回だけ“LOAD (ロード)”の号令がかけられる。ファイナル全体を通じて、選手は必要に応じて弾倉に装填を行うことができる。</p> <p>“LOAD (ロード)”の号令の1分後、射場長は“FIRST SERIES... READY (ファースト シリーズ... レディー)”と号令をかけ、選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をする。</p> <p>“READY (レディー)”の号令の15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。選手はレディーポジション(8.7.2)を取らなければならない。7秒後、速射シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。7秒後に赤色ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP (ストップ)”の号令をかける。</p> <p>“STOP (ストップ)”の号令後、アナウンサーはファイナリストの順位と成績をコメントする。</p> <p>アナウンス終了15秒後に、射場長は“NEXT SERIES... READY (ネクスト シリーズ... レディー)”と号令をかける。15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかける。</p> <p>この手順をすべてのファイナリストが4シリーズを撃ち終えるまで続ける。第4シリーズ終了後そして8位に同点がなければ、射場長は“STOP (ストップ)”の号令をかける。</p>
<p>h) エリミネーション</p>	<p>すべてのファイナリストが第4シリーズを撃ち終わった後、最下位の選手が脱落する(8位)。この後、次のように各シリーズ終了後に一人ずつ選手が脱落していく。</p> <p>5シリーズ後・・・7位 6シリーズ後・・・6位 7シリーズ後・・・5位 8シリーズ後・・・4位 9シリーズ後・・・3位(銅メダリストの決定) 10シリーズ後・・・2位と1位(銀および金メダリストの決定)</p>
<p>i) 同点の順位決定</p>	<p>脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、その同点の選手は追加のタイブレイキングシリーズ(速射)を同点が解消されるまで行う。</p>

	<p>タイプレイキングシリーズでは、射場長はすぐに同点の選手の名前“[該当選手の苗字]”を呼び、そして通常の射撃手順によりタイプレイキングシリーズの号令がかけられる。アナウンサーは同点が解消されるまでコメントはしない。</p>
<p>k) ファイナルの完了</p>	<p>第10シリーズの後、同点がなければ、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令後、“RESULTS ARE FINAL (リザルト アー ファイナル)”と宣言する。</p> <p>ジュリーはメダリストをFOPに集合させ、アナウンサーは即座に、6.17.1.14に従って、銅、銀、金メダリストをアナウンスする。</p>
<p>l) READYポジション (8.7.2)</p>	<p>競技ジュリーが選手の腕の振り上げが早すぎるまたは十分に腕が下がってなかったと判断した場合、選手はそのシリーズの得点から2ヒット減点されなければならない(グリーンカード)。ファイナルでは警告は与えられない。これが繰り返された場合、選手は失格とされなければならない(レッドカード)。レディーポジション違反の裁定を下す場合は、ペナルティや失格を科す前に、少なくとも2名の競技ジュリーが、選手の腕の振り上げが早すぎたことを示す表示(旗をあげるなど)をしなければならない。</p>
<p>m) 故障 (8.9.1)</p>	<p>試射中の故障については申告も完射もできない。ファイナルを通じて本射中には1回のみ故障(許容できる故障であろうが許容できない故障であろうが)を申告できる。本射中に故障が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容できないものかを確認しなければならない。許容できる故障ならば、選手はそのシリーズを、他のファイナリストを待たせて、即座に完射しなければならない。選手はシリーズ完射の準備のために15秒与えられる。これ以外の故障に対して完射は許されず、表示されたヒット数が加算される。</p>

6.17.6

ファイナルにおける抗議

- a) ファイナル中の抗議は口頭で即座に行われなければならない。抗議は選手またはコーチの挙手によって行われる。
- b) ファイナルでは抗議料は課せられない。
- c) すべての抗議はファイナル抗議ジュリーによって即断されなければならない(GR 3.12.3.7、6.16.6および6.17.1.10. d)。ファイナル抗議ジュリーの裁定は最終であり、上訴はできない。
- d) ファイナルにおける抗議が採用されない場合、2点または2ポイントの減点が最終弾または最終シリーズに科せられなければならない。

6.17.7

表彰式

金、銀、銅メダリストを讃える表彰式は各ファイナル後できるだけ迅速に、GR3.8.5に従って、行われなければならない。表彰式の進行のISSF基準は、ISSF本部に用意されている、ファイナル射場と表彰式の認定ガイドラインに示されている。

6.18

エアライフルおよびエアピストルのミックスチーム種目

6.18.1

全般的競技手順

6. 18. 1. 1 **種目**
このルールは次に示す種目の特別テクニカルルールを規定する。
a) 10mエアライフルミックスチーム種目およびミックスチームジュニア種目
b) 10mエアピストルミックスチーム種目およびミックスチームジュニア種目
6. 18. 1. 2 **チーム構成**
ミックスチームは同じ国（二か国の混成は認めない）の男女一人ずつの2名によって編成されなければならない。両チームメンバーは自国の色や特徴を持った競技用の衣装を身に着けるべきである。
6. 18. 1. 3 **チームの申し込み**
各国は選手権大会ごとに最大2チームの申し込みができる。参加料は1チーム170ユーロである。チームメンバーはそのミックスチーム種目の競技日の2日前の12時間前までにその選手権大会に申し込んでいる別の選手と変更することができる。
6. 18. 1. 4 **競技方式**
10mミックスチーム種目は2つのステージで行われる。
a) 本選
b) ファイナル
6. 18. 1. 5 **チーム成績**
ミックスチーム種目の得点と成績は2人のチームメンバーの合計点に基づく。
6. 18. 1. 6 **コーチング**
本選においては、6. 12. 5（言語によらないコーチングは認められる）によるコーチングができる。ファイナルにおいては、アナウンサーが実況、解説をしているときに、ファイナル中に1回に限り、最大30秒間で射座内にいるチームメンバーに近づいて話すことができる。担当ジュリーはその時間を管理しなければならない。
6. 18. 1. 7 **故障**
本選における故障は6. 13に従って処理される。ファイナルにおける故障は6. 17. 1. 6に従って処理される。選手は、許容できないにかかわらず各ステージ（本選およびファイナル）に1回の故障の申告ができる。
6. 18. 1. 8 **ESTに対する不満と得点に関する抗議**
本選におけるESTに対する不満は6. 16. 5. 2に従って裁定される。ファイナルにおけるESTに対する不満は6. 18. 3. 5に従って裁定される。
6. 18. 1. 9 **抗議**
本選における抗議は6. 16に従って裁定される。ファイナルにおけるどのような抗議もファイナル抗議ジュリーによって6. 17. 1. 10および6. 17. 6に従って裁定される。
6. 18. 1. 10 **表彰式**
ミックスチーム種目の表彰式は6. 17. 7に従って行われる。
6. 18. 2 **本選**
6. 18. 2. 1 **会場**
ミックスチーム種目の本選は本選射場で1つ以上の射群で実施される。
6. 18. 2. 2 **射座割**

各チームの2人は隣り合った射座で男子が右、女子が左に配置されなければならない。チームの射座は6.6.6に従ってコンピューターの抽選によって割り当てられる。同じ国のチームを隣り合って配置することはできない。

6.18.2.3 **選手の入場**

各本選射群において、射場長は準備および試射時間の5分前に選手を射座に入れる。

6.18.2.4 **準備および試射時間**

本選前に10分間の準備および試射時間が行われる。その後、標的をリセットするために30秒間の休止がとられる。準備および試射時間の間にアナウンサーはこの種目の競技方式を説明したり参加チームの紹介をすることができる。

6.18.2.5 **弾数と制限時間**

本選ではチームメンバーは50分の制限時間でそれぞれ40発の本射弾（チームでは合計80発）を撃つ。本選は6.11に従って運営される。

6.18.2.6 **得点**

10mエアライフルミックスチーム種目は小数値（6.3.3.1）の得点が使われる。10mエアピストルミックスチーム種目では整数値の得点が使われる。

6.18.2.7 **チーム成績**

チームの成績はチームの得点に従って決められる。同点の場合はチーム得点（2人の合計得点）に6.15.1を適用して順位を決定する。

6.18.2.8 **ファイナルへの進出**

本選の上位5チームがファイナルに進出する。

6.18.3 **ファイナル**

6.18.3.1 **会場**

10mエアライフルおよびエアピストルのミックスチーム種目のファイナルは、可能であれば、ファイナル射場で行われなければならない。各チームの両選手が見ることのできる成績表示モニターはFOPになければならない。

6.18.3.2 **ファイナル役員**

ミックスチーム種目のファイナルは6.17.1.10に従って運営および監督される。

6.18.3.3 **射座割**

ファイナルに進出した5チームはファイナル射場の10射座に抽選によって割り当てられる。チームメンバーは隣り合った射座に割り当てられなければならない。チームが出頭した時（30分前）に、チームのコーチはRTSジュリーにチームメンバーのどちらが左側で、どちらが右側で撃つかを知らせなければならない。

6.18.3.4 **得点**

本選の得点は持ち越さない。ファイナルの得点は0点から始まる。ファイナル（エアライフル、エアピストルの両方とも）における全ての本射弾は、小数値で採点される。

6.18.3.5 **ファイナル中のESTに対する不満**

ロール紙の送り不良に、チームメンバーまたはコーチが不満を感じたり、射場役員やジュリーが気付いた場合、射場長は試射または競技を中断し、技術役員にこの問題を直させ、その後、競技を継続させなければならない。

チームメンバーが、標的が正しく作動していないまたは予期しない0点や表示無しに対する不満がある場合、次の手順が行われなければならない。

- a) ジュリーおよび射場役員は不満の表明された時間を記録しなければならない。
- b) 射場役員は次のメンバーの射撃を止め、故障があったと思われる標的を撃っている選手にもう1発撃つように指示しなければならない。この追加の発射弾が記録されたならば、射場役員はチームに、追加時間として60秒を与え、そのシリーズまたはショットを完了するように指示する。追加弾の得点が採点され、表示のなかった弾は無効とされる。
- c) 追加弾も表示がなかった場合、射場役員は故障した標的のチームに射撃を止めるように指示しなければならない。そのシリーズまたはショットの終わった時点で、ジュリーは競技を止め、技術役員に標的の修理または交換を指示しなければならない。
- d) 標的の修理または交換の後で、全てのチームに2分間の弾数無制限の試射が与えられる。故障した標的のチームは、中断が生じた時の残り時間に60秒を加えた時間でそのシリーズまたはショットを完了させる。そのシリーズまたはショットが完了した後、競技は続行される。

6. 18. 3. 6 出頭および開始時刻

開始時刻とは射場長が最初の本射シリーズの号令をかけた時となる。ファイナルに進出したチームはファイナル射場のプレパレーションエリアに、必要とする用具全てを携えてチームメンバーの2人とコーチ1人が開始時刻の遅くとも30分前に出頭しなければならない。時間までにチームメンバーの1人または2人が出頭しなかった場合、最初の本射シリーズから2点が減点される。ファイナル後に表彰式が予定されている場合、全ての選手は表彰式にふさわしいナショナルチームのユニフォームを着て出頭しなければならない。ジュリーは選手の出頭後、可能な限り素早く、出頭時間内に用具検査を完了させなければならない。開始時刻の遅くとも18分前にはチームメンバーとコーチはFOP内の決められた射座にライフルやピストルを持ち込むことが許されなければならない。開始時刻の遅くとも12分前には、チームメンバーとコーチは、入場に備えて、射座順に並ばなければならない。

6. 18. 3. 7 入場

射場長は“ATHLETES TO THE LINE (アスリート トウ ザ ライン)”の号令によって全選手をファイナル射場に呼び寄せる。全選手は、射場長の“LADIES AND GENTLEMEN, PLEASE WELCOME THE ATHLETES IN THE (10 METER AIR RIFLE/PISTOL) MIXED TEAM FINAL (レディース アンド ジェントルマン、プリーズ ウェルカム ジ アスリーツ イン ザ (テン メーター エア ライフル/ピストル) ミクスト チーム ファイナル)”のアナウンスとともに射場にて動きを止め、観客に対面しなければならない。拍手が終わるのを待ったあと、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS (テイクユア ポジションズ)”の号令をかける。この後、選手は振り返り、指定された射座に直接向かわなければならない。

6. 18. 3. 8 準備および試射時間

1分後、射場長は“FIVE MINUTES PREPARATION AND SIGHTING... START (ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイティン

グ..... スタート)”の号令をかける。4分30秒後、射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”のアナウンスをする。5分後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ... アンロード)”の号令をかける。

6.18.3.9 **ファイナルでのチーム紹介**

“STOP... UNLOAD (ストップ... アンロード)”の号令の後、ファイナリストは銃のアクションを開きセフティフラッグを挿入しなければならない。選手紹介の間、ライフルのファイナリストは、姿勢はそのままよいが、ライフルを肩から外し降ろしておき、観客の方を向かなければならない。ピストルのファイナリストはピストルを置き、選手紹介の間、観客と対面していなければならない。射場役員は銃のアクションが開いて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。ファイナリストの銃の確認が終わった後、アナウンサーはファイナリスト、射場長と担当ジュリーを、6.17.1.12に従って、紹介する。選手紹介の後すぐに、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS (テイク ユア ポジションズ)”の号令をかける。

6.18.3.10 **5発本射シリーズ**

ファイナルは3回の5発シリーズ（各チーム、シリーズごと合計10発、総合計30発）から開始される。各シリーズでは、チームメンバーの2人は左側の選手から先に、左-右-左-右-左-右のように交互に撃たなければならない。両選手は“LOAD (ロード)”の号令後、装填し、撃つ準備をしてよいが、右側の選手は左側の選手が撃つまでは撃つことはできない。チームの2人は5発シリーズ（合計10発）を300秒以内に撃つことになる。射撃順を誤った場合、チーム得点から2点が減点される。

6.18.3.11 **5発シリーズの手順**

“TAKE YOUR POSITIONS (テイク ユア ポジションズ)”の号令の60秒後、射場長は“FOR THE FIRST COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザファーストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。

- a) 300秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終えたら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。
- b) “STOP (ストップ)”の号令の直後、アナウンサーは15～20秒で、現在のチームの順位と特筆すべき成績についてコメントする。個々の得点はアナウンスしない。
- c) アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。この手順を全チームメンバーが3回の5発シリーズを終えるまで続ける。

6.18.3.12 **単発本射**

3回の5発シリーズ（各チーム合計30発）の後、各チームメンバーが1発ずつ撃つ単発本射が始まる。各撃発においては左側の選手が先に撃ち、次に右側の選手が撃つ。チームの2人は各1発計2発を60秒以内で撃つことになる。射撃順を誤った場合、チーム得点から2点が減点される。各選手2発（チーム合計4発）撃ち終ったところで最初の脱落チームが決まる。各チームの順位は次のようにして決められる。

- a) 各選手が17 (15+2) 発を撃った後、第五位のチームが脱落する。
- b) 各選手が19 (15+2+2) 発を撃った後、第四位のチームが脱落する。
- c) 各選手が21 (15+2+2+2) 発を撃った後、第三位のチームが脱落し、銅メダルチームが決定する。
- d) 各選手が24 (15+2+2+2+3) 発を撃った後、金メダルチームと銀メダルチームが決定する。

6. 18. 3. 13

単発手順

3回の5発シリーズの後のチーム順位や得点に関するアナウンサーのコメントが終わったらすぐに、射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD(フォーザネクストコンペティションショットロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START(スタート)”の号令をかける。

- a) 60秒後または全てのファイナリストが1発を撃ち終わったら、射場長は“STOP(ストップ)”と号令をかける。
- b) “STOP(ストップ)”の号令の直後、アナウンサーは15~20秒で、現在のチームの順位と特筆すべき成績についてコメントする。個々の得点はアナウンスしない。
- c) アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD(フォーザネクストコンペティションショットロード)”と号令をかける。そして単発の手順が続けられる。全てのファイナリストが2発の単発本射を撃ち終わったら(チーム合計2×17発)、第五位のチームが脱落する。
- d) 残ったチームのメンバーの全てが次の2発の単発本射を撃ち終わったら(チーム合計2×19発)、第四位のチームが脱落する。
- e) 残ったチームのメンバーの全てが次の2発の単発本射を撃ち終わったら(チーム合計2×21発)、第三位のチームが脱落する。
- f) 残ったチームのメンバーの全てが次の3発の単発本射を撃ち終わったら(チーム合計2×24発)、第一位と第二位(金メダルと銀メダル)のチームが決定する。

6. 18. 3. 14

同点の順位決定

脱落するチームにおける同点または第一位と第二位のチームにおける同点はシュートオフによって順位を決定する。同点のチーム(両選手とも)は順位決定のための追加のシュートオフを行わなければならない。このシュートオフでも左側の選手が先に撃ち、右側の選手が後に撃たなければならない。この追加のシュートオフは順位が決まるまで行われる。射場長は“THERE IS A TIE BETWEEN THE TEAMS FROM (NATION) AND (NATION)(ゼアイズアタイビトウィーンザチームズフロム(国名)アンド(国名))”とアナウンスし、シュートオフを進行する。各シュートオフの制限時間は60秒である。同点の順位決定はシュートオフのチーム得点によって行われる。

6. 18. 3. 15

ファイナルの完了

二十四発目の撃発後、同点が無く、金メダルチームと銀メダルチームが決定したら、射場長は“STOP... UNLOAD(ストップ... アンロード)”と号令し、そして“RESU

LTS ARE FINAL (リザルツ アー ファイナル)”と宣言する。射場役員は銃のアクションが開いて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。ジュリーは3組のメダル獲得チームをFOPに集め、整列させなければならない。そして、アナウンサーが銅メダル、銀メダル、金メダル獲得チームを紹介する。

6.19

書類様式

ISSF選手権大会を実施するにあたり必要な以下の書類の様式を次ページより掲載する。

- a) 抗議用紙 (様式P)
- b) 上訴用紙 (様式AP)
- c) 射場事故報告書 (様式IR)
- d) RTS室採点通知書 (様式CN)
- e) 25mラピッドファイアピストル男子故障採点票 (様式RFPM)
- f) 25mスタンダードピストル男子故障採点票 (様式STDPM)
- g) ドレス/広告コード違反警告書 (様式DC)

日本競技規則(2018)

	<h1>上 訴 用 紙</h1>	<h1>AP</h1>
<p>チームリーダーまたは代表者が記入 ジュリーの裁定に同意できない場合は上訴することができる。 抗議に用いた抗議用紙（P）のコピーを添付すること。</p>		
<p>上訴の理由</p>		
<p>上訴用件</p>		
<p>上訴提出者（氏名－所属）</p>		
<p>上訴の受理 [受理した役員が記入]</p>		
<p>上訴を受け取った 日付： 時刻：</p>		
<p>受領した上訴料： 受領した者の氏名：</p>		
<p>上訴を受理した者の氏名</p>		

上訴ジュリーの裁定（主任上訴ジュリーが記入）			
上訴の検討	日付：	時刻：	
裁定結果	認める	/	却下
裁定の理由			
主任上訴ジュリーの氏名			
上訴提出者への通知			
日付：			
時刻：			
上訴料：	返却	/	収納
上訴ジュリーの裁定は最終である。			

射場事故報告書様式

		<h1>射場事故報告書</h1>			<h1>IR</h1>	
射場事故報告書シリアル番号 (記点手は記録を残していかなければならない)						
事故の日付				事故の時刻		
種目			射群			射座
選手氏名					ステージ	
Bib 番号			所属			シリーズ
事故の具体的状況						
適応ルール番号：						
罰則の付加：						
最初に報告した 射場役員の氏名					時刻	
競技ジュリーの氏名					時刻	
審査役員の氏名					時刻	
審査ジュリーの氏名					時刻	
成績表作成役員の氏名					時刻	
得点の変更について			備考			

注：射場役員またはジュリーによって書き込みが完了した用紙は、そのコピーを迅速に射場(EST)コントロールルームへ送らなければならない。

RTS室採点通知書様式

	<h1>RTS室</h1> <h2>スコア通知用紙</h2>		CN
種 目		日 付	
射 群		予 選 / 本 選	
速報を掲示した者の 氏名		時刻	
抗 議 締 切 時 刻		時刻	
抗議はなかった (確認者氏名)		成績は 確定した	
または、			
抗議が受理された (添付の抗議用紙を参照のこと)	抗議を受け取った 時 刻		
成績はまだ確定していない			
審査役員の氏名		時刻	
審査ジュリーの氏名		時刻	
成績表作成役員の氏名		備考	

注：RTS役員によって書き込みが完了した用紙は、そのコピーを迅速に射場(EST)コントロールルームへ送らなければならない。

25mラピッドファイアピストル男子故障採点票様式

		25mラピッドファイアピストル男子 故障時採点計算票			RFPM	
ステージと射群	/	シリーズ	1 st / 2 nd	故障時刻		
		射撃時間	8s / 6s / 4s			
射座番号		選手氏名				
Bib 番号		所属		日付		
許容できる故障には「AM」を許容できない故障には「NAM-O」と記入。 発射されなかった弾は「0」と記入（標的外または両シリーズで1発も弾を受けなかった標的のみ）。						
ショット シリーズ	左 モニター	モニター	中央 モニター	モニター	右 モニター	合計
本 射						
再 射						
最終得点						
（最終得点は各欄の低い方の得点の合計と等しい）						
10発シリーズの後半の場合、前半5発の得点を記入。そうでなければ、空欄とする。			前半5発の得点		正しい10発の得点	
射場役員の氏名						
射場ジュリーの氏名						
審査役員の氏名		審査ジュリーの氏名				
成績表作成コンピューターの得点修正確認					技術役員の氏名	
審査ジュリーの氏名					修正参照番号	

注：射場役員またはジュリーによって書き込みが完了した用紙は、そのコピーを迅速に射場(EST)コントロールルームへ送らなければならない。

25mスタンダードピストル男子故障採点票様式

		25mスタンダードピストル男子 故障時採点計算票			STDP	
射 群	シリーズ	1 st / 2 nd / 3 rd / 4 th			故障時刻	
	射撃時間	150 / 20 / 10 sec				
射座番号	選手氏名					
Bib 番号	所 属		日 付			
許容できる故障には「AM」を許容できない故障には「NAM-O」と記入。 発射されなかった弾は「0」と記入（標的外または両シリーズで1発も弾を受けなかった場合のみ）。						
ショット シリーズ	1	2	3	4	5	合計
本 射						
再 射						
最終得点						
（最終得点は低い得点5発の合計）						
10発シリーズの後半の場合、前半5発の得点を記入。そうでなければ、空欄とする。			前半 5発の 得点		正しい 10発の 得点	
射場役員の氏名						
射場ジュリーの氏名						
審査役員の氏名		審査ジュリーの氏名				
成績表作成コンピューターの得点修正確認		技術役員の氏名				
審査ジュリーの氏名		修正参照番号				

注：射場役員またはジュリーによって書き込みが完了した用紙は、そのコピーを迅速に射場(EST)コントロールルームへ送らなければならない。

6. 20 ISSFドレスコード

*ISSF*ルールGTR6.7.5では次のように明言されている。

“公式スポーツ行事に適したマナーに則った服装で射場に現れることは選手、コーチおよび役員の責任である。選手と役員の服装はISSFドレスコードを遵守しなければならない。6.19のISSFドレスコード全文を参照すること。”

このISSFルールは、ISSFドレスコードを根拠としている。

6. 20.1 通則

全てのスポーツは自身が若者、大衆やメディアに提供するイメージに影響を受ける。特にオリンピックスポーツでは、選手、コーチや役員が与える素晴らしいプロフェッショナルなイメージによって判断される。射撃のスポーツとしての成長、新たな参加者やファンを引きつけることおよびオリンピックスポーツとして地位が保証される可能性は、選手や役員の服装によって大いに影響を受ける。このISSFドレスコードは、6.7.6の実行のための規定およびガイドラインを提供している。

6. 20.2 選手の服装規定

6. 20.2.1 練習、予選、本選、ファイナルで選手が着用する全ての服装は、国際的なスポーツの競技大会に参加する選手として適切なものが着用されなければならない。選手の服装はオリンピックスポーツのアスリートとしての射撃選手の良いイメージを伝えなければならない。

6. 20.2.2 競技会ではライフル、ピストル、ショットガンおよびランニングターゲット選手は各国、各国オリンピック委員会、各国競技団体の色やエンブレムを含んでいたり付いているスポーツタイプの服を着るべきである。競技中に着用する適切な服装には、各国競技団体や各国オリンピック委員会が支給したトレーニングスーツ、トラックスーツ、ウォームアップユニフォームなどが含まれる。

6. 20.2.3 団体戦に参加するチームメンバーは、代表する国を反映する同じユニフォームを着用すべきである。

6. 20.2.4 表彰式やその他のセレモニーでは、選手は公式ユニフォームまたは公式トレーニングウェアの着用を要求される。団体戦では全チームメンバーは適切なナショナルユニフォームを着用しなければならない。ナショナルチームのユニフォームを着用せずに表彰式に現れた選手がいた場合、 Juryは、式が始まる前に選手に適切な衣服に着替えるように要求し、そのために表彰式の開始を遅らせることができる。

6. 20.2.5 ライフル選手の服装は、7.5に記載されたライフル服装規定を遵守していなければならない。射撃ズボンおよび射撃シューズを着用しない場合、競技会での服装はこのISSFドレスコードを遵守しなければならない。

6. 20.2.6 すべてのピストル種目の練習ならびに競技中は、女性はドレス、スカート、キュロット、半ズボンまたはズボン、ならびにブラウスまたはトップス（上半身の前後と両肩を覆う上着）の着用を求められる。男性は長ズボンまたは半ズボンならびに長袖または半袖のシャツの着用を求められる。選手はどのようなタイプの競技力向上衣服を着用することは許されない。すべての選手の服装はISSFドレスコード（6.7.5および6.20）が守られていなければならない。

らない。

- 6. 20. 2. 7 ショットガン選手は 9. 12. 1 に記載されたショットガン服装規定を遵守しなければならない。
- 6. 20. 2. 8 半ズボンで競技を行う場合、その半ズボンの裾は膝の中心から上方 15 cm より長くなければならない。スカートやドレスにおいてもこの基準は守られなければならない。

6. 20. 3 禁止品目

- 6. 20. 3. 1 競技中や表彰式で着用が禁止される衣服はブルージーンズ、ジーンズまたはスポーツに適さない色の似たようなズボン、迷彩柄の衣服、ノースリーブのシャツ、短すぎる半ズボン（6. 20. 2. 8 参照）、ほつれた切り口の半ズボン、つぎあてや穴のあいているズボン、スポーツに適さないまたは不適切なメッセージ（宣伝の禁止：6. 12. 1 参照）の書かれたシャツやズボンが含まれる。スポーツに適した色とは各国のユニフォームの色のことである。ナショナルカラーを身につけない場合、避けるべきスポーツに適さない色とは、迷彩柄、格子柄、カーキ色、オリーブ色、褐色である。
- 6. 20. 3. 2 選手はサンダル履きまたは靴を履かない（靴下を履く、履かないにかかわらず）ことはできない。
- 6. 20. 3. 3 衣服の着替えは指定された場所で行わなければならない、FOP では禁止される。射座内または射場内での着替えは許されない。
- 6. 20. 3. 4 全ての服装は、メーカーおよびスポンサーマークの表示に関する ISSF 資格認定、商業上権利、スポンサーシップおよび広告ルールを遵守しなければならない。
- 6. 20. 4 コーチおよび**役員**の服装規定
- 6. 20. 4. 1 ISSF ドレスコードは ISSF ジュリーや射場役員やショットガンレフリーを含む各国の技術役員にも適用される。ISSF ドレスコードは、練習、競技またはファイナル中に FOP 内に入るコーチ等についても適用される。
- 6. 20. 4. 2 組織委員会から特別な役員衣服が提供されない場合、ジュリーは、色の濃いズボンまたはスカートに襟と長袖の明るい色のシャツを着用すべきである。天候によりセーターや上着を着用する必要のある時は、なるべくなら色の濃いものを着用すべきである。暖かい気候の時には軽いズボンが推奨される。色の濃い普通の靴またはスポーツシューズを履くことを推奨する。
- 6. 20. 4. 3 職務中のジュリーは赤のジュリーベスト（ISSF 本部で購入できる）を着用しなければならない。
- 6. 20. 4. 4 職務中のショットガンレフリーは青のレフリーベスト（ISSF 本部で購入できる）を着用しなければならない。
- 6. 20. 4. 5 競技役員およびコーチは、6. 20. 3 に記述されている禁止された服装を着用することはできない。
- 6. 20. 5 **カメラマンやTVカメラマンの服装規定**
- 6. 20. 5. 1 派遣されるカメラマンやTVカメラマンがFOPに立ち入る際には、公衆の面前で働いているとの観点から、ISSF ドレスコードを尊重しなければならない。
- 6. 20. 5. 2 カメラマンやTVカメラマンは、ノースリーブのシャツ、ほつれた切り口の体操またはランニング半ズボンを着るべきではない。半ズボンをはく際には靴下と靴をはかなければならない。

6. 20. 5. 3 FOP内で仕事をするカメラマンは、ISSFの発行する、記録員またはカメラマン用の公式ビブベストを着用しなければならない。カメラマンベストにはISSFロゴマークが付けられ、ISSFロゴマークよりも大きくないスポンサーマークを1つ入れることができる。カメラマンベストには番号が入れられており、それによってフォトコーディネーターやテクニカルデレゲートがカメラマンの個別認識ができるようになっている。
6. 20. 5. 4 FOPで仕事をするTVカメラマンは、TVカメラマン用の公式ビブベストを着用しなければならない。TVカメラマンベストにはISSFロゴマークが付けられ、その前後には容易に見分けのつく番号が入れられており、それによってTVカメラマンの個別認識ができるようになっている。
6. 20. 5. 5 カメラマンとTVカメラマンは、FOPで仕事をするときは、広告表示の入った他のベストやジャケットを着ることは許されない。
6. 20. 6 **ドレスコードの執行手順**
6. 20. 6. 1 ISSF用具検査、ライフル、ピストル、ショットガンジュリーはISSF服装規定およびISSFドレスコードを守らせる責任がある。
6. 20. 6. 2 ISSF選手権大会の期間中、ISSFジュリーは1回目の違反から違反を正す事を求める文書警告を与える。文書警告を受けた選手が服装違反を正す（服装を換える）ことがない場合、失格となる。ジュリーは、通常、用具検査や練習中に警告を与える。ジュリーは、着替えのための十分な時間がない場合、着替え前に選手に事前練習シリーズやステージ（ショットガンと25mピストル）をする許可を与えることができる。いかなる選手も本選またはファイナルの競技または表彰式に不適切なまたは禁止された衣服を着たままで参加することは許されない。
6. 20. 6. 3 競技前および競技中に、ジュリーはドレスコードまたは広告表示違反の通知および違反の矯正要請のために、ISSFドレスコード／広告表示違反警告書（様式DC）を使用しなければならない。

6.21 索引

注：索引は日本語において編集されている。

0点一撃ちきれなかった弾	6.11.1.2.f
1個の標的の故障	6.10.9.2
10m/50m電子標的の故障	6.10.9
10mエアピストルー標的	6.3.4.6
10mエアライフルー標的	6.3.4.3
10mエアライフル／ピストルミックスチーム種目	6.18
10m屋内射場	6.4.3.3.c
10m射場ー射座基準	6.4.10
10m射場ー照度測定	6.4.14
10m射場ー標的装置	6.4.10.c
10m種目ー10mエアガン種目の特別ルール	6.11.2
10m種目における競技中の空気等の放出	6.11.2.2
25m/50m屋内射場	6.4.3.3.c
25m/50m精密ピストルー標的	6.3.2.5
25m屋外射場ー屋外部分	6.4.3.3.g
25m射場ー基準	6.4.11
25m射場ー射座間のスクリーン	6.4.11.8
25m射場ー射座の広さ	6.4.11.7
25m射場ー射座の備品	6.4.11.10
25m射場ーセクション（グループ）	6.4.11.3
25m種目ー標的ーRFP	6.3.4.4
25m種目ー標的ー精密	6.3.4.5
25m電子標的ーコントロールシート	6.3.5.4
25m電子標的の採点時間の設定	6.4.13
25m標的ー採点時間	6.4.12
25m標的ー標的の番号	6.4.3.6
25m標的採点時間	6.4.12
25mラピッドファイアピストル種目ー射座割	6.6.6.2
25mラピッドファイアピストル種目ー標的	6.3.4.4
25mラピッドファイアピストル種目ー標的グループ	6.4.11.3
3分間以上の中断	6.11.3.1
300m屋外射場ー屋外部分	6.4.3.3.e
300m射場ー射座基準	6.4.8
300m電子標的ー誤射（クロスファイア）	6.11.6.9.c
300mライフルー標的	6.3.4.1
5分間以上の中断または射座を移動したとき	6.11.3.2
50m/300mの予選における団体得点	6.6.6.1.e & f
50m屋外射場ー屋外部分	6.4.3.3.f

50m射場一射座基準	6.3.9
50mライフルー標的	6.3.4.2
Bib番号(スタート番号)	6.7.7
ISSF選手権大会の運営	6.1.5
ISSF選手権大会の組織と監督	6.1.5
ISSFルールの精神と意思	6.8.10
ISSFルールの趣旨と目的	6.1.1
ISSFルールの適用	6.1.2
LOADー定義	6.2.3.4
LOADー2発以上の装填	6.11.2.4
LOAD/START前の発射	6.2.3.5
RTS室ー任務と手順	6.14
RTSジュリーー電子標的	6.10.3
RTSジュリーー採点の監督	6.8.b
RTSジュリーの裁定	6.10.3.1
RTS長ー任務と職務	6.9.3
RTS役員ー任務と職務	6.9.4
START前の発射	6.11.1.1.i
STOP後の発射	6.11.1.3
STOP後の射撃の再開	6.2.3.6
STOPの号令	6.11.1.3
TRの範囲	6.1.3
UNLOAD/STOP後の発射	6.2.3.5
厚さ測定装置	6.5.1
雨、日光、風を防ぐ	6.4.1.5
安全	6.2
安全ー射場	6.2.1.2
安全ー選手、役員、観客	6.2.1.3
安全規定ー通則	6.2.1
安全に関するジュリーおよび射場役員による射撃中止	6.2.1.5
安全に関する用具検査	6.2.1.6
安全の基本	6.2
偽りの情報	6.12.6.1.c
違反の隠蔽	6.12.6.1.b
違反ー明白なもの	6.12.6.1.a
イレギュラーショット(不規則弾痕)ー10m、50m、300m	6.11.5
撃ちきれなかった弾	6.11.1.2.f
腕に装着する装置	6.7.4.4
エクストラショットー最終弾の取り消し(競技弾数の超過弾)	6.10.9.3.d

エクストラショットー照準した撃発の指示	6. 10. 9. 3
エクストラショットーモニターへの不表示	6. 10. 10. 4
エクストラショットーモニターへの表示	6. 10. 9. 3
屋内射場ー照度測定	6. 4. 14. 2/. 3
屋内射場ー要求照度 (Lux)	6. 4. 14
屋内射場での照度測定	6. 4. 14. 2/. 3
屋内射場における要求照度	6. 4. 14
「お知らせ」の標示	6. 11. 8. h
音響発生/減衰装置	6. 7. 4. 3
固さ測定装置	6. 5. 2
空撃ち	6. 2. 4. 1
空撃ちー定義	6. 2. 4. 1
観客エリア	6. 4. 1. 5
規格の変更	6. 4. 1. 10
危険行為による安全規定違反	6. 12. 6. 3
技術役員ー電子標的	6. 10. 1
喫煙	6. 11. 8. e
機能確認射場	6. 4. 11. 11
疑問の残る弾痕ーコンピューターに記録の残ってない弾痕	6. 10. 9. 3. e
疑問の残る弾痕ー採点	6. 10. 9. 3
競技後検査	6. 7. 9
競技中の音楽	6. 11. 8. a
競技中のコーチング	6. 12. 5
競技中の用具、銃器、姿勢の検査	6. 8. 5
競技前練習 (前日練習)	6. 6. 3. 2
競技役員	6. 9
競技ルール 10m/50mライフルおよびピストル種目	6. 11. 1
許容できない故障	6. 13. 2. 2
許容できる故障	6. 13. 2. 1
記録	6. 14. 9
記録されなかった弾痕	6. 10. 9. 3
空気/CO ₂ シリンダーー交換と再充填	6. 11. 2. 3
空気/CO ₂ シリンダーー選手の責任ー有効期間	6. 7. 6. 2. g
空気/CO ₂ シリンダーー有効期間	6. 2. 4. 2
空気銃弾ー1発のみ装填	6. 11. 2. 4
靴底柔軟性測定装置	6. 5. 3
警告	6. 12. 6. 2. a
携帯電話	6. 11. 8. f/6. 7. 4. 4
携帯電話ー制限情報の表示	6. 11. 8. h

ゲージと器具	6.5
減点	6.12.6.2.b
減点－STARTの号令前の発射	6.11.1.1.i
減点－虚偽の申告	6.12.6.1.c
減点－種目または姿勢における超過弾	6.11.5
減点－準備時間での圧縮気体の放出	6.11.2.1
交換と充填－ガスおよびエアシリンダー	6.11.2.3
抗議－口頭	6.16.2
抗議－ジュリーによる取り扱い	6.8.11
抗議－書面抗議	6.16.3
抗議－得点の抗議－RTSジュリー	6.16.5
抗議時間	6.16.5.1
抗議と上訴	6.16
抗議料	6.16.4
公式行事への適切な服装－服装規定	6.17.1.3
公式大会プログラム	6.6.1.1
公式スケジュール	6.6.1.2
公式練習	6.6.3.1
口頭抗議	6.16.2
号令 LOAD/START－UNLOAD/STOP	6.3.1
誤射（クロスファイア）	6.11.6
誤射－300m電子標的	6.11.6.9.c
誤射－誤射を受けたことが確認できたときの処置	6.11.6.4
誤射－誤射を受けたことが確認できなかったときの処置	6.11.6.5
誤射－採点	6.11.6.1
誤射－試射を他の選手の試射的に撃った場合	6.11.6.2
誤射－試射を他の選手の本射的に撃った場合	6.11.6.3
誤射－選手が撃っていないことを射場役員が確認できた場合	6.11.6.7
誤射－射場役員が確認できなかった場合	6.11.6.8
誤射－弾痕の取り消し	6.11.6.7
誤射－弾痕の否認	6.11.6.6
故障	6.13
故障－許容できる故障－追加の試射	6.13.4
個人種目の同点	6.15.1
個人種目の同点－すべての同点は順位決定される	6.15.1
コーチング	6.12.5
言葉によらないコーチング	6.12.5.1
コントロールシート－25mEST	6.3.5.4
コントロールシートの外の弾痕	6.3.5.5

最大参加数	6. 6. 1. 4
裁定－ジュリー	6. 8. 8
裁定－ジュリー－ I S S Fルールでカバーできない事項	6. 8. 13
採点および成績手準	6. 14
サイドブライндアー	6. 7. 8. 1
参加申込－最終締切	6. 6. 4
参加身分および制限	6. 6. 1. 3
式典－選手の出席	6. 20. 2. 4
試射	6. 11. 1. 1
試射から本射への切り替え	6. 10. 4
試射中の不満	6. 10. 5
試射中の不満－ファイナル	6. 17. 1. 8. a
失格	6. 12. 6. 2. c
失格－重大な安全規則違反	6. 12. 6. 3
失格－役員または選手への暴力	6. 12. 6. 4
指名検査	6. 7. 9. 4
射距離	6. 4. 5
射距離－測定	6. 4. 5. 1
射撃線	6. 4. 3. 2
射撃線－表示と計測	6. 4. 5. 4
射撃テーブル	6. 4. 7. 1
射撃の準備－選手の定時出頭	6. 12. 4. e
射撃マット	6. 4. 7. 2. b
射座－物質	6. 11. 8. b
射座－備品	6. 4. 11. 10
射座内のテーピング	6. 11. 8. c
射座の水平方向への許容差	6. 4. 6. 3
射座の全般的基準	6. 4. 7
射座割	6. 6. 6
射座割－10m種目	6. 6. 6. f
射座割－25mラピッドファイアピストル	6. 6. 6. 2
射座割－屋外射場の予選種目	6. 6. 6. 1
射座割－原則	6. 6. 6
射座割－射場の制約	6. 6. 6. b
射座割－TDの監督	6. 6. 6. a
射座割－団体種目－2射群以上	6. 6. 6. g
射座割－同条件	6. 6. 6. c
射座割表	6. 6. 5
射場および他の設備	6. 4

射場基準	6.4
射場共通基準	6.4.3
射場スコアボード	6.4.2.i
射場長－任務と職務	6.9.1
射場での号令	6.2.3
射場内全部の標的の故障	6.10.9.1
射場内全部の標的の故障－競技手順	6.10.9.1
射場の安全	6.2.1.2
射場の通信設備	6.4.2.q
射場の時計	6.4.3.5
射場役員－ISSFルールの知識と効力	6.1.2.e
射場役員－任務と職務	6.9.2
射場役員－責任	6.9.2
射場役員による電子標的の本射への切り替え	6.10.4.b
射場役員の責任－LOAD/START-UNLOAD/STOP	6.2.3.1
銃器/弾薬の故障	6.13
銃器ケース	6.2.2.8
銃器の安全の確認	6.2.2.4
銃器の修理または交換	6.13.3
銃器の修理または交換－時間延長なし、追加試射は可能	6.13.4
銃器のテスト（機能テスト）	6.4.11.11
銃器の取り扱い	6.2.2
銃器の取り扱い－STOP後	6.2.3.6
銃器の取り扱い－射座からの銃器の移動	6.2.2.1
銃器の取り扱いルール	6.2.2
銃器への装填	6.2.3.2
銃器への装填－弾倉の使用－ライフル種目、50mピストル	6.2.3.3
銃器や用具の改変	6.7.9.4
銃器や用具の再検査	6.7.6.2.i
銃器を置く（手から離す）	6.2.2.4
重大な安全違反	6.12.6.3
種目や姿勢における超過弾	6.11.5
ジュリー－ISSFルールの知識と効力	6.1.2.e
ジュリー－過半数が射場にいること	6.8.8
ジュリー－監督－用具、銃器、姿勢の検査	6.8.5/.6
ジュリー－競技後検査の再検査に通らなかった時の裁定	6.7.9.3
ジュリー－競技ジュリー－任務と職務	6.8
ジュリー－競技前の検査とチェック	6.8.3
ジュリー－裁定	6.8.9

ジュリー—ジュリーの任命	6. 1. 5. 1
ジュリー—ジュリーによる時間延長	6. 11. 3. 2. b
ジュリー—助言、援助と監督	6. 8
ジュリー—責任	6. 8
ジュリーが射場にいること	6. 8. 8
ジュリー団—選手またはチーム役員	6. 8. 14
ジュリーによる検査—エクストラショット	6. 10. 9. 3
ジュリーによる時間延長—5分間以上の中断	6. 11. 3. 2
ジュリーによる時間延長—事故報告書への記入	6. 11. 3. 2. b
ジュリーによる時間延長—別の射座への移動	6. 11. 3. 2
ジュリーはISSF公式ジュリー赤ベストを着なければならない	6. 8. 2
ジュリーの任務と職務	6. 8
準備時間—試射的、競技前チェック	6. 11. 1. 1
準備時間—銃器の取り扱い、空撃ち、照準練習	6. 11. 1. 1. f
準備時間前の風旗の交換	6. 4. 4. 6
準備時間前の風旗のチェック	6. 4. 4. 6
照準練習	6. 11. 1. 1. f
小数値採点	6. 3. 3. 1/6. 3. 3. 2
上訴	6. 16. 6
上訴—競技後検査での失格	6. 7. 9. 3
照度測定—10m屋内射場	6. 4. 14. 3
女子種目/男子種目	6. 1. 2. h
書面抗議	6. 16. 3
書面抗議—ISSF本部への裁定の送付	6. 15. 6
スタート番号 (Bib番号)	6. 7. 7
成績配布	6. 14. 3
成績表—ISSF本部による製作	6. 14. 4
成績表—記載事項	6. 14. 4. 1
成績表—略号	6. 14. 4. 2
成績表に使う略号	6. 14. 4. 2
世界記録	6. 14. 9
世界記録—公認	6. 14. 9. 5
世界記録—ジュニア	6. 14. 9. 3
世界記録—ファイナル	6. 14. 9. 1
セフティフラッグ	6. 2. 2. 2
選手およびチーム役員の行動ルール	6. 12
選手権大会の運営	6. 6
選手権大会のプログラムとスケジュール	6. 6. 1
選手、射場役員、観客の安全	6. 2. 1. 3

選手の資格（ルール 4.1）	6.7.7.3
選手の責任	6.12.4
選手の責任－用具	6.7.2
選手の遅刻	6.11.4
宣伝	6.12.1
全般および運営上の設備	6.4.2
装填－2発以上の装填－エアガン	6.11.2.4.b
速報（成績の中間発表）	6.14.1
組織委員会と任命	6.1.5.2
代表者会議（テクニカルミーティング）	6.6.2
太陽－射場の方向	6.4.3.1
他の射座への移動	6.10.9.4
他の選手に対する不当な有利	6.7.1
他の選手に対する妨害	6.12.4
弾痕の位置表示や得点記録に対する不満（EST）	6.10.8
弾痕の表示や記録の故障の記載（EST）	6.10.9.3
弾痕の取り消し	6.11.6.9
弾痕の取り消し－選手が撃っていないことの確認	6.11.6.9.a
弾痕の取り消し－他の選手からの申告	6.11.6.9.b
男子種目/女子種目	6.1.2.h
団体種目における選手の交代	6.6.5.c
団体種目の同点	6.15.5
弾薬の装填	6.2.3.4
遅刻	6.11.4
チームリーダー－責任	6.12.3
抽選－射座割	6.6.6
中断	6.11.3
超過弾の得点の移動－カウントバック	6.11.5
追加の試射－故障	6.13.4
テクニカルデレゲート－電子標的のチェック	6.3.2.8
テクニカルデレゲート：世界記録の報告	6.14.9.5
テクニカルデレゲート：射座割の監督	6.6.6.a
テクニカルデレゲートによる射場の検査	6.4.1.9
テクニカルミーティング（代表者会議）	6.6.2
電子装置	6.7.4.4
電子標的（EST）	6.3.2
電子標的－選手の責任	6.10.4
電子標的－テクニカルデレゲートによるチェック	6.3.2.8
電子標的における得点に関する抗議	6.16.5.2

電子標的の技術役員	6. 10. 1
電子標的の検査	6. 3. 2. 8
電子標的の検査手順	6. 10. 8
同点一個人	6. 15. 1
同点の順位決定－カウントバック	6. 15. 1. b
同点の順位決定－個人	6. 15. 1
同点の順位決定－全般	6. 15
特殊な装置－服装	6. 7. 4. 2
得点からの減点	6. 14. 7
得点の抗議	6. 10. 7
得点の抗議－電子標的	6. 10. 7
得点の抗議－電子標的：2点の減点	6. 16. 5. 2. c
時計－射場内	6. 4. 3. 5
ドレスコード	6. 7. 5 / 6. 20
ドレスコード－禁止アイテム	6. 20. 3
残り時間	6. 11. 1. 2. e
バックアップカードとコントロールシート50m/300m	6. 3. 5. 5
バックアップターゲット（副的）－25m	6. 3. 5. 3
バックアップターゲット（副的）－50m/300m	6. 3. 5. 2
非公式練習	6. 6. 3. 3
非スポーツマン行為	6. 12. 6. 2. d
左利き/右利き	6. 1. 2. g
表彰式	6. 17. 7
標的および標的基準	6. 3
標的基準	6. 3
標的コントロールシステム	6. 3. 5
標的上の影	6. 4. 3. 1
標的線	6. 4. 5. 4
標的線－射撃線と平行	6. 4. 3. 2
標的装置	6. 4. 1. 8
標的中心位置	6. 4. 6
標的中心位置の水平方向での許容差	6. 4. 6. 2
標的の基準	6. 3
標的の高さ	6. 4. 6. 1
標的のナンバーリング	6. 4. 3. 6
標的の全般的必要条件	6. 3. 1
標的役員－電子標的	6. 10. 2
標的役員による試射－本射の切り替え	6. 11. 1. 1. k
標的枠と射座の番号	6. 4. 3. 6

風旗－50m、300m	6.4.4
ファイナル－1個の標的の故障－10m/50m種目	6.17.1.8.a
ファイナル－1個の標的の故障－25m種目	6.17.1.8.b
ファイナル－25mピストル女子	6.17.5
ファイナル－25mピストル女子－緑ランプ前の発射	6.17.1.13.j
ファイナル－25mラピッドファイアピストル男子	6.17.4
ファイナル－25mラピッドファイアピストル男子－緑ランプ前の発射	6.17.1.13.j
ファイナル－START前またはSTOP後の発射－10m/50m	6.17.1.13.h & i
ファイナル－エアガンにおけるガスの放出：2点の減点	6.11.2.1
ファイナル－エクストラショットの発射	6.17.1.13.k
ファイナル－演出と音楽	6.17.1.11
ファイナル－開始時刻	6.17.1.3
ファイナル－開始の遅れ	6.8.12
ファイナル－空撃ちの禁止	6.17.1.13.e
ファイナル－競技手順	6.17.1
ファイナル－競技手順－10mエアライフル/10mエアピストル	6.17.2
ファイナル－競技手順－25mピストル女子	6.17.5
ファイナル－競技手順－25mラピッドファイアピストル男子	6.17.4
ファイナル－競技手順－50m伏射/50mピストル	6.17.2
ファイナル－競技手順－50mライフル三姿勢男子/女子	6.17.3
ファイナル－競技手順－ライフル/ピストル	6.17
ファイナル－公式結果の発表	6.17.1.14
ファイナル－号令－10mR&P/50m伏射、50mピストル	6.17.2
ファイナル－号令－50m三姿勢男子、女子	6.17.3
ファイナル－最終公式成績	6.17.1.14
ファイナル－採点	6.17.1.5
ファイナル－試射中の不満	6.17.1.8.a
ファイナル－試射の号令－10mR&P/50m伏射、50mピストル	6.17.2.d
ファイナル－試射の号令－25mピストル女子	6.17.5.e
ファイナル－試射の号令－25mラピッドファイアピストル男子	6.17.4.e
ファイナル－試射の号令－50mライフル三姿勢	6.17.3.d
ファイナル－射座割	6.17.1.2
ファイナル－射場備品	6.17.1.9
ファイナル－射場への出頭	6.17.1.3
ファイナル－銃器の故障－10m/50m	6.17.1.6
ファイナル－銃器の故障－25mRFP（ルール8.9）	6.17.4.m
ファイナル－銃器の故障－25mピストル女子（ルール8.9.1）	6.17.5.l
ファイナル－出頭時刻に遅刻した選手：2点の減点	6.17.1.3
ファイナル－準備時間－10m/50m	6.17.2.d

ファイナルー準備時間ー25m種目	6.17.4.e & 5e
ファイナルーすべてのファイナル標的の故障	6.10.9.1
ファイナルーすべてのファイナル標的の故障ー10m/50m種目	6.10.9
ファイナルーすべてのファイナル標的の故障ー25m種目	6.10.9
ファイナルーセフティフラッグ	6.17.1.13.m/6.2.2.2.a
ファイナルー待機場所への出頭	6.17.1.3
ファイナルー遅刻	6.17.1.4
ファイナルー電子標的への不満	6.17.1.8
ファイナルー同点ー10m/50m伏射、50mピストル	6.17.2.j
ファイナルー同点ー25mピストル女子	6.17.5.j
ファイナルー同点ー25mラピッドファイアピストル男子	6.17.4.i
ファイナルー同点ー50mライフル三姿勢	6.17.3.l
ファイナルー得点	6.17.1.5
ファイナルー得点の発表ー10m/50m種目	6.17.2.g + h
ファイナルー得点の発表ー25m種目	6.17.5.g
ファイナルー得点の発表ー25mラピッドファイアピストル	6.17.4.g
ファイナルーファイナリストの紹介	6.17.1.12
ファイナルーファイナリストの人数ー10m/50m種目	6.17.1.1
ファイナルーファイナリストの人数ー25m種目	6.17.1.1
ファイナルーファイナルにおける抗議ー裁定	6.17.6
ファイナルーファイナルにおける抗議ー得点に関する抗議	6.17.1.7
ファイナルーファイナルの演出と音楽	6.17.1.11
ファイナルーファイナルの遅れ	6.8.12
ファイナルーファイナル前の選手と用具のチェック	6.17.1.3
ファイナルーファイナル前の用具検査	6.17.1.3
ファイナルー本選ーフルコース	6.17.1.1
ファイナルーメダリストの紹介	6.17.1.14
ファイナルー役員	6.17.1.10
ファイナルールールと手順	6.17.1.13
ファイナルでの失格	6.12.6.2.c
ファイナルのあるオリンピック種目の同点	6.15.4
ファイナルの開始の遅れ	6.8.12
フィールドオブプレイ	6.11.8.f
不規則弾痕（イレギュラーショット）ー10m、50m、300m	6.11.5
服装と用具	6.7
服装規定ー適切な服装	6.7.6
物質ー射座にまくこと	6.11.8.b
不当な有利ー他の選手より	6.7.1
フラッシュ撮影禁止の時間	6.11.8.g

プリンター用紙へのサインー電子標的	6. 10. 4. f/. g
プリンター用紙へのサインもれー電子標的	6. 10. 4. g
別の射座への移動	6. 10. 9. 4
ペナルティカード	6. 12. 6. 2. abc
妨害	6. 11. 7
本射後の試射	6. 11. 1. 2. c
本射後の発射ガスの放出	6. 11. 2. 2
本射の開始	6. 11. 1. 2
本射前の試射	6. 11. 1. 1
右利き/左利き	6. 1. 2. g
耳の保護	6. 2. 5
迷彩生地	6. 20. 10
明白な反則	6. 12. 6. 1. a
メインスコアボード	6. 4. 2. i
目かくし板（ブラインダー）	6. 7. 8
目の保護	6. 2. 6
メディアのための設備	6. 4. 2. s
モニター画面全面が見えること	6. 10. 4. d
役員、選手、観客エリア	6. 4. 1. 5
役員または選手に対する暴力行為	6. 12. 6. 4
要求照度ー屋内射場	6. 4. 14
用具検査ー“one-time-only” タグの有効性	6. 7. 6. 2. e
用具検査ー器具ー厚さ測定装置	6. 5. 1
用具検査ー器具ー固さ測定装置	6. 5. 2
用具検査ー器具ー靴底柔軟性測定装置	6. 5. 3
用具検査ー器具、ゲージ	6. 5
用具検査ー再検査料金	6. 7. 6. 2. i
用具検査ー選手およびチーム役員への通知	6. 7. 6. 2. a
用具検査ー選手の責任	6. 7. 2
用具検査ージュリーの監督	6. 8. c
用具検査ー他の選手より不当な有利	6. 7. 1
用具検査ー用具と銃器のマーキング	6. 7. 6. 2. e
用具検査ー用具の使用前の検査	6. 7. 6. 1
用具検査ー用具の登録	6. 7. 6. 2. f
用具検査の手順	6. 7. 6. 2
用具と競技用服装	6. 7
様式	6. 19
予選種目	6. 6. 6. 1
予選の公式	6. 6. 6. 1. d

予備射座への移動	6.10.9.2.a
予備銃－故障	6.13.3
ライフル種目および10m、50mピストル種目のルール	6.11.1
料金－抗議と上訴	6.16.4
ルール違反－隠蔽された	6.12.6.1.b
ルール違反－明白な	6.12.6.1.a
ルール違反－ペナルティ	6.12.6.2
ルール違反のペナルティ	6.12.6
ルールの熟知	6.1.2.e
練習－全般	6.6.3
ロール紙やゴムバンドの異状	6.10.6

日 競 技 規 則 (2018)

付則 紙標的に関するルール

序文

2017-2020 ISSFルールの開始にあたり、ISSF紙標的の採点に関するルールはISSFゼネラルテクニカルルール、ライフルルールおよびピストルルールから外されISSFゼネラルテクニカルルールの付則として整理統合された。オリンピック大会の射撃競技およびすべてのISSF世界選手権大会、ワールドカップ大会およびジュニアワールドカップ大会では、電子標的によって運営されなければならないが、ISSFは、大陸選手権大会や国内、地域およびクラブレベルでの競技会については紙標的を使用することを認めている。この紙標的に関するルールは紙標的を使用する競技会の運営において有効であり、その他のISSFルールはこのこと以外のすべての競技会運営において適切に運用されなければならない。

1.0 紙標的および採点ゲージ

1.1 公式ISSF標的

1.1.1 すべてのISSF公認標的の標的および得点圏の直径および仕様明細は6.3.4に記述してあるとおりである。

1.1.2 標的は同心円状に各得点圏に分割されている。各得点圏の直径は各得点圏の最外端（外側直径）までを測定したものである。

※1.1.3 ISSF選手権大会では、ランニングターゲットの標的を除き、1枚の標的紙に1個の標的しかないもの（一文的）しか使用は認められない。

1.1.4 試射的には右上隅に明瞭な黒い斜線を入れなければならない。その斜線は通常の光条件下で規定の距離から肉眼ではっきりと見えるものでなければならない（25mラピッドファイアピストル用および50mランニングターゲット用を除く）。

1.2 紙標的の必要条件（ISSF選手権大会のみ適用）

※1.2.1 ISSF選手権大会に用いる紙標的は大会の行われる少なくとも6ヶ月前にそれぞれの見本5部をISSF事務総長に送付してISSF規格に適合するか否かの認定を受けなければならない。

1.2.2 すべての標的は、各ISSF選手権大会の開始前に、テクニカルデレゲートによりその紙質と規格寸法の再検査を受ける。認定されたものと同じ標的のみ、使用することができる。

1.3 標的の採点

1.3.1 標的は1.4（下記）の規格に適合した採点ゲージによって採点されるかまたはISSFの公認した電子標的採点機によって採点されなければならない。

1.3.2 ライフルとピストルの標的は整数値で採点できるかまたは電子式紙標的採点機を使用する場合は小数値で採点できなければならない。小数値の得点圏は整数値の得点圏を10等分したもので、その得点は0（例：10.0、9.0など）から始まり9（例：10.9、9.9など）で終わるものである。

1.3.3 標的紙は無反射性の色と紙質のものとし、規定の距離における通常の光線条件の下で黒点圏がはっきりと視認できるものでなければならない。紙質や印刷された得点圏はどのような気象条件下においても、その寸法を保持するものでなければならない。紙質は過大な破断やゆがみを生じることなしに、弾痕をとどめるものでなければならない。

1.4 採点ゲージとその使用法

紙標的を使用するときは、得点の疑わしい弾痕の採点にはISSFの公認した電子標的採点機または採点ゲージが使用されなければならない。採点ゲージは以下の必要条件を守らなければならない。

1.4.1 25mセンターファイアピストル

つばの直径	9.65mm (+0.05 ~ -0.00mm)
つばの厚さ	約0.50mm
心棒の直径	それぞれの弾径に合った太さ
心棒の長さ	10mm ~ 15mm
使用される種目	センターファイアピストル種目

※1.4.2 300mライフル

つばの直径	8.00mm (+0.05 ~ -0.00mm)
つばの厚さ	約0.50mm
心棒の直径	それぞれの弾径に合った太さ
心棒の長さ	10mm ~ 15mm
使用される種目	300mライフル種目

1.3.4 スモールボアライフルおよびピストル5.6mm(22口径)

つばの直径	5.60mm (+0.05 ~ -0.00mm)
つばの厚さ	約0.50mm
心棒の直径	5.00mm (+0.05mm)
心棒の長さ	10mm ~ 15mm
使用される種目	5.6mm弾を使用するすべての種目

1.4.4 4.5mm内線ゲージ

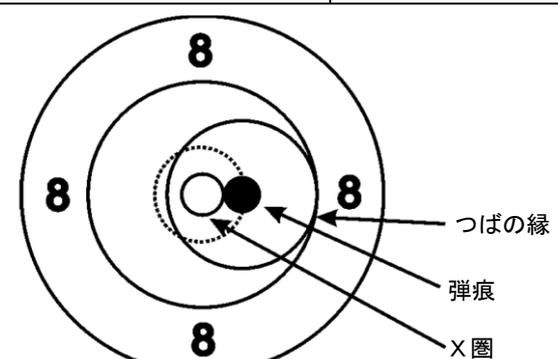
つばの直径	4.50mm (+0.05 ~ -0.00mm)
つばの厚さ	約0.50mm
心棒の直径	つばの直径マイナス0.02mm (4.48mm)
心棒の長さ	10mm ~ 15mm
使用される種目	エアライフル種目の1点および2点圏の判定 エアピストル種目の1点圏の判定

1.4.5 エアピストル外線ゲージによるエアライフルのX圏の判定

	<p>エアピストル外線ゲージのつばの外縁がエアライフル標的の7点圏の外側に出ていなければ、X圏（インナーテン）となる。</p>
--	---

1.4.6

エアピストルX圏外線ゲージによるエアピストルのX圏の判定

つばの直径	18.0mm (+0.00 ~ -0.05mm)
つばの厚さ	約0.50mm
心棒の直径	4.60mm (+0.05mm)
心棒の長さ	10mm ~ 15mm
使用される種目	エアピストル種目のX圏の判定
	
<p>エアピストルX圏外線ゲージのつばの外縁がエアピストル標的の9点圏の外側に出なければ、X圏（インナーテン）となる。</p>	

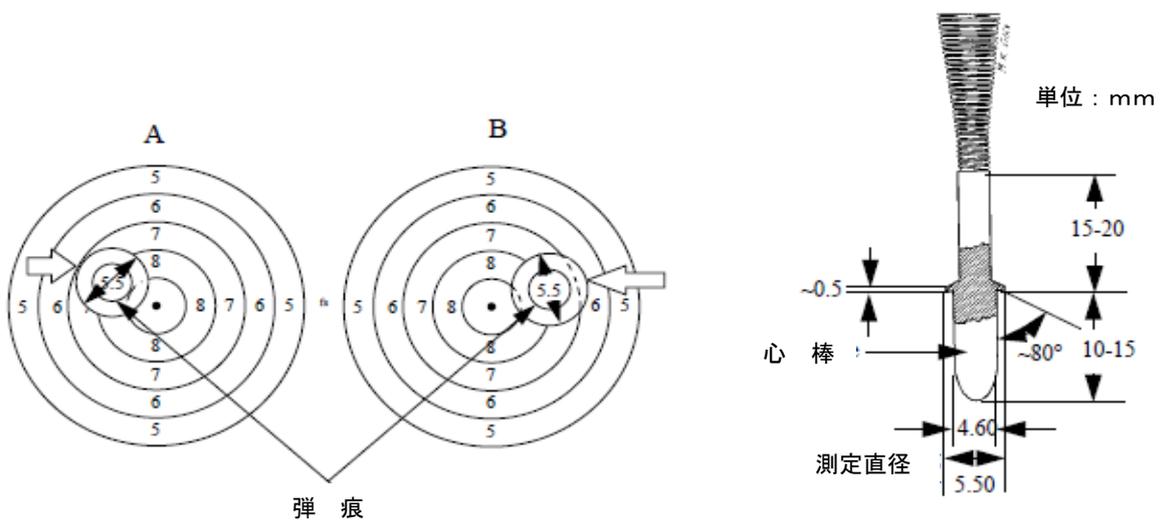
1.4.7

10mエアライフル用4.5mm外線ゲージ

つばの直径	5.50mm (+0.00 ~ -0.05mm)
つばの厚さ	約0.50mm
心棒の直径	4.60mm (+0.05mm)
心棒の長さ	10mm ~ 15mm
使用される種目	10mエアライフル種目の3~10点圏の判定

1.4.8

エアライフル外線ゲージの使用法



A : つばの外側の縁が7点圏の内側にあるので、得点は9点となる。

B : つばの外側の縁が7点圏を超えて6点圏にあるので、得点は8点となる。

1.4.9

10mエアピストル用4.5mm外線ゲージ

つばの直径	11.50mm (+0.00 ~ -0.05mm)
-------	---------------------------

ればならない。

c) バッキングターゲットは標的の白い部分と似た色の非反射紙で作られていなければならない。

d) 25m種目では各選手のステージごとに新しいバッキングターゲットが提供されなければならない。

2.3 標的交換装置

2.3.1 10m射場には1発ごとに標的交換が可能な標的キャリアーまたは標的交換機が設置されていなければならない。

2.3.2 50m射場には1発ごとに標的交換が可能な標的交換機、標的キャリアーまたは監的壕が設置されていなければならない。

2.3.3 300m射場には1発ごとに標的を引き寄せ採点することができる標的キャリアーが設置されていなければならない。

2.4 記点係がつく場合に射座に必要な備品

2.4.1 記点係用の机と椅子各1脚と監的用スコープ1台が提供されなければならない。

2.4.2 記点係が観客に選手の得点を仮発表するための約50cm×50cmのスコアボード1枚。スコアボードは、観客が選手を見るのに邪魔にならないところで、観客が容易に見ることができる位置にあるべきである。

2.5 25m標的回転装置の設置基準

25mラピッドファイアピストル種目の標的枠は5的を1グループとして、すべての標的が+1cm以内の同じ高さで、同調して機能することおよびグループの真中の標的を中央とする射座に正対するように設置されなければならない。5的1グループ中の各標的の中央間、軸から軸、は75cm(+1cm)でなければならない。

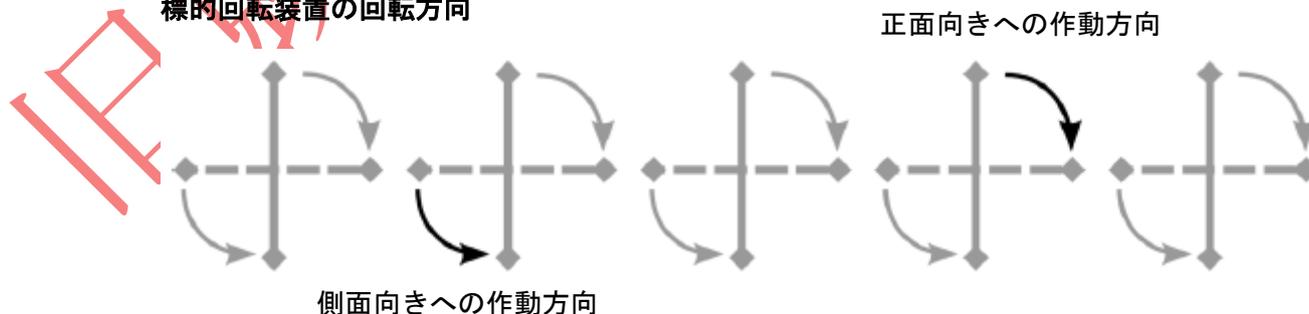
2.5.1 射場には垂直軸を中心として90°(±10°)の角度で回転する標的回転装置が設置されなければならない。25mピストル種目の精密射撃では固定標的枠を使用してもよい。

※ a) 回転時間は0.3秒以内でなければならない。

b) 標的が回転し終わったとき、選手を惑わすような目に見える振動があってはならない。

c) 上から見て、標的は時計回りに回転し正面向きとなり、反時計回りに回転して側面向きとならなければならない。

標的回転装置の回転方向



d) 各セクション内の全標的は同時に回転しなければならない。同時回転は、効率的な操作と正確な時間を提供できる機械装置によって行われなければならない。

2.5.2 自動回転制御装置は、規定時間正面向きの位置を維持し、規定時間(+0.2秒~0.0秒)

が経過すると側面向きの位置に標的を戻すという動作と時間を正確に変動なく作動することを保証するものでなければならない。

- a) 規定時間は標的が正面向きに回転する瞬間に始まり、側面向きに回転する瞬間に終わるものとしなければならない。
- b) もし計測した時間が規定時間に足りないかまたは0.2秒より長いときは、射場役員は自分自身またはジュリーの指示により計時装置の調節のため射撃を中断しなければならない。そのような場合、ジュリーは射撃の開始または再開を遅らせることができる。

2.5.3

25mピストル種目の本選の標的正面静止時間は、

- a) 25mラピッドファイアピストル：8秒、6秒、4秒
- b) 25mスタンダードピストル：150秒、20秒、10秒
- c) 25mピストルと25mセンターファイアピストルの速射ステージ：1発ごとに3秒間正面を向き、次の7秒間（±0.1秒）側面を向く。
- d) 正面静止時間の許容差は+0.2秒～0.0秒である。

2.5.4

固い材質のバックボードが使用される場合、採点を容易にするために、標的の8点圏より内側にあたる部分は切り取られるかまたは段ボールで作られていなければならない。

3.0

競技役員の仕事

3.1

ジュリーの仕事—25m種目のみ

- a) 紙標的を使用する25m種目では、各セクションまたは5～10射座ごとに1名のRTSジュリーおよび/またはピストルジュリーが任命されなければならない(すなわち1名の標的役員に対して1名のジュリーが任命される)。ジュリーは標的役員と標的線にて行動を共にしなければならない。
- b) ジュリーは採点をはじめる前に、標的上の正確な弾痕数、得点圏線付近などを観察し標的を調べ、チェックしなければならない。疑わしい状態は採点を始める前に解決されていなければならない。
- c) 疑わしい状態の裁定は、2人のジュリーおよび標的役員が同時に行わなければならない。この場合、ジュリーの一人が主任を務め、ゲージの挿入が必要な場合はその任にあたる。
- d) 標的線にいるジュリーは標的線において第二記点係が記録したすべての結果が正確であることおよびジュリーの裁定が採点票に正しく記録されていることを確認しなければならない。
- e) ジュリーは、疑わしき状態が解決され、得点が第二記点係によって正確に記録されるまでは、弾痕を治痕せず、また着色円板で弾痕の表示をさせてはならない。

3.2

記点係の仕事と職務

紙標的が使用される場合、記点係を各射座ごとに任命してもよい。

- a) 記点係は得点票と速報板に関連する情報(選手の名前、Bib番号、射座番号など)を記入するか、または記入してあるものを確認しなければならない。
- b) 遠隔操作される標的交換機を使用している場合、記点係には監視のスコープが用意されなければならない。記点係が標的交換を行う場合、選手に弾着確認の時間を与えるため、標的交換の合図を送る前に数秒待たなければならない。
- c) 記点係は得点票に仮得点を記入し、その得点を観客のために机の上方または側方に備え

られた速報板に記入しなければならない。

- d) 射撃線まで標的が戻ってくる装置のある射場においては、記点係は撃ち終わった標的を10発の1シリーズごとにすみやかにまとめて回収し、標的運搬係がRTS室に標的を運ぶための鍵のかかる容器に収納しなければならない。

3.3 標的役員および監的役員の任務と職務 — 50mおよび300m射場

監的役員の数は射場役員の数と同数にすべきである。監的での作業において、監的役員は割り当てられた射場セクションや標的群の標的を、選手の次弾の発射のために、素早く交換、採点、示点、再掲示することを確実に行うことに責任を負う。

- a) 監的役員は標的の白い部分に弾痕がないことを確認するとともに、標的枠上のどのような弾痕についても明確に印が付けられていることを確認しなければならない。
- b) 標的上に弾痕が無かった場合、監的役員は近接の標的への弾痕の有無を判定することと、ジュリーおよび射場役員と協議して、事態を解決する責任を負わなければならない。
- c) 自動標的交換機が使用される場合、監的役員は交換機に正しい標的を装填するとともに撃ち終わった標的を取り出しRTS室に運ぶ準備をする責任を負わなければならない。
- d) 標的上に生じるあらゆる不測の事態について印を付け記録する責任を負わなければならない。

3.4 25m標的役員

標的役員は標的グループの各セクションまたは5～10射座ごと任命されなければならない。標的役員と射場役員は同数でなければならない。

- a) 標的役員は割り当てられた標的グループに対して責任を負わなければならない。
- b) 標的役員は得点の紛らわしい弾痕についてジュリーに注意を促さなければならない。採点がなされた後、標的役員は発射弾の位置および点数を示点しなければならない。
- c) 標的役員は標的を速やかに、正確に、能率的に採点し、治痕し、ルールに従って標的交換を行わなければならない。
- d) 標的役員は射場役員およびジュリーと協力しISSFルールに従って疑わしい事態の解決を補助しなければならない。

3.5 25m第二記点係 — 紙標的

25m種目のすべてのステージの公式採点は射場にて行われる。第二記点係は標的線において、標的役員が呼び上げた点数を記録用紙に記入しなければならない。記点係に記録された得点と第二記点係のそれとが異なり、解決できない場合は、第二記点係のものが有効となる。

3.6 25m標的治痕係 — 紙標的

採点が完了後、標的治痕係は、標的、コントロールシートおよびバックターゲット上の弾痕を治痕し、指示に従って、標的やコントロールシートの交換を行なう。

4.0 競技手順

4.1 10mエアライフルおよびエアピストルの紙標的的操作

- a) 標的交換は射場役員の監督のもと、選手によって行われる。
- b) 選手は正しい標的に射撃する責任を負う。
- c) 選手は10発の各シリーズが終了したら直ちに10枚の標的を記点係が受け取りやすい場所に置かなければならない。記点係はその標的を標的運搬係がRTS室に標的を運ぶ

ための安全な箱に格納しなければならない。

4.2 50mライフルおよび50mピストルの紙標的操作

- a) 自動標的回収機または自動標的交換機が使用される場合、選手または記点係によって標的交換を行うことができる。
- b) いずれの場合でも、選手は正しい標的に射撃する責任を負う。
- c) もし選手が標的交換が遅すぎると思った場合、選手は射場役員にその旨を申し立てることができる。射場役員またはジュリーはその申し立てが妥当であると判断した場合、事態を改善しなければならない。事態が改善されていないと選手またはチーム役員が思った場合、選手やチーム役員はジュリーに抗議できる。ジュリーは最大10分間の延長時間を認めることができる。本射の最後の30分間には、特別の事情がない限り、この申し立てを行うことはできない。

4.3 紙標的上の超過弾

- a) 選手が種目の規定標的撃ち込み数以上の弾を1枚の本射的に撃ち込んだ場合、最初の2発まではペナルティは科されない。
- b) その種目での3発目以降は1発につき2点の減点がペナルティとして科せられる。
- c) 2点の減点は3発目以降の超過弾の生じたシリーズに科せられる。選手は超過した分を次に続く標的の中で減らして撃たなければならない。こうして発射弾数が要項で示された数を超えないようにする。
- d) この場合の採点要領は超過弾の得点を規程弾数に満たない標的に移す方式で行われる。したがって各標的には要項やルールに規定された弾数が撃ち込まれたことになる。
- e) どの弾痕を移すべきか明確でない場合、最も低い得点の弾痕を次の標的に移すかまたは最も高い得点の弾痕を前の標的に移さなければならない。こうしてこの選手が同点の順位決定での“カウントバック”で有利にならないようにする。
- f) ライフル三姿勢種目は1種目として考える。

4.4 試射が認められた場合

選手が妨害を受けたり、別の射座に移動したときには本射中であっても試射をすることが認められる。この際、新しい試射的の挿入ができない自動標的交換機が使用されている場合、その試射は次の未使用の本射的に行われるべきである。そして、その次の本射的に射場役員またはジュリーの指示に基づき2発の本射弾が撃ち込まれるべきである。

5.0 採点手順

5.1 次の種目で紙標的を使用する場合、標的はRTS室で採点されなければならない。

- a) 10m、50mおよび300mのライフル種目。
- b) 10mおよび50mのピストル種目
- c) 10mおよび50mのランニングターゲット種目
- d) 射場において採点された種目やステージの結果はすべて仮発表とみなされる。

5.1.1 RTSジュリーはRTS室や紙標的が使われるときの25m標的線で行われる採点およびその他すべての作業について監督しなければならない。疑わしい発射弾をどのように採点するのか、得点の決定および質問や得点に関する抗議を解決することを指揮監督する。

- 5.1.2 R T S室で採点される種目のすべての標的は鍵付きの容器に入れられて、射撃後速やかに射撃線からR T S室まで運ばなければならない。
- 5.1.3 R T S室で採点される種目の本射的は番号が付けられなければならない。得点票と一致していなければならない。R T S室は標的番号の正確を期する責任を負っており、各種目の標的が射場長または射場役員に渡される前に、その正確性を確認しなければならない。
- 5.1.4 R T S室では、次の採点手順が第二R T S役員によってチェックされなければならない。
- 各発射弾の得点の確認。
 - X圏（インナーテン）の数の確認。
 - 得点の集計および減点の計算。
 - 各シリーズの得点と総合計の計算。
 - 各R T S役員は、標的、記録用紙または成績表に頭文字をつけることによって、自分の仕事であることを認証しなければならない。

5.2 発射弾の得点—紙標的

- 5.2.1 弾痕はすべて、その弾痕が位置する得点圏または圏線の高位点に接している場合の上位点として採点される。圏線のどの部分かにでも弾痕がふれている場合は、2つの得点圏のうちの高位点が与えられる。このような判定は弾痕またはゲージのつばが圏線の外縁のどこかに触れている場合に下される。

この規則の例外はエアライフル標的のX圏の判定に関するものである。

- 5.2.2 問題のある弾痕の得点はゲージやその他の装置によって決定されなければならない。ゲージは常に標的を水平にした状態で弾痕に挿入されなければならない。

- 5.2.3 2発以上の弾痕が接近したり、穴の破れがひどかったり、重なり合っていてプラグゲージを正確に使うことが難しい場合は、平らで透明な素材に弾痕の正確な大きさが刻印されたゲージを用いて点数が決定されなければならない。このような採点ゲージは圏線や弾痕の正確な位置を再現する際に助けとなる。

- 5.2.4 2人のR T S役員の点数が一致しない場合、即座にジュリーによる裁定を求めなければならない。

- 5.2.5 採点ゲージはどの弾痕においても一度だけ、ジュリーによってのみ挿入される。このため、ゲージを使用した場合には、その標的上にR T S役員により採点者の頭文字（イニシャル）と採点結果とともに印が付けられなければならない。

5.3 25m種目紙標的採点手順

ジュリーは採点手順を監督しなければならない。得点票（第二記点係が保持）は標的役員と標的線ジュリーがサインをしなければならない。得点票の原本は付加事項と最終記録を確認するために、安全な方法によって、R T S室に送られなければならない。

5.3.1 スキッドショット（斜め弾痕）

- ※ a) 標的の回転中に発射された弾は命中弾として採点されてはならない。ただし水平方向の弾痕の大きさが25mリムファイア5.6mm（.22口径）弾では7mm、25mセンターファイアピストル弾では11mmを超えないもの（標的面上の鉛または弾頭の痕跡は計測に含めない）については有効弾として採点されなければならない。
- ※ b) 標的上の水平方向に伸びた弾痕の大きさはスキッドゲージで判定されなければならない。

ゲージに刻まれた線の内側が標的の圏線に触れる場合、点数の高い方を得点として採点する。

5.3.2 標的役員は射場が安全であるという合図を受け取ったら、すぐに標的を選手のほうに向けなければならない。標的役員は、少なくとも1名のジュリーを伴い、各標的の弾痕の得点を示し、射撃線にいる記点係にその得点を大きな声で伝えなければならない。記点係はその得点を個票および/または速報板に記録する。第二記点係は標的役員に同行し、標的役員が読み上げる得点を得点票に記録しなければならない。標的上の弾痕の位置と得点は、次の方法によって、選手と観客に表示されなければならない。

- ※
- a) 25mラピッドファイアピストルの場合、色の付いた弾着表示円板が用いられる。円板の大きさは直径30mmから50mmであるべきである。また、片面が赤色でもう一方の面は白色でなければならない。そして直径約5mm、長さ約30mmの心棒が両面の中心から出ているものであるべきである。5発シリーズごとに、得点が決定し、発表された後、標的役員によって、この円板が弾痕に差し込まれなければならない。
 - b) 10点は選手に赤色面を向けて示されなければならない。9点以下は選手に白色面を向けて示さなければならない。この様にして弾痕が表示された後、シリーズの合計点は標的線近くの小型の得点板に表示され、第二記点係によって記録されなければならない。シリーズの合計点も読み上げられなければならない。その後で、円板は取り外されなければならない。そして標的は治痕される。
 - c) 25mスタンダードピストル、25mピストル、25mセンターファイアピストルの場合、得点と弾着の位置は指示棒で表示される。指示棒は約300mmの長さの柄の一端に直径30mmから50mmの円板が取り付けられたもので、その円板は片面が赤色でもう一方の面が白色となっている。標的役員はその弾の得点が10点なら赤色面を選手に向けて、9点以下なら白色面を選手に向けて円板を弾痕の上に置き、得点を読み上げなければならない。同じ標的に撃ち込まれた1シリーズの弾痕は、10点のものから読み上げられるべきである。シリーズの合計点は個々の弾痕が表示された後に、読み上げられるべきである。
 - d) 試射も表示され、記録されなければならない。

5.3.3 標的役員と射場役員は掲示板の結果と標的線で記録したものが同じであることを確認しなければならない。得点に関して意見が分かれた場合は速やかに解決しなければならない。

5.3.4 弾痕が表示され、記録されたら、直ちに、

- a) 標的は治痕されて、次のシリーズの準備がなされなければならない(ラピッドファイアピストル種目や速射ステージ)。または、
- b) 次のシリーズのために標的が交換され、バックターゲットも治痕されるか、交換されなければならない。または、
- c) 次の選手のため、使用済みの標的とバックターゲットは迅速に取り除かれ、新しい標的と新しいバックターゲットに交換されなければならない。

5.3.5 完成した得点票は、選手が射場から出る前に、合計点の横に選手によってサインされるべきである。

5.4 同点の順位決定

同点の場合の順位決定は 6.15 に従って行われる。

5.5 紙標的の得点に関する抗議

5.5.1 紙標的が使用される場合、採点や集計に誤りがあると思った選手またはチーム役員はその得点に関し抗議をすることができるが、その得点がゲージを用いて採点された点数であった場合、それは最終的なものであり、抗議することはできない。得点に関する抗議はそれぞれの弾に対してのみ行うことができる。別の弾に関して抗議する場合にはそれぞれに対して抗議料の支払い義務が生じる。

5.5.2 得点に関する抗議はゲージが用いられてない採点または公表された順位表や得点表に誤記があった場合のみ行うことができる。

5.5.3 抗議料（50.00ユーロ）は抗議が行われた時点で支払われなければならない。

5.5.4 紙標的が使用されRTS室で採点されている場合、チーム役員または選手は抗議に係る弾痕を見る権利を持つが、標的に触れることは許されない。

6.0 300m種目の採点および示点手順

6.1 示点係は標的に向けて射撃されたという合図を受けたら、すぐに示点をしなければならない。示点は次の方法に従って行われなければならない。示点係は合図を受けたら速やかに以下のことを行われなければならない。

a) 標的を下げる。

b) 弾痕を透明ステッカーで覆い、その上に対照色のステッカーを重ねて貼り弾痕の位置を示す。

c) 標的を上げる。

d) 示点円板を使用して得点を示す。

6.2 示点円板を用いて点数表示を行う場合、直径200～500mmの円板で、一面が黒色もう一面が白色に塗られ、通常その白色面の中心から右側に30～50mmの細い棒が取り付けられた物を用いなければならない。

6.3 弾痕の得点の表示は次のように行われる（図参照）。

a) まず、当該弾痕の位置が示されなければならない。

b) 1～8点の得点は、円板の黒色面を射撃線側に向け、後の図に示す位置に適切に円板をあてることにより示されなければならない。

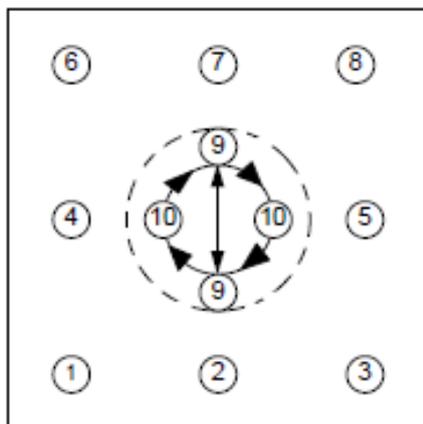
c) 9点の場合は、円板の白色面を射撃線側に向け、標的の黒点圏の中央部の前を2回上下させなければならない。

d) 10点の場合は、円板の白色面を射撃線側に向け、後の図に示されるように、標的の黒点圏に沿って右回りに2回転させなければならない。

e) 標的に当たらなかった弾については、円板の黒色面を選手側に向け、標的の前面で3～4回左右に動かすことで示される。

f) 標的上の弾痕が0点の場合は、まず前項の0点の表示を行い、その後弾痕の位置を示す。

6.4 示点表示図



- 6.5 試射的には、標的の右上隅に黒い射線を入れ、明確な印が付けられなければならない。その線は通常の光条件下で適切な距離から裸眼ではっきりと見えなければならない。監的壕で標的交換をする場合、本射中は試射的を上げてはならない。

日鏡技規目(2018)